

川をきれいにしよう

川の汚れは心の汚れ

200万市民の願いをこめて

矢田・庄内川をきれいにする会



ごあいさつ

矢田・庄内川をきれいにする会

代表世話人 丹羽 秀 義

矢田・庄内川をきれいにする会発足以来満5年を迎え運動の歩みを編纂するにあたりまして、本山名古屋市長さんを始め各界諸先生ならびに沢山の皆さんから寄せられた暖かい御理解と御協力を深く感謝致します。

きれいな流れにアユが住み、数多いロマンが生れ、そして四季を通じ楽しい思い出を私は矢田川・庄内川と共に生きてまいりましたと申しますのも昭和30年頃まででした。陶都瀬戸・土岐・多治見を上流にもつ庄内川は高度経済成長、国土乱開発によって白濁の川となりました。更に地方自治体はこぞって大企業誘致に血道を上げ、愛知県は春日井に王子製紙を誘致しました。

その廃液は悪臭を放ちヘドロで黒く汚れ、白い汚れと競い合いやせ衰えて見る蔭もない庄内川となりました。私は国土開発高度経済成長企業誘致が悪いと申しているのではありません。施政の方針が経済発展のためなら川は少々汚れてもやむを得ないと言う政治行政に便乗した企業の社会責任を聊かも感じない儲け主義は公害となって苦しみを沿岸住民に与え、悔いを千歳に残すことになりました。

私達にもこうした政治行政を見越し許してきた責任を感じない訳にはまいりません。去る5年前マスコミは見出しに、もうだまっていられないと沿岸住民が矢田・庄内川をきれいにする会を設立し、立ち上がると紹介されました。私達の悲願である次代の青少年にきれいな水と暖かい社会づくりを目指し、会員の皆さんとスクラムを組んで明るく楽しく美しくのテーマ活動が力強く精力的に進められ大きな広がりとなって今日に至りました。私はこの機会に立ち上がりから現在までの運動内容を会の内外に向けて、かいつまんでお話し申し上げ理解して頂ける皆さんと共に、更に輪を広げて参りたいと存じます。

先ず運動の第一歩は県市民にいかに川を見せ、川の実態を知ってもらうかに置き、一般大衆の目と足を川に集める行事が次の通りに進められました。川の汚れは心の汚れの看板100本を立てる。王子製紙廃液夜間放水写真展を行ない会のシンボルマークバッヂを作成しバッヂで大行進となり、少年部の手によるテーマソング川の歌の発表会が盛大にくり広げられ、又一方では食べられない魚釣り大会食べられるかも知れない魚釣り大会と計8回に及び、天然アユ生息追跡調査が今も尚続行されるなかでアユ救出作戦が行なわれました。

次に庄内川銘石展が開かれるに及んで、川の歴史と貴重な資源の重要性が高まり大きな関心呼びました。また魚の放流もしました。4回の公害防止と自然環境保全の映写会。桜の銀行を設立し記念植樹も行ないました。まだまだ色々ありますが私達の運動が如何に世情に反映したかを上げてみましょう。各行事を通じて、新聞・ラジオ・テレビと大々的に報道人が取りあげたとは申せ予想外に多く県市民の皆さんが各行事に参加され、手紙・電話の激励も枚挙にいとまがありませんでした。

ユーモラスで誇り高いバッヂが一人一人の胸に五千名に及び嬉しく力強い成り行きとなり、大きな力を得た私達の運動を行政はどのように受け止め、どのように答えたかであります。そこで名古屋市にスポットを当ててみました。私達の堀川浄化作戦に合わせるかのように王子製紙廃液正月休みできれいな庄内川の水を堀川へ導入し浄化を計る。その年の秋、市は堀川上流の川沿いの清掃を住民参加一体となって行ないました。川の汚れは心の汚れの樹立百本記念看板は、本山市長さんの手で堀川に立てられました。

それに矢田川上流の瀬戸川にも看板が加藤瀬戸市長さんの手によって立っています。次は守山下水処理場に暖かい社会づくりに楽しい思い出の花を咲かそうと、本山市長さんを迎えて桜の銀行記念植樹祭が盛大に行なわれ、水分緑地公園も共に新設されました。それを受けて地元会員が中心となり、水分緑地愛護会が発足し公共物に対する公德心の高揚と温かい町づくりが進められています。

聞くところによりますと全国に釣り人は1,200万人とも言われています。釣りを楽しむ人は川に海に異常な愛着を持っています。それを証明してかきれいにする会の中に釣場浄化を目指す山彦釣りクラブが誕生しました。そんな頃私達は理解ある釣り人に向けて手近な川と海をきれいにし、手近な処によい釣り場をみんなで作りましょうと呼びかけました。

市側に対しては川に海に安全で手近なよい釣り場作りを再三の申し入れと話し合いに、この4月中旬には安全な釣り場と市民憩いの場として猫洞の池を開放し、水は山崎川に落し浄化にひと役買うと知らされ、名港には釣り公園の建設を計画中と発表されました。私達は一日も早く実現を促す運動に取り組んでいます。

さて、愛知県はと申しますと私達の魚族保護を目指すアユ救出作戦と関連深い天然アユ生息追跡調査(今も続行中)の活動に動かされてか9年間中止していた庄内川にアユの放流が再開され、明るい話題を呼びました。次に県民の願いである野鳥と魚の住める川への声には護岸工事を矢田川中流と庄内川下流に小範囲ながら魚の繁殖出来るそだ工法が採用されましたが、それは真の解決より程遠いもので川に住む動植物の生命は水であることが忘れられ、県民に見せる行政であり真の解決には王子製紙のあり方において外にないと思います。そんな頃きれいにする会の活動を名古屋市は教育委員会婦人ボランティア活動実践集の中で、愛知県は美しい環境づくり活動事例集でそれぞれ大きく紹介され、行政の中にいくつかの足跡が残されています。

全国に広がる住民運動の決起は大変な数に昇っています。きれいにする会もその一つであり状況・問題・事柄は地域によって異っていても、その起因するものは政治行政のひずみに対する不平不満によるものが大半であり、だからと言ってエゴは許されません。

また住民運動は政党色があってはいけないとの御意見があります。全くその通りで然しながら私達の運動を妨害反対し障害が生じ運動の精神に馴染まない政党を支持する訳にはまいりません。私達は二度と悔いを後世に残さないためにも、政治の動向には厳しい監視を怠らず行政には進んで参加し、住民本意の行政施行を促すことに勤めなければなりません。

今私達が一日もゆるがせにできない問題に環境アセスメント条例設定促進の運動が急務事項となっています。条例の内容は別としても如何なる理由にせよ、聊かも他人に迷惑を掛けてはいけません。被害者に対し加害者負担の原則などはごく当り前の社会ルールでありその常識に照して、王子製紙はどのように企業責任を感じているかであります。王子が地域繁栄に大きく貢献したとしましても、空に大気汚染を撒き、川に悪臭とヘドロを伴う廃液を流し続ける繁栄に対し、環境破壊の代償も又大と言わなければなりません。

大企業のこのような実情を踏まえ、運動の困難とむずかしさに怯まず悲願達成に向けて力強く、息長く次の世代のために歩き続けてまいります。今後共理解ある皆さまの御協力を御願い致し御挨拶に代えさせていただきます。

昭和54年3月24日

目

次

第一部 矢田・庄内川をきれいにする会 あゆみ

会のあゆみ	1
目をさました住民たち	7
会のたんじょう	8
庄内川に対する知事の関心度は？	9
行動第一歩	12
入会希望殺到	13
うけざらである伊勢湾・いつまでもつか問題	14
市民の目を庄内川に向けさせるために！	15
看板のお金出す人、作る人それに逆にこわす人	16
堀川の浄化	17
木曾川導水にかくされた問題点	18
第1回食べられない魚釣り大会	19
第2,3回食べられない魚釣り大会	20
作文	21
汚れ落として命ちぢめる	22
庄内川六価クロム日本一	23
シンボルバッヂ出来上る	24
名古屋市民へお年玉	25
堀川の浄化を考える	27
堀川の浄化も私たちの使命	28
きれいにする会テレビで紹介	29
幼ないころの思い出に	30
行政に力を貸したきれいにする会	31
庄内川は天然石の宝庫	32
バッヂで大行進	33
浄化のテスト	34

矢田川の上流瀬戸市の協力	35
遊びの中から川の現状をさぐる	36
山彦会会則	37
11年ぶり天然アユ発見庄内橋で採取	40
川の監視コイに委託	41
看板100本目市長がくいうち	42
魚死なせた代償にコイ放流	43
庄内川の汚染源王子製紙も有力	44
上流は発言する	48
第1回「健康と環境を守れ」愛知の一斉行動デー	49
鮎救出作戦	50
第2回食べられるかも知れない魚釣り大会試食会	51
鮎53年救出作戦	52
さくらの銀行植樹祭準備次代の青少年によい環境を	53
植樹祭式典	54
守山下水道処理場内植樹祭見取図	55
第2回「健康と環境を守れ」愛知の住民一斉行動デー	56
運動4年目魚はどうか	58
第3回食べられるかも知れない魚釣り大会	59
二年前からの会の提唱	61
ミズ みず 水	62
庄内川の歴史	63
庄内川水系に立てられた看板あれこれ	64

第二部 次代の青少年にきれいな水とあたたかい社会づくり

街づくり	名古屋市長	本山政雄	65
住民運動と政治	衆議院議員	田中美智子	67
自湧水と土岐川漁協	土岐川漁協組合長	土屋保一	67
バッヂ製作者の弁	日本福祉大学教授	土方康夫	69
王子製紙公害をなくす住民の会		川島淳三	70
水は生命の母	愛知公害調査の会	今井寿穂	73
川は汚すもの	一宮高校教諭	林正幸	75
清流への願い	名古屋釣具商組合長	間渕信雄	78
労働者と住民運動	公害対策愛知連絡会議	大島良満	79
自然保護運動の将来	//	野呂汎	79
健康と環境を守れ	愛知の住民一斉行動デー実行委員会	伊藤栄	81
医療機関から見た健康とは?	北診療所事務局		81
よみがえる庄内川の自然	名古屋女子大学教授	廣正義	82
教育に心を	ひまわり幼稚園副園長	荻須あつ子	83
下水処理場見て歩き	きれいにする会事務局長	宮田照由	84
矢田・庄内川をきれいにする会会員として		会員有志	86
庄内川の老魚のなげき まんが			93

第三部 庄内川の魚類と鮎追跡調査

庄内川の水生生物より 昭和48~49年	97
会独自の鮎追跡調査 昭和51~53年	101

第四部 雑誌で紹介されたきれいにする会

婦人ボランティア活動実践集	名古屋市教育委員会	117
清流青湖	全国川とみずうみをきれいにする会	123
美しい環境づくり活動事例集	愛知県	125
環境と公害		127
中部建築ジャーナル		128
市民論文集	名古屋市	128
フィッシュオン	1977-4 1977-12 1978-1	130
つり人	1977-7	135

その他

矢田庄内川をきれいにする会会則と川の歌	136
会員名簿	137
編集後記	宮田照由 141
協力者	
広告	

矢田・庄内川をきれいにする会

あ ゆ み

49年3月～54年3月

会 の あ ゆ み

社 会	会 の 行 動	会 と 団 体 の つ な が り	矢田・庄内川の出来ごと
49. 3. 10	ルパン島で小野田さん 発見30年ぶりに帰国	きれいにする会発会の準備	王子公害をなくす住民の会に参加
7. 7	第10回参議院選挙		
9. 1	台風16号 多魔川堤防決壊		
10. 8	佐藤前首相ノーベル平和賞		
11. 26	田中内閣総辞職		
12. 9	三木内閣発足	毎日新聞に「立ち上がる住民」として紹介	王子製紙に工場排水の件について口頭申し入れ 矢田川で大量の魚が浮く
50. 1. 5	初の緑の国勢調査実施	三階橋温泉に王子製紙の工場排水の写真を 展示	
1. 20	愛知県知事選始まる	知事候補者に公開質問状を出す	
1. 29		知事候補成瀬幡治氏より回答来る	
1. 30			瀬戸市庄内川水系白濁防止へ
2. 11			中川運河に魚が戻った
2. 27			庄内川できねこさ祭13年ぶり 戸田川で魚数万匹浮く
3. 10	新幹線博多まで開通		
3. 24			仲谷県政「川」中心に整備
3. 31		三階橋温泉で「川と政治とくらし」につい て住民に訴える	
4. 13	統一地方選挙		
5. 14			瀬戸川 高濃度鉛たれ流す
5. 16			「庄内川を清流に」広教授中日 に寄稿
5. 21		中日新聞にきれいにする会の紹介	
5. 24		会則ができ役員がきまる	

社 会	会 の 行 動	会 と 団 体 の つ な が り	矢田・庄内川の出来ごと		
50. 6. 1	「川の汚れは心の汚れ」の看板づくり庄内川に立てる	きれいにする会、市民の会、郷土を守る会で市長に公開質問状出す(木曾川右岸流域下水道問題)	矢田川の護岸に「そだ工法」復活		
6. 5					
6. 13					
6. 27					
6. 29				庄内川で「食えない魚釣り大会」を開く水分橋350人参加大盛況	
7. 5				市役所で木曾川右岸流域下水道について話し合い	
7. 6				市より木曾川問題回答ある	
7. 7				新日本婦人の会より合成洗剤の害について申し入れある	
7. 12				市より木曾川問題の追加回答がある	
7. 19				沖縄国際海洋博開幕	県の調査 基準こす庄内川・矢田川
7. 25					
8. 7				六価クロム禍問題波紋	庄内川釣りブーム起きる
8. 14				「川の汚れは心の汚れ」の看板立て	
9. 28	第2回食えない魚釣り大会、矢田川・香流川合流点 合成洗剤の害を訴える	庄内川六価クロム検出日本一八田川より流出のもよう			
10. 24	塩ビモノマ禍問題				
10. 25	国際婦人年 土方康夫、日本福祉大教授によりバッジのデザイン決まる 第三回食べられない魚母子釣り大会 松川橋				
10. 26	釣り女子選手権争奪戦 宝さがしなど				
12. 9					
12. 10	三億円事件時効成立				
12. 28	シンボルバッジでき上る				
12. 30			堀川に庄内川の水が導入される 36年ぶり 堀川導入終る		
51. 1. 4	堀川作戦看板立て堀川の浄化訴える		市教育委員会より「婦人ボランティア活動」実践等に寄稿申し入れて来る		
1. 19					

社 会	会 の 活 動	会 と 団 体 の つ な が り	矢田・庄内川の出来ごと
51. 1. 22	バッヂ作戦大当り	中部善意銀行環境美化奉仕協力懇談会出席	
1. 28	庄内川の魚の試食するにはまだ重大な決心が いる	活動内容がNHKのテレビリポートで紹介 される	王子製紙から未処理の臭気排水が 流される
1. 30			
1. 31	5つ子たんじょう		
2. 3	庄内川の水石が紹介される	ひまわり幼稚園が主催のテレビ塔での豆ま きに参加	庄内川の水石がブームになる
2. 4	アメリカでロッキード 問題明るみにでる		
3. 5	ひまわり幼稚園の卒園記念に「川の汚れは 心の汚れ」の看板を矢田川に立てる		
3. 7		愛知県の依頼により庄内川の魚類採取	
3. 13		CBCの「市政ニュース」丹羽さんが市長 と対談	
3. 26~28	県産業貿易会館で開かれたフィッシングシ ョーの会場で庄内川の石の展示会		
3. 28	準会員が自主的に水分橋松川橋間の清掃		
4. 1		1月の堀川導入に対する市の今後の意見態 度を問う	
5. 1	第一回庄内川まつり バッヂで大行進	堀川導入の市側の回答が新聞にて発表される	
5. 9	テーマソング「川の歌の発表会」等参加 400名		
5. 20	映写会(名相銀)		
6. 14		9年ぶりに庄内川にアユ放流愛知県1万7千匹	
6. 18		われら学生岐阜放送岐阜学生放送担当のイ ンタビューをうける	
7. 14			アユ11cmに成長庄内川魚協 汚濁水流しません 瀬戸工場スクラム
7. 17	モントリオール 五輪開幕		
7. 22		維信高校放送部が全国放送コンクールの題 材として取材に来る	
7. 30		全国の川と湖をきれいにする会の機関紙に きれいにする会が紹介	
8. 7	瀬戸市長に看板立ての申し入れ		
8. 8		全国放送協会主催の環境キャンペーンに参 加三階橋上流の川岸の清掃	
8. 31	瀬戸市長と共に瀬戸市内に看板を立てる		
9. 6	ミグ25機函館に強行着陸		

社 会		会 の 行 動	会 と 団 体 の つ な が り	矢田・庄内川の出来ごと
51. 9. 9	毛沢東主席死去			
9. 28		釣りクラブ「山彦会」発足		
10. 6			庄内川で採取したアユは天然アユ広教授発表	
10. 18			庄内川にコイ放流・名古屋釣具商、3万匹	
10. 24		食べられるかも知れない釣り大会、試食会		
10. 29	酒田市大火			
11. 10	天皇在位50年式典			
12. 5	第34回総選挙			
12. 10	ソ連200カイリ専管水域を設定布告			
12. 20		川の汚れは心の汚れの看板100本記念	黒川をきれいにする会と共に堀川の清掃	
12. 24	福田内閣発足			
52. 1. 4	青酸コーラ殺人事件			
1. 26				矢田川にシアン流出
1. 30		庄内川の上流土岐川であまごを採取する		
2. 10			大和メッキ矢田川にコイ放流	
2. 19		王子製紙工場増設につき下流住民として て申し入れ		
2. 21		さくらの銀行開設		
3. 18	鬼頭史郎ニセ電話容疑 で起訴			
4. 24	名古屋市長選挙			
5. 1				三県一市の会談の中で市内河川問題 を発言
5. 15		アユ救出作戦決行、アユを土岐川に送る		
5. 23			NHKのテレビリポートで紹介	
5. 30				庄内川でブラックバスつかまる
6. 4			第一回「健康と環境を守れ愛知の住民一斉 行動デー」に参加・知事に要望書提出	
6. 29			「行動デー」の回答来る	

社 会	会 の 行 動	会 と 団 体 の つ な が り	矢田・庄内川の出来ごと
52. 7. 10	第11回参議院選挙		
8. 7	有珠山32年ぶり大噴火		
9. 13	王ホームラン756号		
10. 9		食べられるかも知れない釣り大会、試食会、釣り具のバザー等	
10. 25			庄内川にコイ放流、5万匹名古屋釣具商組合
12. 25	喜劇王チャールズ チャップリン死去		
53. 1. 14	伊豆大島近海でM7の 大地震		
3. 24		アユ救出作戦のため県に特別採捕願提出	
4. 11	嫌煙権国会でとり上げ られる	アユのそ上が悪く救出作戦絶望的	
5. 14		さくらの銀行植樹祭に市長参加	
5. 20	成田空港開港		
5. 25		土岐川にあまご放流・土岐魚協の協力	
5. 27			第二回「一斉行動デー」参加・知事に要望書
5. 31			「水分橋緑地公園愛護会」づくりに参加
6. 3			庄内川で重金属調査のための魚の採取
7. 25	イギリスで試験管ベビ ーたんじょう		
7. 27			行動デーの回答来る
8. 3		名古屋市職員組合と懇談会	
8. 14			庄内川で魚が大量死
9. 8			魚に大量の寄生虫生でたべない で水野川
8			重金属汚染山崎川庄内川変わらず
9. 10			植田川魚浮く下水処理場作業ミス
10. 22		食べられるかもしれない釣り大会市長杯 争奪戦試食会釣り具バザー釣り場作り促進 協議会発足	中京ダイワ矢田川香流川に鯉放流
10. 24			庄内川にコイ放流・名古屋釣具商組合
10. 31	1ドル175円70銭 史上最高値		

社 会		会 の 行 動	会 と 団 体 の つ な が り	矢 田 ・ 庄 内 川 の 出 来 ご と
53. 11. 21	江川帰国江川問題のはじまり			名港に釣り公園・名港管理組合発表
12. 1	7年ぶりに道交法大幅改正			
12. 7	大平内閣発足			
54. 1.			3. 18 「健康と環境を守れ」愛知の県民一斉行動デーの実行委員会	(猫ヶ洞池釣り池として一般に公開)
2. 4	愛知県知事選		3. 24	
4. 8	統一地方選挙		名古屋釣具商組合主催のフィッシングショーに参加	

目をさました住民たち

庄内川シリーズは私達の教科書

昭和49年(1974年) 12月9日(月曜日) 14版 (14)

庄内川 読者のために

「庄内川」の編集は、日南新聞社(新潟県)が担当。

このシリーズは、庄内川の水質汚染と、その原因と対策を、読者のために、わかりやすく、詳しく、紹介していく。読者のみなさん、ぜひ読んでください。

立ち上がった住民

川の汚れは心の汚れ

矢野三、カミサボロに釣人も集しめん

監視体制強化をチグハグ指導にメス必要

1974年 8月28日(水曜日)

ヘドロ災害

処理しないでポイ

「ヘドロ災害」は、工場や家庭から排出される、油や泥、ゴミなどが、川に流れて、川底を汚す。これが、川の水質を悪くし、魚や貝が死んでしまう。また、川の水が、飲水に使えなくなる。これは、私たちの健康と生命を脅かす大きな災害だ。

「ヘドロ災害」を防ぐには、工場や家庭から排出されるゴミや油を、適切に処理し、川に流さないことが大切だ。また、川の水質を定期的にチェックし、汚染の程度を把握することも重要だ。

1978年(昭和53年) 11月15日(水曜日)

庄内川の浄化この目で

本紙キャンペーンから4年

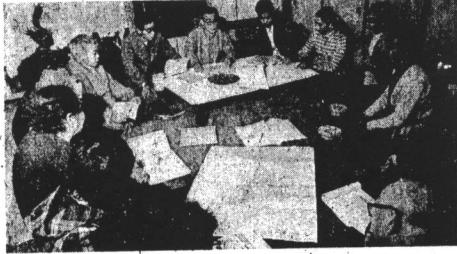
角田・建設委員 内川工事事務所

全県が皆へ全調査

新プランを検討中

「庄内川の浄化」は、工場や家庭からの排水を、適切に処理し、川の水質を浄化する。これは、私たちの健康と生命を守るための大切な取り組みだ。全県で調査を行い、浄化の程度を把握し、新プランを検討中だ。

「庄内川 みんなで浄化」



新春を期して住民組織結成

幼い時の清流再び

守山で 準備会 続々参加の申出

【本紙記者山田浩二東京二十七日電】庄内川が、かつては清流であったが、戦後、人口の急増に伴って、汚染が進み、魚が釣れなくなった。この現状を憂う住民が、新春を期して、浄化活動の準備会を結成し、活動を開始した。準備会には、守山地区を中心に、続々と参加の申出が寄せられている。準備会では、まず、釣った魚を分析し、汚染の原因を突き止めることにしている。また、壁新聞、会報でPRも行う予定だ。

庄内川は、かつては清流であったが、戦後、人口の急増に伴って、汚染が進み、魚が釣れなくなった。この現状を憂う住民が、新春を期して、浄化活動の準備会を結成し、活動を開始した。準備会には、守山地区を中心に、続々と参加の申出が寄せられている。準備会では、まず、釣った魚を分析し、汚染の原因を突き止めることにしている。また、壁新聞、会報でPRも行う予定だ。

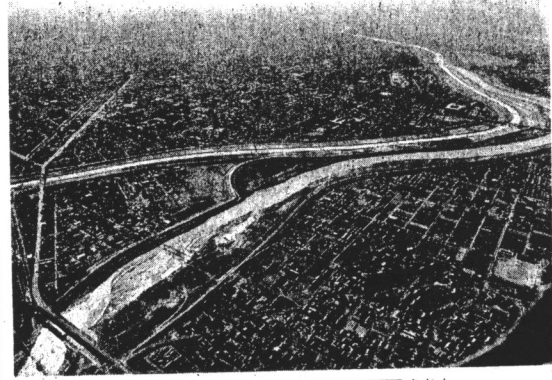


準備会では、まず、釣った魚を分析し、汚染の原因を突き止めることにしている。また、壁新聞、会報でPRも行う予定だ。

準備会では、まず、釣った魚を分析し、汚染の原因を突き止めることにしている。また、壁新聞、会報でPRも行う予定だ。

汚れっ放しの矢田川、庄内川

「もう黙っちゃおれぬ」



【本紙記者山田浩二東京二十七日電】庄内川が、かつては清流であったが、戦後、人口の急増に伴って、汚染が進み、魚が釣れなくなった。この現状を憂う住民が、新春を期して、浄化活動の準備会を結成し、活動を開始した。準備会には、守山地区を中心に、続々と参加の申出が寄せられている。準備会では、まず、釣った魚を分析し、汚染の原因を突き止めることにしている。また、壁新聞、会報でPRも行う予定だ。

きれいにする会が誕生 川沿いの有志が

市民運動展開へ

まず釣った魚を分析

子供らに 壁新聞、会報でPRも

【本紙記者山田浩二東京二十七日電】庄内川が、かつては清流であったが、戦後、人口の急増に伴って、汚染が進み、魚が釣れなくなった。この現状を憂う住民が、新春を期して、浄化活動の準備会を結成し、活動を開始した。準備会には、守山地区を中心に、続々と参加の申出が寄せられている。準備会では、まず、釣った魚を分析し、汚染の原因を突き止めることにしている。また、壁新聞、会報でPRも行う予定だ。



準備会では、まず、釣った魚を分析し、汚染の原因を突き止めることにしている。また、壁新聞、会報でPRも行う予定だ。

庄内川に対する知事の関心度は？

愛知県知事選に向けて公開質問状内容

公開質問状

愛知県知事立候補者

仲谷 義明 殿
成瀬 幡治

矢田・庄内川をきれいにする会。

ふるさとの思い出、それは現代人にとっては一つの夢なのでしょうか。幼なかりし頃の思い出が走馬灯のように、小学生、子供等が狭い遊園地で遊んでいる姿を見るたびに、子供の頃の山、川への郷愁が日々の生活のなかで思い出され、その思い出を持つ人々によって、この矢田・庄内川をきれいにする会が組織され発足いたしました。

現在は王子製紙、その他、川の周辺に企業があり、それから吐き出す汚染された水は、昭和20年までの水とは比較することの出来ない被害を動植物から人間に至るまで環境を破壊しつくしているのです。

水は地球上に存在する生物にとってかけがえのない物であり、川はそれによって生活のリズムを持って居りました。川は自分から汚くしません。川の汚染に手をかすのは誰か？誰だろう我々人間であり企業であります。特に「守山」「川西」地区はもとよりのこと北、西、中村、中川、港、六区にわたって王子製紙の工場廃水にて庄内川の汚染に止まらず排煙、悪臭による大気汚染により山林は緑を失い、人間は呼吸器病の患者が増加していると専門家からの報告で知ることが出来ます。

そこでこの度の選挙に当り、次の様な質問をいたします。尚、御回答をいただきそれを矢田・庄内川をきれいにする会の機関紙にて関係住民に発表することを申しそえます。

記

あなたの常識と良識をもって、次の素朴な質問に対してひとつひとつ文書にて1月27日までに御解答をお願いいたします。

「矢田・庄内川をきれいにする会」 連絡所 丹羽秀義

名古屋市守山区瀬古川西270
TEL793-0677

- 1 我々の会は「川の汚れは心の汚れ」という言葉をモットーとしています。
あなたはこの意味をどう解決し理解されますか。
- 2 矢田・庄内川を汚す県下全ての工場に対してどのような行政指導をするのか、また、現在よごれている矢田・庄内川は20年前はアユ、シラハエもいました。あなたはそい言うきれいな川にもどしますか。
- 3 我々の住んでいる守山、瀬古川西、北区米ヶ瀬、周辺地区は500m程の間に守山下水処理場、春日井勝西下水処理場、し尿処理場、さらに王子製紙の排水が新しく暗渠によって、庄内川に流し出されようとしています。この狭い地域に三つの処理場と問題の工場排水は日本国内にない最悪の環境と大気汚染で最大の不安をもつ我々県民をどのようなプランであなたは解決しますか。
- 4 王子製紙工場は排水1日20万トンを20年間も我々の庭先と足もとに「基準以下で法にふれない」として名古屋六区にわたる地域住民にことわりもなく流し出しています。このことを道義上、またあなたは上記に関して王子製紙、並びに春日井市に対するどのよう

な行政指導をされますか。

5 あなたが知事になったら、このような県民に対する行政不信をどう解決しますか。

また、地域住民（矢田・庄内川をきれいにする会）の意向を尊重し話し合う機会を作りますか。

（注）当会は庄内川を汚す、最大の原因は王子製紙にあると信じて活動いたしております。

以上「矢田・庄内川をきれいにする会」としての現在のところの問題点をとり上げました。「川の汚れ」は「心の汚れ」これが私たちのモットーです。「夕やけこやけの赤とんぼ」の童謡の如く人間の生活に必要な、最低の条件として以上の事の解決を私たちの会は求めるものであります。また、一人一人が自然環境に汚らしいと自からも心に反省し今後の諸問題を矢田川、庄内川の流域の人達と対話をもちながら、次代の人々に良い環境を引きつぐことを目的として、この運動を進めていきたいと「矢田・庄内川をきれいにする会」の人々は思っています。

大変おいそがしい時期かと思いますが良く検討されまして御解答下さい。

矢田・庄内川をきれいにする会

矢田・庄内川をきれいにする会殿

みんなで革新愛知県政をつくる会

成瀬 幡治

連日のご健闘に心より敬意を表します。

この度は、私の推せんを早々とお決めいただき、厚くお礼申し上げます。

また、本回答が事務局の手違いで大変遅れましたことを深くお詫言申し上げますとともに、誠意をもって以下お答えしたいと思います。

記

〔問1に対するお答え〕

「川の汚れは心のよごれ」。まさにご指摘の通りです。

わたしたちの生活と切り離すことのできない川。自然のかけがえない産物である川を、王子製紙など企業が私的利潤のために平然と汚し川とともに育ってきた沿線住民の生活環境を破壊する企業は、まさに「心の汚れ」の結果であると思います。

ただ、そうした企業活動が当然のこととされ、愛知だけでなく全国的に自然破壊がすすんでいる現実をみる時、まさに、それらを放置しているいまの人間無視の「心の汚れた」政治に対し、憤りをおぼえずにはられません。

〔問2に対するお答え〕

「愛知県公害防止条例」を根本的にあらため、もったきびしい規制基準をつくり、企業責任を明確にする中で、企業に排水の再利用

設備を設置させることを義務づけるとともに、観測装置も大副に増設して、きびしくとりしめます。

また、庄内川につきましては、岐阜県にも働きかけ、1日も早く昔のきれいな川にとりもどすため、県のあらゆる機能を駆使する決意です。

〔問3に対するお答え〕

前に述べた通り、まず「公害防止条例」を改正します。そして、関係住民の公害反対運動を積極的に支持し、住民とともに監視する体制をつくります。

王子製紙につきましては、企業責任で有害物質を完全に除去するクローズド・システムを採用させ、きれいな排水にさせるとともに、暗渠は、県や住民がいつでもチェックできる排水採取口をとりつけさせ、また、公開の自動観測装置も企業にとりつけます。

下水処理場の排水につきましては、名古屋市に協力して選備の近代化を図るとともに、必要に応じて第三次処理や、その他、公害をなくす方法を全面的に検討します。

し肉処理場の建設計画につきましては、その計画を再検討する必要があると思います。また、水質汚濁の原因のひとつでもある陶土・山砂利の採取につきましても中小採取業者に対して公害防止施設設置の融資を行なうなど、援助を強めるなどして、汚濁を防ぎます。

〔問4に対するお答え〕

「私たちの川をどうして勝手に会社が汚す権利があるのだ。この川は会社の排水路ではない」という怒りは当然のことと思います。

革新県政は、住民のいのちとくらしを守ることを何にもまして優

先させることを基本にする以上、私はもし知事に就任することができたなら、条例改正をまず、まっ先に排水現場に出向き、この目で確認するとともに、排水設備、工程に関する資料やデーターを提出させ、必要な指導を行ないます。

また、春日井市に対しても、自治体の自主的な行政を保障しながら、住民のいのちを守ることを第一にした行政をすすめるよう強く指導します。

〔問5に対するお答え〕

私が「住民参加のあたたかい県政」と公約している以上、貴団体をはじめとする多くの住民団体と直接話し合える機会を保障し、私自身もみなさんから学びつつ、県行政に反映させることは全く当然のことです。

選挙のときだけの耳ざわりのよい言葉を並べて口約束するのではなく、こうした住民とともにあゆむ県行政を、わたくし自らが先頭に立って行ない、着実な努力をつみかさねる中で、はじめて、従来の行政に対する不信を解消できるものと信じています。

みなさんのおしめないご支援とご協力を明日の街づくりのために、私にお寄せ下さるよう心よりお願い申し上げます、以上、私のご回答とさせていただきます。

—以上—

仲谷氏からは回答が来ませんでした。

善意で立てた看板に建設省からクレーム

この時を境に庄内川沿岸の無断看板はとりのぞかれた。

浄化運動 第1弾

「矢田・庄内川をきれいにする会」



清流に願い込め看板立てる

「川の汚れは心の汚れ」一白字で書かれた看板が、その心願を込めて、矢田・庄内川沿いに立てられた。この看板は、浄化運動の第一弾として、矢田・庄内川をきれいにする会が、6月1日、矢田・庄内川沿いに立てられた。この看板は、浄化運動の第一弾として、矢田・庄内川をきれいにする会が、6月1日、矢田・庄内川沿いに立てられた。

「川の汚れは心の汚れ」一白字で書かれた看板が、その心願を込めて、矢田・庄内川沿いに立てられた。この看板は、浄化運動の第一弾として、矢田・庄内川をきれいにする会が、6月1日、矢田・庄内川沿いに立てられた。

川の汚れは心の汚れ



に川を汚さないよう訴える看板を立てる「矢田・庄内川をきれいにする会」の人たち

「川の汚れは心の汚れ」一白字で書かれた看板が、その心願を込めて、矢田・庄内川沿いに立てられた。この看板は、浄化運動の第一弾として、矢田・庄内川をきれいにする会が、6月1日、矢田・庄内川沿いに立てられた。

「川の汚れは心の汚れ」一白字で書かれた看板が、その心願を込めて、矢田・庄内川沿いに立てられた。この看板は、浄化運動の第一弾として、矢田・庄内川をきれいにする会が、6月1日、矢田・庄内川沿いに立てられた。

生き返れ、死の川

住民ら心の立て看板

矢田と庄内川 29日には魚釣り大会

「川の汚れは心の汚れ」一白字で書かれた看板が、その心願を込めて、矢田・庄内川沿いに立てられた。この看板は、浄化運動の第一弾として、矢田・庄内川をきれいにする会が、6月1日、矢田・庄内川沿いに立てられた。



内川に取り付けられた浄化看板

立て看板で訴え

矢田・庄内川をきれいにする会 会費でまず10本

入会希望 殺到

会によせられた手紙の紹介

責任の重さを痛感する

入会希望が殺到

PR看板も完成

「PR看板も完成」... (text continues with details about the PR board and membership interest)



この度は、ご入会希望の件、誠にありがとうございます。... (handwritten letter, top right)

先日は、お返事ありがとうございました。... (handwritten letter, middle right)

お返事ありがとうございます。... (handwritten letter, middle left)

突然、お手紙で御免下さいませ。小生は三重県は久居市... (main handwritten letter, bottom center)

突然、お返りします。... (handwritten note, bottom right)

うけさらである伊勢湾 いつまでもつか問題

49年庄内川の現状

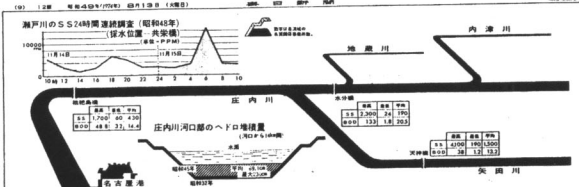
昭和49年(1974年) 2月20日(水曜日) 14頁

清流びさやへ日再び

地場産業の甘えにメス



清流の回復は、地場産業の発展と密接な関係がある。しかし、過度の工業開発や農業の拡大が、清流の生態系を脅かしている。政府と自治体は、清流の保護と地場産業の持続可能な発展を両立させるための政策を打ち出している。



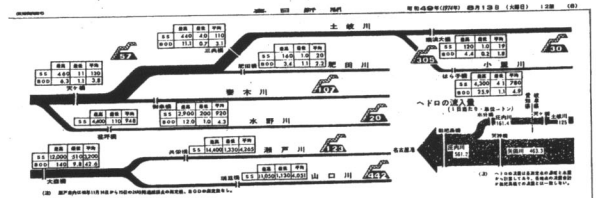
泣き、あえく…庄内川

魚の泳ぐ川、早く水害の歌川開けるよう

水害の歌川開けるよう、魚の泳ぐ川、早く水害の歌川開けるよう。庄内川の水質悪化が深刻化している。魚類の生存が危ぶまれている。早急な対策が求められる。

カギは零細業者の救済

清流の回復には、地場産業の救済が不可欠。特に零細業者への支援が重要である。



白い流れ、声なき告発

後絶たぬ「夜流し」

夜流しの問題が深刻化している。白い流れの川は、生態系に壊滅的な打撃を与えている。市民からの告発が相次いでいる。

新しい不安ツワジツ

有機物汚染が新たな不安要素となっている。水質悪化のスピードが速まっている。

水の浄化まだまだ

基準超す中小河川

三湾圏汚染、中央部に木曾川などはほぼ達成

水質浄化の進捗が遅い。特に中小河川では基準値を大きく超えている。中央部では木曾川など一部の河川で改善が見られるが、全体的な状況は依然として深刻である。

汚染目立つ伊勢湾、三河湾

排水水で富栄養化

二次汚濁は夏中心に

今年最大の赤潮発生

赤潮の発生が、水質悪化の象徴となっている。伊勢湾と三河湾の汚染が深刻化している。

まず基準を守れ

零細ゆえの負担の重さを手厚い行政援助を

清流の回復には、まず基準を守ることが前提。特に零細業者への行政援助が重要である。

市民の目を庄内川に向けさせるためにノ

庄内川の魚釣る人よっといで

6.5.25
中日(12-10)

食べぬ魚釣り大会

きれいに庄内川で汚染調査に

魚釣る人よっといで、庄内川をきれいにしよう。庄内川は、山形県最大の川で、その清流は、山形県民の生活に欠かせない。しかし、近年、工業廃水、生活排水、農薬の流出などにより、水質が汚染され、魚類の減少や水質悪化が進んでいる。この大会は、市民の目を庄内川に向けさせ、水質汚染の現状を調査し、きれいな庄内川を創出するために開催される。

開催日時：6月5日(土) 午前9時～午後4時
開催場所：庄内川(水分解より下流、新川中橋まで)

参加費：無料
申し込み：6月1日(日)まで、電話または直接会場へ
申し込み先：矢田庄内川をきれにする会(TEL: 788-0677)

食べない魚の釣り大会

ちびっ子の諸君へ

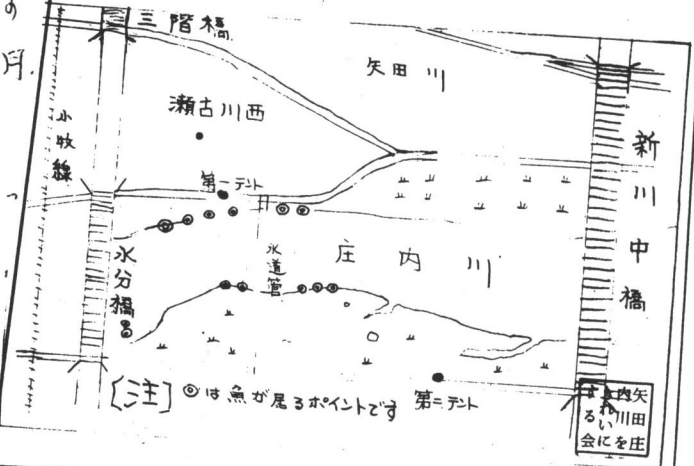
君たちは、川の魚が食べれる事を知っていますか？
庄内川で行ないます。魚の種類はコイ、フナ、マス、その他なんでも良いのです。
それでは、なぜ庄内川の魚は食べられないか、みんなで考えましょう。
釣り大会は6月29日の早朝より正午まで行ないます。会費は無料ですが、賞品はたくさんあります。申し込み方法はきれいにすべし、住所氏名年令を書いて6月25日まで届く様に申し込んで下さい。
釣り大会が終わったら作文を書いて下さい。作文にも賞品があります。
当日は危険のない様、お父さんやお母さんと一緒に参加して下さい。

矢田庄内川をきれにする会
連絡先 山形県庄内市山崎古川西270 TEL: 788-0677

食べない魚釣り大会

矢田庄内川をきれにする会
連絡先 山形県庄内市山崎古川西270 TEL: 788-0677

6月29日 AM 6:00 ~ 12:00
庄内川(水分解より下流、新川中橋まで)
※1. 2. テント(現地) AM 6:00 ~ 10:00 (会費なし)
※1. テント PM 12:00 ~ 1:00 入賞発表
賞状 賞品 (大もの、ケデモノ-----他)
どこの材料でも自由に参加して下さい。当日も受けつけます
各自の持っている釣具で自由。エサ=自由
(イ) 投げかけは キケンですからやめましょう(投げオ、リール)
(ロ) お子様は お父さん、お母さん、お兄さんと参加しましょう。
(ハ) 会場の安全を考え、パトロール各テントに要領を配置します。
(ニ) 参加 父兄の方に 安全に大会が終るようご協力をおねがいします。
お問い合わせ △ わけのないことは、会費TEL、き紙、直接、問い合わせて下さい。
△ 大会の注文、会費の意見...等は、どしどし申しして下さい。



堀川の浄化 木曾川からひかなくても庄内川があるのに

浄化水を堀川へ

用水併用部なお問題



**終末処理場と春日井以降
パイプラインで
中部地建方針**

【本紙記者 藤田 隆夫】

中部地方の治水対策として、名古屋市の浄化水を堀川に導く計画が、中部地方建設局（中地建）の最終方針で固まった。この計画は、名古屋市の浄化水を、春日井市を境として、堀川に導くパイプラインで運ぶことだ。中地建は、この計画を、名古屋市の浄化水と、堀川の治水対策とを兼ねて実施する方針だ。

この計画は、名古屋市の浄化水を、春日井市を境として、堀川に導くパイプラインで運ぶことだ。中地建は、この計画を、名古屋市の浄化水と、堀川の治水対策とを兼ねて実施する方針だ。

この計画は、名古屋市の浄化水を、春日井市を境として、堀川に導くパイプラインで運ぶことだ。中地建は、この計画を、名古屋市の浄化水と、堀川の治水対策とを兼ねて実施する方針だ。

堀川浄化 木曾川導水案きまる

洪水防止と兼用

22*の流況調整河川を建設

来年度着工めざす



【本紙記者 藤田 隆夫】

中部地方の治水対策として、名古屋市の浄化水を堀川に導く計画が、中部地方建設局（中地建）の最終方針で固まった。この計画は、名古屋市の浄化水を、春日井市を境として、堀川に導くパイプラインで運ぶことだ。中地建は、この計画を、名古屋市の浄化水と、堀川の治水対策とを兼ねて実施する方針だ。

この計画は、名古屋市の浄化水を、春日井市を境として、堀川に導くパイプラインで運ぶことだ。中地建は、この計画を、名古屋市の浄化水と、堀川の治水対策とを兼ねて実施する方針だ。

この計画は、名古屋市の浄化水を、春日井市を境として、堀川に導くパイプラインで運ぶことだ。中地建は、この計画を、名古屋市の浄化水と、堀川の治水対策とを兼ねて実施する方針だ。

木曾川右岸流域下水 白紙撤回を強く求める

【本紙記者 藤田 隆夫】

名古屋市が、木曾川右岸流域の下水処理計画を白紙撤回するよう、強く求めた。名古屋市は、この計画を、木曾川右岸流域の下水処理計画と、堀川の治水対策とを兼ねて実施する方針だ。

この計画は、名古屋市の浄化水を、春日井市を境として、堀川に導くパイプラインで運ぶことだ。中地建は、この計画を、名古屋市の浄化水と、堀川の治水対策とを兼ねて実施する方針だ。

「木曾右岸下水道」の対立 3か月ぶり解決へ

【本紙記者 藤田 隆夫】

名古屋市の浄化水を、木曾川右岸流域に導く計画が、3か月ぶりに解決へ向かっている。名古屋市は、この計画を、木曾川右岸流域の下水処理計画と、堀川の治水対策とを兼ねて実施する方針だ。

この計画は、名古屋市の浄化水を、春日井市を境として、堀川に導くパイプラインで運ぶことだ。中地建は、この計画を、名古屋市の浄化水と、堀川の治水対策とを兼ねて実施する方針だ。

名古屋市長が表明 高次地

【本紙記者 藤田 隆夫】

名古屋市長が、名古屋市の浄化水を、木曾川右岸流域に導く計画について、高次地であることを表明した。市長は、この計画を、木曾川右岸流域の下水処理計画と、堀川の治水対策とを兼ねて実施する方針だ。

この計画は、名古屋市の浄化水を、春日井市を境として、堀川に導くパイプラインで運ぶことだ。中地建は、この計画を、名古屋市の浄化水と、堀川の治水対策とを兼ねて実施する方針だ。

「会合持ち、姿勢示す」 市守る会の質問に回答

【本紙記者 藤田 隆夫】

名古屋市守る会が、名古屋市の浄化水を、木曾川右岸流域に導く計画について、会合を持ち、姿勢を示すことになった。市守る会は、この計画を、木曾川右岸流域の下水処理計画と、堀川の治水対策とを兼ねて実施する方針だ。

この計画は、名古屋市の浄化水を、春日井市を境として、堀川に導くパイプラインで運ぶことだ。中地建は、この計画を、名古屋市の浄化水と、堀川の治水対策とを兼ねて実施する方針だ。

27日開会式で上 市守る会の代議員が

【本紙記者 藤田 隆夫】

名古屋市守る会の代議員が、27日開会式で、名古屋市の浄化水を、木曾川右岸流域に導く計画について、上りた。市守る会は、この計画を、木曾川右岸流域の下水処理計画と、堀川の治水対策とを兼ねて実施する方針だ。

この計画は、名古屋市の浄化水を、春日井市を境として、堀川に導くパイプラインで運ぶことだ。中地建は、この計画を、名古屋市の浄化水と、堀川の治水対策とを兼ねて実施する方針だ。

情報交換で連携強化 河川治水運動一本化は見送り

【本紙記者 藤田 隆夫】

河川治水運動の連携強化を図るため、情報交換が促進される見込みだ。河川治水運動の一本化は見送られる。河川治水運動の連携強化を図るため、情報交換が促進される見込みだ。

河川治水運動の連携強化を図るため、情報交換が促進される見込みだ。河川治水運動の一本化は見送られる。河川治水運動の連携強化を図るため、情報交換が促進される見込みだ。

処理下水の堀川導水 計画が示された段階で検討

【本紙記者 藤田 隆夫】

名古屋市の浄化水を、堀川に導く計画が示された段階で、検討される見込みだ。名古屋市の浄化水を、堀川に導く計画が示された段階で、検討される見込みだ。

名古屋市の浄化水を、堀川に導く計画が示された段階で、検討される見込みだ。名古屋市の浄化水を、堀川に導く計画が示された段階で、検討される見込みだ。

木曾川導水にかくされた問題点 市に対し公開質問状

昭和50年6月27日

(1) 公開質問状への回答は 月 日までに、文書にて3団体宛、各1通ずつ提出する事、文書化できない部分はその理由を付記すること。

(2) 名古屋市民の生命線とも言ふべき上水道が汚染されるという重大問題に関して、市当局は今まで一度たりとも市民に了解を求めたことがない。しかも、木曾川右岸流域下水道計画が水質保全に役立つものならまだしも、この計画は公害を激化し木曾川を極度に汚染するものであり、その被害をうける私達名古屋市民としては市当局に不信をいだかざるをえない。

④ 今後、私達の疑惑に答えるとともに、広く市民の意見を聞く意志があるか。

⑤ あるとすれば、どのような方法でそれを行うか。

⑥ 市民は木曾川右岸流域下水道について、何一つ具体的な情報を提出されていない。市当局が把握しているこの計画の詳細、市当局内部や関係行政機関との間で検討された内容を公開せよ。少なくとも

① 48.9.26 愛知県から岐阜県に提出した紹介文書と、それに対する49.8.27回答。

② 市内部での検討事項

(3) 市当局が現計画に対して反対との意向を表明しているにもかかわらず、愛知県は岐阜県に対し6月5日、事業進行を認める旨を伝えている。市当局は愛知県の姿勢をどのように考えるか。市当局が現在考えている。この問題を解決するための方向を、愛知県当局との相違点を明確にして述べる事

(4) 次回の交渉の日程を決定する。

木曾川右岸流域下水道に
反対する名古屋市民の会 殿

矢田川・庄内川をきれい
にする会 殿

郷土を守る会 殿

名古屋市長

本山政雄

木曾川右岸流域下水道に関する質問
について(回答)

木曾川表流水の水質保全については、当市はかねてから重大な関心を払い、関係方面へ要請をくり返して来たところであります。幸い関係各位の御尽力により、その水質は若干ながら向上の傾向にあり、私どもも尚一層の努力をいたすことを決意しておる次第であります。

先に、木曾川及び長良川流域下水道整備総合計画については、当市としては、愛知県を通じ、木曾川水質が少なくとも現状より悪化しないことを要望して参っております。

名古屋市としては、基本的にはこのような立場を維持して参るものでありますが、今後愛知県をはじめ関係機関とも充分協議をいたし、更には国の指導・調整に基づき、200万名古屋市民の安全な飲料水の確保に万全を期する所存であります。

第一回 食べられない魚釣り大会

汚れの現状この目で 参加者 500 名

日ごろ水分橋に人が集まらないのに、この日ばかりは大ぜい集まりこの目で汚れた現状をたしかめる 私達の企画大成功

昭和50年6月30日

汚れ川 証拠釣った

庄内川で「食えない魚釣り大会」



大ゴイ、奇形魚も

350人が悪臭にマユシカめ

「庄内川」は、かつては清流と称されたが、近年は工場排水や生活排水の影響で、悪臭が漂い、魚も死んでしまった。この現状を知らせるため、市主催で「食えない魚釣り大会」が、30日、庄内川で行われた。参加者は、悪臭にマユシカめ、釣った魚はほとんど食べられなかった。釣った魚は、ほとんどが死んでしまった。中には、大ゴイや奇形魚も釣られた。この現状を知らせるため、市主催で「食えない魚釣り大会」が、30日、庄内川で行われた。参加者は、悪臭にマユシカめ、釣った魚はほとんど食べられなかった。釣った魚は、ほとんどが死んでしまった。中には、大ゴイや奇形魚も釣られた。

「早くきれいな川に」

市は、この大会を通じて、市民に川の現状を知らせ、浄化を促すことを目的としている。また、釣った魚は、すべて処分された。この大会を通じて、市民に川の現状を知らせ、浄化を促すことを目的としている。また、釣った魚は、すべて処分された。

1975年7月2日 (水曜日)

食えない魚釣り大会

庄内川、濁った水で戦果競う

「庄内川」は、かつては清流と称されたが、近年は工場排水や生活排水の影響で、悪臭が漂い、魚も死んでしまった。この現状を知らせるため、市主催で「食えない魚釣り大会」が、30日、庄内川で行われた。参加者は、悪臭にマユシカめ、釣った魚はほとんど食べられなかった。釣った魚は、ほとんどが死んでしまった。中には、大ゴイや奇形魚も釣られた。

昭和50年6月30日 (月曜日)

奇形フナに恐怖の子供

庄内川「食えない魚釣り大会」



ハ・ハ川を汚すのはだれなの？

「庄内川」は、かつては清流と称されたが、近年は工場排水や生活排水の影響で、悪臭が漂い、魚も死んでしまった。この現状を知らせるため、市主催で「食えない魚釣り大会」が、30日、庄内川で行われた。参加者は、悪臭にマユシカめ、釣った魚はほとんど食べられなかった。釣った魚は、ほとんどが死んでしまった。中には、大ゴイや奇形魚も釣られた。

昭和50年(1975年) 6月30日

庄内川浄化 まだ本物じゃない

食えない魚つり大会で再認識



「庄内川」は、かつては清流と称されたが、近年は工場排水や生活排水の影響で、悪臭が漂い、魚も死んでしまった。この現状を知らせるため、市主催で「食えない魚釣り大会」が、30日、庄内川で行われた。参加者は、悪臭にマユシカめ、釣った魚はほとんど食べられなかった。釣った魚は、ほとんどが死んでしまった。中には、大ゴイや奇形魚も釣られた。

第二回 食べられない魚釣り大会 矢田川

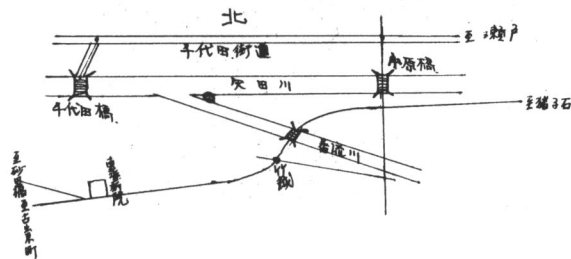
親子大会 矢田川の汚染はどうか？

第二回 食べられない魚釣り親子大会

日時 9月28日 早朝より午前11時まで

(雨天の場合 10月5日)

場所 小原橋より千代田橋間
香流橋より矢田川本流合流点間
審査 場所 香流川・矢田川本流合流点
時間 10時より開始



“子供の頃に楽しい思い出を”

家族と一緒につらつら

矢田庄内川をきれいにする会

名古屋守山巴道古川西270 TEL 793-0677



第三回 食べられない魚釣り大会 松川橋

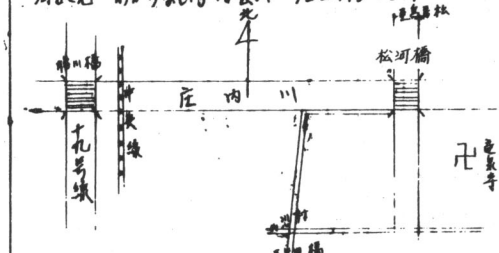
国際婦人年により婦人争奪戦を行なう

世界婦人年 魚釣り女子選手権争奪戦

第三回 食べられない魚釣り母子大会

日時 10月26日 早朝より12時まで
場所 庄内川 松河橋下流周辺
審査 場所 松河橋下流 時間 午前11時より12時まで
参加 自由男女 特別今年に世界婦人年でもあり、女子選手権を行ないますのでお母さん方もふるって参加して下さい。おばらしい賞品を用意しています。

釣方法 各自の持っている釣具で自由(又之自由)
余興 家ごしに賞品有り 誰でも参加できます。
問合せ わからない事は協会へ TEL 793-0677



矢田庄内川をきれいにする会 名古屋守山巴道古川西270 TEL 793-0677

会員の皆さんへお知らせ

現在、川の汚染は心の汚染の看板は30本ほど立てる事ができました。

又、庄内川松川産橋、壬子排水口下流水分橋、矢田川官立学毛原橋下流三地区の魚体分析調査を名古屋守山巴道古川西270 TEL 793-0677にて実施しました。テレビ新聞等で承知の事と思いますが、6月29日第一回食べられない魚釣り大会を庄内川で、前々盛大の雨に終り第二回も矢田川で成功に終わりました。

さて、本年最後の屋外活動として松川産橋(上流)に看板を約10本立て第三回釣大会及び空さがしを庄内川松川産橋付近にて、10月26日、日曜日に行ないたいと思いますので皆さんの御協力を願います。前日にお集まりの釣具が電車でけこうでその御連絡頂ければ幸いです。

ついでに、きれいにする会発行第一周年記念創刊号と日本福祉大、土佐先生御好意御協力による図案でバッチ製作準備中です。

以上、行事に対する報告ができました事を事務局よりお礼申し上げます。

矢田庄内川をきれいにする会 名古屋守山巴道古川西270 TEL 793-0677

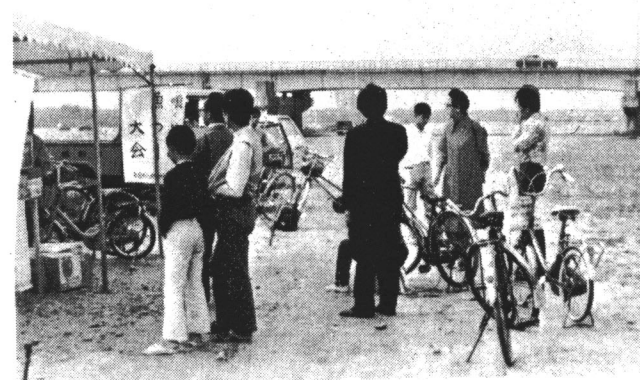


流れに親しもう

きれいにする会の呼びかけが実る

矢田庄内川をきれいにする会は、今年で第一周年を迎えます。この間、矢田庄内川をきれいにする会の呼びかけが実り、多くの市民が参加して、矢田庄内川をきれいにしました。また、矢田庄内川をきれいにする会の呼びかけが実り、多くの市民が参加して、矢田庄内川をきれいにしました。また、矢田庄内川をきれいにする会の呼びかけが実り、多くの市民が参加して、矢田庄内川をきれいにしました。

「食べぬ魚」の釣りブーム 庄内川



汚れおとして命ちぢめる

こわいこわい合成洗剤

合成洗剤の害を追放する運動への協力方お願い

私共、新婦人の会は、公害から生活を守る運動の一環として、合成洗剤の害につきましても、前々から関心をもっているものでございます。

合成洗剤は人の皮膚を痛めたり、肝臓にも悪影響を与えるなど、直接的にも私ための身体に害をおよぼしますが、同時に大きな問題となるのはABSの水汚染です。

私共は、会の中でもこれについての学習会を開いたり、当時はあまり市販されていなかった粉石けんをあっせんして、なるべく合成洗剤

の使用はやめましょうと宣伝をしてきました。

しかる時、貴会の最近のご活躍をいろいろと耳にいたし、そのご努力におくばせながら大きな敬意を表しますと同時に、貴会におきましても、河川を汚染から守る立場から、合成洗剤の害追放の運動をぜひお取りあげくださるよう、お願い申し上げる次第でございます。

1975年7月1日

新日本婦人の会守山支部

矢田・庄内川をきれいにする会 御中

御存じですか？ 川を汚す原因を!!

皆さん、川が汚れる原因を知っていますか？川が汚れるのは工場排水が大きな原因だと思っているのではありませんか、しかし工場排水だけではなく、皆さん一人一人が汚しているのです。



現在使っている合成洗剤も大きな原因です。かりに一回分の洗たくに必要な洗剤を25gとします。それを実際に計って洗たくをしている奥さんがいるでしょうか？計らずに50g使った時、必要量以外の25gは川を汚す原因になります。又トイレの清掃に塩酸を使った時塩酸は下水処理場の中に生きている汚物を



食や菌を殺してしまいます。これは川をきれいにできない原因です。

これらの原因にほんのチョット気をつけるだけで川は生きかえるのです。

きれいにする会は、矢田川、庄内川全国の川が現在より20%位はきれいになると信じます。節約でなく、適量に合成洗剤を使用しましょう。

矢田庄内川をきれいにする会

石川県守山郡古川町270 TEL 193-0677

汚染物質 p.176~

「富栄養化」の正体は

合成洗剤の害も一因

臭い水魚も酸欠死

藻類などの異常発生

富栄養化とは、河川や湖沼に栄養塩が過剰に供給されることで、藻類や水草が異常に繁殖し、水質悪化や酸素不足（酸欠）を引き起こす現象です。合成洗剤に含まれるリンや窒素成分が、この原因の一つとして指摘されています。

合成洗剤の毒性

無頭、無眼が続出

サンショウウオに異常

新薬の飼育実験で立証

性急な結論控えよ

性急な結論控えよ

サンショウウオは、環境汚染の指標生物として知られており、合成洗剤の毒性による影響が深刻であると報告されています。

合成洗剤

不安はあるけど
手放せないの

衣類9割が使用

手洗いで汚れ落ち、手帳さウケる

合成洗剤は生活必需品として広く使われていますが、その安全性や環境への影響については懸念が持たれています。

合成洗剤

不安はあるけど
手放せないの

衣類9割が使用

手洗いで汚れ落ち、手帳さウケる

合成洗剤の害を減らすためには、適量の使用と手洗いの徹底が重要です。

庄内川六価クロムで日本一

昭和50年(1975年)12月9日(火曜日) 中日新聞 名古屋新聞

水質汚染 改善遅れる 全国の河川・湖

有害物質検出リスト

水名	河川	項目	検出濃度
庄内川	岐阜県	六価クロム	0.1ppm
木曾川	岐阜県	六価クロム	0.1ppm
長良川	岐阜県	六価クロム	0.1ppm
濃尾川	岐阜県	六価クロム	0.1ppm
美濃川	岐阜県	六価クロム	0.1ppm
瀬田川	岐阜県	六価クロム	0.1ppm
津保川	岐阜県	六価クロム	0.1ppm
木曽川	長野県	六価クロム	0.1ppm
千曲川	長野県	六価クロム	0.1ppm
信濃川	長野県	六価クロム	0.1ppm
利根川	群馬県	六価クロム	0.1ppm
荒川	埼玉県	六価クロム	0.1ppm
Tone River	茨城県	六価クロム	0.1ppm
利根川	群馬県	六価クロム	0.1ppm
荒川	埼玉県	六価クロム	0.1ppm
Tone River	茨城県	六価クロム	0.1ppm
利根川	群馬県	六価クロム	0.1ppm
荒川	埼玉県	六価クロム	0.1ppm
Tone River	茨城県	六価クロム	0.1ppm

指定180水域を調査 環境庁

環境庁は、全国にわたる水質汚染の現状を把握し、重点的に改善を図るため、指定した180の水域を調査する。この調査は、1975年度から開始され、毎年実施される。調査項目は、六価クロム、五価クロム、亜鉛、銅、鉄、マンガン、硝酸態窒素、アンモニア態窒素、有機リン系化合物、有機窒素化合物、有機塩素化合物、重金属類、石油類、浮遊物質、透明度、水温、溶存酸素、pH、電導度、色度、臭気、濁度、水質汚濁指数(WQI)等である。

木曾川上流など 四割が基準未達成

六価クロム 庄内川 愛知が最悪

中日新聞 愛知版 昭和51年1月17日 (土曜日)

ヘドロに初のメス

環境改善めざす 運搬省 新年度から調査

赤潮 昨年262件

環境省は、ヘドロの削減と赤潮の発生抑制を図るため、新年度から全国にわたる調査を実施する。調査内容は、ヘドロの発生状況、赤潮の発生状況、水質汚染の状況等である。また、ヘドロの削減を図るため、河川・湖沼の清掃活動を実施する。赤潮の発生抑制を図るため、赤潮の発生状況を調査し、発生原因を究明する。



昭和50年(1975年)3月24日(月曜日)

10年後のビジョン


「川」中心に整備

人口抑え 快適な環境を

仲谷県政の長期基本構想を提案

緑地や公園確保

仲谷県政は、10年後のビジョンとして、「川」を中心とした環境整備を提案している。この構想は、人口の抑制と快適な環境の確保を目的としており、河川・湖沼の整備、緑地の確保、公園の整備等が含まれる。また、環境保護の観点から、河川・湖沼の水質汚染を防止し、自然環境を保全する必要がある。



シンボルパッチ出来上る

連帯感をもちよりいっそう運動の輪を広げるために作るデザイン
 は日本福祉大の土方教授、たいやきくんの歌声にのり私達のむねに
 泳ぐ 5000個



※ 入会希望王

はじめまして僕はこの町で釣キです。比呂さんの僕きん清流とはいかないまでも以前なり日曜などバラバラと釣り人ぼくも釣りに行きたいのですが、市立稲埓地小学校で...

稲埓地小学校の先生から聞いた話、山崎川が汚れている状態、山崎川は、いっても、山崎川が汚れている状態、山崎川は、いっても、山崎川が汚れている状態...

川見の魚は、川見の魚は、川見の魚は、川見の魚は、川見の魚は...

赤坂

赤坂は、赤坂は、赤坂は、赤坂は、赤坂は、赤坂は、赤坂は、赤坂は、赤坂は、赤坂は...

16-6

この記事を読み、自分もパッチをつけて運動が、さしに、その役に立つ一石二鳥だと思えました。

知は

知は、知は、知は、知は、知は、知は、知は、知は、知は、知は...

明けましておめでとうございます。

手紙ありがとう、パッチを送ります。パッチの意味をよく考え川をよび人がいらい様に見守って下さい。川についてのお話がありましたらすぐに連絡して下さい。近所の人には親子バアとお金をとて申し込む様にお願い致します。

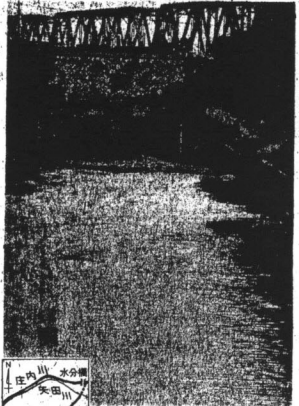
名古屋市へお年玉

庄内川の水が導水され堀川もちょっぴりきれいに、しかし蓄積されていたヘドロが伊勢湾に流れこみ三重県より苦情

中日新聞 昭和51年1月12日

堀川浄化は市民の夢

導水好評一名古屋市が継続検討



月二―四回なら可能

日曜日や庄内川増水時 県などに協力要請

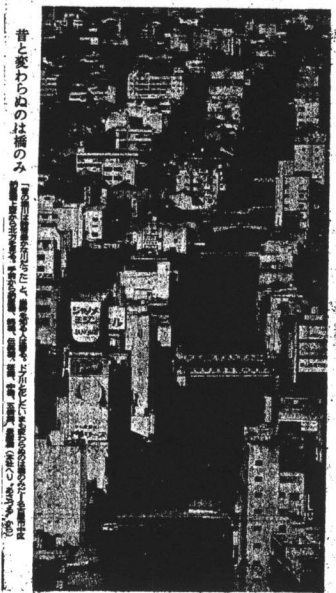
名古屋市は、堀川の水質改善を目的として、導水（導水）を実施している。導水とは、堀川の水を、伊勢湾に導き出すことである。導水は、堀川の水質を改善し、市民の健康を守るための重要な手段である。名古屋市は、導水を実施するために、県や関係機関と協力している。導水は、月二―四回なら可能である。日曜日や庄内川増水時、県などに協力要請している。



流れ出れば生き返る

堀川の水質改善を目的として、導水（導水）を実施している。導水は、堀川の水質を改善し、市民の健康を守るための重要な手段である。名古屋市は、導水を実施するために、県や関係機関と協力している。導水は、月二―四回なら可能である。日曜日や庄内川増水時、県などに協力要請している。

中日新聞 昭和51年3月6日 (土曜日)



昔と変わらぬのは街のみ

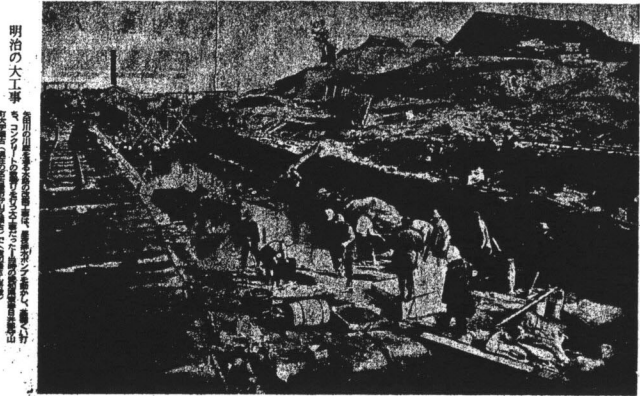
巨額投じた難工事

名古屋市は、堀川の水質改善を目的として、導水（導水）を実施している。導水は、堀川の水質を改善し、市民の健康を守るための重要な手段である。名古屋市は、導水を実施するために、巨額を投じている。導水は、月二―四回なら可能である。日曜日や庄内川増水時、県などに協力要請している。

350年前の難工事から

庄内川と堀川は兄弟

中日新聞 昭和51年3月6日 (土曜日)



明治の大事業

いかにいう明治の遺産
憩いの場堀川の復活に



堀川名物の復活はいつ？



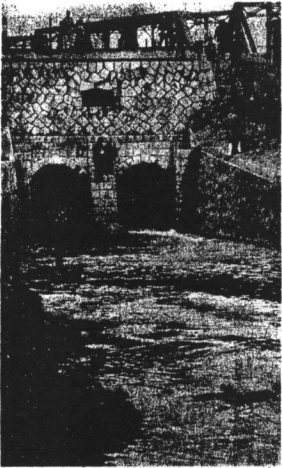
昭和50年(1975年)12月23日(火曜日)

正月はきれいな堀川

庄内川から導水実験

名古屋市は、堀川の水質改善を目的として、導水（導水）を実施している。導水は、堀川の水質を改善し、市民の健康を守るための重要な手段である。名古屋市は、導水を実施するために、県や関係機関と協力している。導水は、月二―四回なら可能である。日曜日や庄内川増水時、県などに協力要請している。

堀川が生き返った



庄内川から清流カンフル

庄内川の水を受け取った堀川の清流が、市民の笑顔を湛え、水はさらさらと流れていく。この清流は、市民の生活に大きな恩恵をもたらしている。

流れ音たてて
元日には澄んだ水

4日目の清流



効果ばっちり ブルーの堀川

見とれる市民に笑顔

『ずっと続けてほしい』

庄内川の水を受け取った堀川の清流が、市民の笑顔を湛え、水はさらさらと流れていく。この清流は、市民の生活に大きな恩恵をもたらしている。



きれいな水と噴水、タダガスのおもむき。本通の噴水。(1日夕撮影)

堀川がきれいになる

名古屋市民の新年



あすから庄内川の導入

正月休みの期間を利用

名古屋市の堀川が、あすから庄内川の水を受け取ります。この清流は、市民の生活に大きな恩恵をもたらしている。





上



「堀川は緑になるんですよ」と絵巻をふるる長岡亮児さん。さる7日、名古屋市中央区の山王橋上で

堀川、名古屋市の中心部を流れる。昭和51年1月16日、堀川の水がきれいになった。...

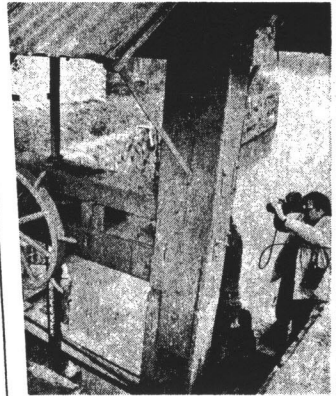
生活排水のみ込む 水源も汚れる一方



生活排水のみ込む 水源も汚れる一方... 市内河川のベストスリー... 死へのカルテ... 元凶は汚水処理場...



中



3れた庄内用水の樋(門)が上げられ、運んだ。それ込んだ一名古瀬市守山地区で昨年12月30日午す

『曾導水』が頼り だが複雑な水利権

『曾導水』が頼り だが複雑な水利権... 市内河川のベストスリー... 死へのカルテ... 元凶は汚水処理場...



下



化へ確かな胎動 Kに流す思想捨てよう

化へ確かな胎動 Kに流す思想捨てよう... 市内河川のベストスリー... 死へのカルテ... 元凶は汚水処理場...

きれいにする会 テレビで紹介

私たちの数々の運動がユニークだとテレビで取り上げられ会員一同大喜び。

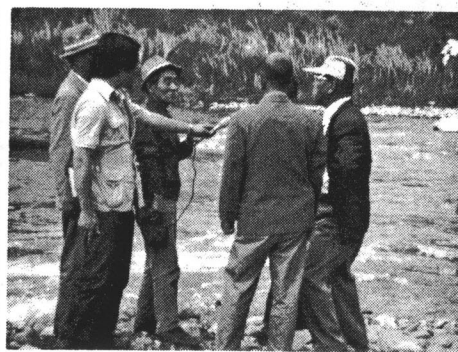
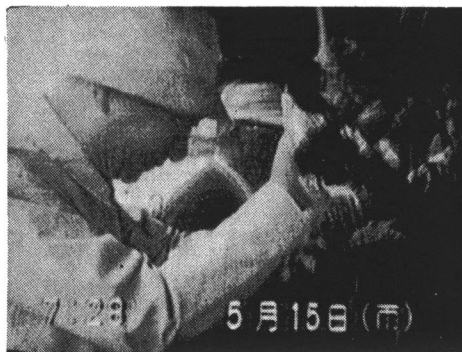
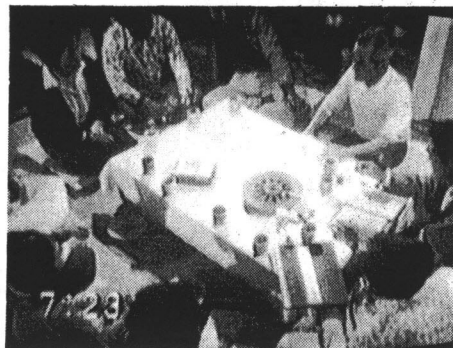
食べられない魚釣り大会と名うっての行事に本当に食べられないのか皆んなで試食。

地下の「赤ひげ」さんで料理され報道陣もいっしょに口にほうばる。「食べられないと言うのはせんざい意識」とがんばった人もなぜか好きです。テレビレポートによって食べられない事証明される。

51. 1. 28 放送

NHKテレビレポート

52. 5. 23 放送



広報なごや

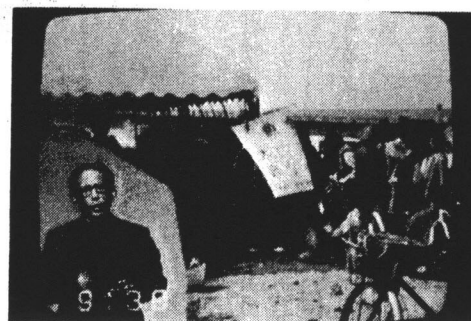
51. 4. 5

市民と市政
真の町づくりのために
本山政成

「この四月から吉原市の...」
「市民と市政」の方向性について...
「市民と市政」の方向性について...
「市民と市政」の方向性について...

CBC市政ニュース

51. 3. 13 放送



行政に力を貸したきれいにする会

私達はかねがね行政と住民とが一緒になって色々な問題を解決していくのが一番の早道だと考えています。

5.3.8

中 日 乗 舟

七日、香江町内庄内川で「矢田庄内川をきれいにする会」の活動が盛んに行われ、環境の美化調査に協力しての取組を、現地の行政と連携して進められた。この調査は、環境美化の促進に資するものである。調査の結果、庄内川の汚染状況が把握された。調査の結果、庄内川の汚染状況が把握された。調査の結果、庄内川の汚染状況が把握された。調査の結果、庄内川の汚染状況が把握された。

フナ、シラハエ採取 安心して魚 庄内川の水質調査

引き受けた環境庁の頼み 矢田庄内川をきれいにする会

5.3.8

食べられない原因調べる きれいにする会 庄内川で魚とり作戦

川の水質調査の結果、魚の採取が困難な状況にあることが明らかになった。原因は、川の水質汚染による魚の死滅と、川底の汚泥による魚の窒息によるものと考えられる。きれいにする会は、この問題を解決するために、魚の採取と水質調査を実施している。

5.3.10

中 日 乗 舟

川の水質調査の結果、魚の採取が困難な状況にあることが明らかになった。原因は、川の水質汚染による魚の死滅と、川底の汚泥による魚の窒息によるものと考えられる。きれいにする会は、この問題を解決するために、魚の採取と水質調査を実施している。

川のきれいな川

丹羽 秀義



川の水質調査の結果、魚の採取が困難な状況にあることが明らかになった。原因は、川の水質汚染による魚の死滅と、川底の汚泥による魚の窒息によるものと考えられる。きれいにする会は、この問題を解決するために、魚の採取と水質調査を実施している。

昭和50年5月27日 (火曜日)

中 日 乗 舟

淡水魚を保護しよう
庄内川の水質調査の結果、魚の採取が困難な状況にあることが明らかになった。原因は、川の水質汚染による魚の死滅と、川底の汚泥による魚の窒息によるものと考えられる。きれいにする会は、この問題を解決するために、魚の採取と水質調査を実施している。

残った自然育てよう 矢田庄内川改修に望む

発言



矢田庄内川改修に望む
矢田庄内川の水質調査の結果、魚の採取が困難な状況にあることが明らかになった。原因は、川の水質汚染による魚の死滅と、川底の汚泥による魚の窒息によるものと考えられる。きれいにする会は、この問題を解決するために、魚の採取と水質調査を実施している。

昭和50年3月26日 (水曜日)

中 日 乗 舟

自然と水を
取り戻そう
庄内川の水質調査の結果、魚の採取が困難な状況にあることが明らかになった。原因は、川の水質汚染による魚の死滅と、川底の汚泥による魚の窒息によるものと考えられる。きれいにする会は、この問題を解決するために、魚の採取と水質調査を実施している。

庄内川は天然石の宝庫

庄内川にはメノウやヘキと呼ばれる土岐石があり、愛石家の関心を集めています。フィッシングショーの中に展示御協力下さったのは守山水石会と北区の酔石会の皆さんでした。



毎日 5/3 27

「川の汚れは心の汚れ」と、庄内川・矢田川の浄化を訴えつづけている「きれいにする会」(丹羽秀義代表、会員約百五十人)は二十六日から三日間、中区の県産業貿易館で開かれているフィッシングショーに交代で出張、二箇の一角に陣をとり、パンフレットとマイクで訴えた。

「もともと川をかわいがろう」と、コーナーではたいやきくたに似たバッジを売り出す一方、心から川の石を愛する守山水石会(安井溪洲会長)・酔石会(加藤剛石会長)が集めた庄内川の土岐石、まぐさ石など二十数点を展示され、人々の足を止めていた。

なお「きれいにする会」の連合員(中、高校生)二十数人は二十八日庄内川水分橋・松河橋の左岸を清掃する。(毎日ホームレポート・守山区小滝、砂原静枝)

映 写 会

川西をはじめ北区の味鋺や守山区大森で4回行なう。
無料の映画に子供達は大喜び

毎 日 薬 斤 屋 月

昭和51年(1976年) 5月20日

河川の浄化を訴える映写会

庄内、矢田川をきれいにする会(丹羽秀義代表)は二十一日午後六時半から、北区味鋺の名古屋町三丁目味鋺文庫で、河川浄化を訴える第一回の映写会を開く。フィルムは市教委の「名古屋市の下水道」「沼池の世界」ほかのおかあさん」二本。無料。同会では今後守山、北河川をはじめ流城各地で映写会を開き、市内矢田川をきれいにしようと呼びかけよう。

第一回 映写会

日ごと大野山のふもとでも鮮やかに咲き、先日行なわれまして庄内川まつりも晴天に恵まれ盛大に終了しました。

さて今月の映写会を企画いたします。今月は下記のように行ないますので皆さんお誘い合わせの上お参り下さい。

記

5月22日(土) 18時30分~8時
名古屋北三銀行味鋺支店3階

5月20日(金) 18時30分~8時
大森市民会館

- ◎名古屋市の下水道 (20分)
- ◎沼池の世界 (20分)
- ◎ぼくのおかあさん (30分)
- ◎公署と一酸化炭素 (20分)



矢田庄内川をきれいにする会
映写会 名古屋北三銀行味鋺支店3階

川を汚さないで
きれいにする会
が愛釣家に訴え

バ ッ ジ で 大 行 進

第一回庄内川まつり

各議員に招待状を出す

西山青年会の協力により「川のうた」の発表会

毎日 5時5分
でっかいのが釣れた

庄内川まつり
後始末もきれいに

庄内川まつり

田中議員を激励あひまう

庄内川まつり開く

田中議員を激励あひまう

自然を取り戻せ-庄内川まつり

バ ッ ジ で 大 行 進

5月7日 庄内川全道
舟の目 5月7日 舟から釣れない魚
内巻 舟回 舟から釣れない魚
(庄内川区域)
舟ががし 等
舟ががし 等
舟ががし 等

第一回 庄内川
バ ッ ジ で 大
5月9日(日)当日雨天の場合には次
期日 新川中筋下流若葉 舟回 舟から釣れない魚
を水にすてみ よう つかまはなれてい る
さかたにきてみ よう つかまはなれてい る

主催 矢田 庄内川をきれにする会

魚は話して
川はどっこからくるんだらう
川はどっこからくるんだらう
川はどっこからくるんだらう
川はどっこからくるんだらう
川はどっこからくるんだらう
川はどっこからくるんだらう
川はどっこからくるんだらう
川はどっこからくるんだらう

安田川内川をきれにする会
(アマノク) の 歌 一色にさいてみよ

門倉 林 彰 詞
林 彰 曲

かわは どっこから くるんだらう
かわは どっこから くるんだらう
かわは どっこから くるんだらう
かわは どっこから くるんだらう

川はどっこからくるんだらう
川はどっこからくるんだらう
川はどっこからくるんだらう
川はどっこからくるんだらう
川はどっこからくるんだらう
川はどっこからくるんだらう
川はどっこからくるんだらう
川はどっこからくるんだらう

魚は話して
川はどっこからくるんだらう
川はどっこからくるんだらう
川はどっこからくるんだらう
川はどっこからくるんだらう
川はどっこからくるんだらう
川はどっこからくるんだらう
川はどっこからくるんだらう

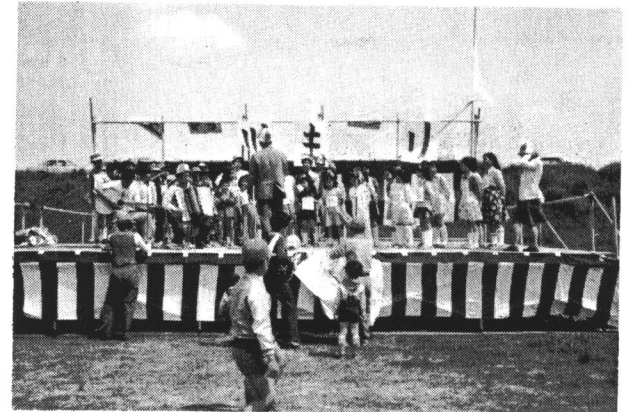
風が吹く五月、野山にびびり鮮やかな色となりてきました。貴殿に多く御健勝のこころ存、全員一同心も喜び申上げます。また日頃は、とと 政のために血力いただき厚くお礼申上げます。

さてこのたび私たちが、矢田庄内川をきれにする会としては別紙のようにより、第一回庄内川まつりを催すことになりました。これは今も市民の皆さんが庄内川に集い、子供たちもたのしく遊びながら、川の自然を見つめ直す良い機会に代わると思っています。計画したものでございます。貴殿にも職務が繁忙のこころは存じますが、お救をお願ひした上で、お茶の下り、申上げます。お誘ひ申上げます。そして、現実の河川を回り、また、県市市民の声を聞き、お聞きして、明らかに、自然に恵れた、稼作うに、組んでいきたいとお願ひ、すまじく、ありませぬ。川の汚れは心の汚れ、これは私たちが今のモットーであります。それ以上の自然汚染、破壊をくい止め、次の世代の人々のために美しく自然をきれいな水を残して頂くのが、私達の責務も考へられます。どうか私たちが、全員一同の意志とお汲みしたい、今後ともよくご流下下さいますようお願い申上げます。

先づは、庄内川まつり、お集り申上げます。

五月五日

矢田 庄内川をきれにする会
世話人代表 丹羽 秀 殿



浄化のテスト

県が9年ぶりに鮎放流

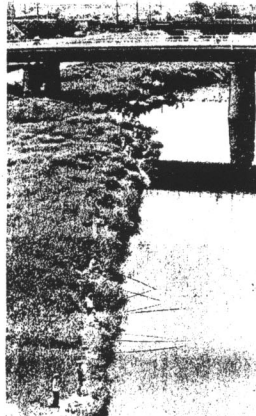
これを期にきれいにする会の鮎の追跡調査が始まる。



浄化を証明してくれ
3月9日のアユ放流から約1ヶ月経ち、川の水質が改善され、魚類の繁殖も進んでいる。川沿いの清掃活動も、市民の関心も高まっている。

元気に育てよ！

庄内川 9年ぶりアユ放流



若アユ
おどれ

庄内川放流に踏み切る

9年ぶり復活
浄化運動にはずみ



試される浄化度

庄内川 9年ぶり稚アユ放流

愛知県 14日に一万七千匹



死の川 浄化のあかし

放流アユミを喜ぶ

百匹級の大物も
来年は釣りも出る



声はずむ 試し探り

庄内川アユ放流のあかし



稚アユ 大きく育つて

庄内川 9年ぶり稚アユ放流

矢田川の上流、瀬戸市の努力

瀬戸市は中小の陶器業者が多く浄化対策をする力がありません。私達は瀬戸市長と会談し、県や国からの浄化に対する援助資金が必要なことを痛切に感じました。

昭和51年9月1日 (水曜日) 瀬戸市

上流さん、協力を

矢田・庄内川を瀬戸市で看板立て

矢田・庄内川を瀬戸市で看板立て... (Text describing the initiative to clean up the upper reaches of the Yada and Sanei rivers, involving local businesses and government support.)

瀬戸川高濃度の鉛と鉛化合物

輸出大手メーカー 調査

二 瀬戸工場を手入れ
本報の八九、四九、一信

カドミウムも
輸出大手メーカー 調査

公害防止は後回し
瀬戸川の水質汚染が深刻化している。鉛と鉛化合物の濃度が異常に高いことが判明した。調査は輸出大手メーカーを対象に行われ、結果が公表された。

魚に大量の寄生虫

瀬戸市の『生で食べないで』

毒薬 人体に寄生の恐れ

瀬戸市の河川で大量の寄生虫が魚に寄生していることが確認された。市民に「生で食べないで」との注意喚起が行われている。寄生虫の種類や感染経路についても詳しく説明されている。

中 乗子 尾崎 昭和51年7月14日

汚濁水は流しません

瀬戸の陶器工場がスクラム

当社排水口はここに

名入り看板設置始まる

願いは白い川返上



排水口表示の看板を立てる瀬戸市下瀬戸町の陣屋川で。 (Caption for the photo showing the installation of a drainage sign.)

瀬戸市の陶器工場が、河川への排水口表示の看板を設置し、汚濁水を流さないという決意を表明している。これは「白い川返上」を目指す取り組みの一環である。

盛夏の候、貴殿には早くも清栄のこころいとおよろこび申す。さて七月十日付中日新聞によれば「汚濁水は流しません」見だして瀬戸の製工、釉薬関係の工場が具陶磁器工業組合の指導のもとで自社工場排水口を明示し「白濁の川の返上」とあるこの記事が報じられて居りました。

私も、矢田庄内川をきれいにすゝ合ては、かねてより河川浄化自然環境美化を目的として微力ながらも活動を行ってまいりました。今會員一同の度、瀬戸よかに、公害防止の認識のため自らの汚染源に責任をもつよう陶磁器工業組合提唱を歓迎するものであります。

貴殿もすてに存りと思ふ事が河川汚染は心の汚れ... 私どもの合意は、モーターの看板と、矢田庄内川流域の各所にたて、広く市民に河川浄化を訴えておきます。瀬戸の川に排水口明示の運動の起す折に、このモーター看板と、矢田川の上流である瀬戸川もたてさせて、瀬戸市民の皆さんと共に浄化運動を推進して行きたいと思ひます。また住民と行政が一つになつて、このような運動を推進すれば、次世代にわたる水と空気の社会を、言う私達の理想が、早く達成できると思ひます。

貴殿の賛同を得ることが、私は誠に幸ひに存じます。突然の勝手な申すでは、私どもが私どもの合意とするところをお汲みいただき、是非、心をお願ひ申す。誠に、貴殿の御都合をお伺ひたい。お話し合を、お願ひ申す。

八月四日 矢田庄内川をきれいにすゝ合
代表世話人 丹羽秀義
瀬戸市長 加藤繁太郎 殿

遊びの中から川の現状をさぐる

矢田庄内川をきれいにする会の中に
釣りクラブ“山彦会”作る

昭和51年9月26日 (日曜日) 市民版

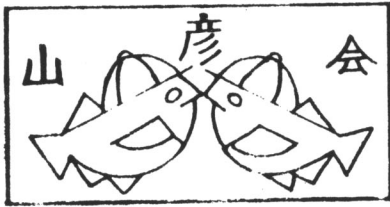
『山彦会』28日に発会

川をきれいにし釣り楽しもう

矢田庄内川の水質汚染が深刻化している中、矢田庄内川をきれいにし、釣りを楽しむ会「山彦会」が28日に発会した。発会式は、矢田庄内川沿いの山彦会会館で行われ、約40名が参加した。山彦会は、矢田庄内川の水質汚染を防止し、釣りを楽しむ会として活動する。発会式では、山彦会会長の山彦太郎氏が、矢田庄内川の水質汚染の現状と、山彦会の活動方針を述べた。山彦太郎氏は、「矢田庄内川の水質汚染は、私たちの生活に大きな影響を与えている。山彦会は、この問題を解決するために活動する。釣りを楽しむだけでなく、川をきれいにし、自然を保全していくことが私たちの使命である」と述べた。山彦会は、毎月1回、矢田庄内川沿いの清掃活動を行う。また、釣りを楽しむだけでなく、川の水質を調査し、その結果を公表していく。山彦会は、矢田庄内川沿いの住民と協力して活動していく。山彦会は、矢田庄内川沿いの住民と協力して活動していく。山彦会は、矢田庄内川沿いの住民と協力して活動していく。

清溪流釣クラブ

会 則



矢田庄内川をきれいにする会

昭和51年(1976年) 11月11日 (木曜日)

釣りがてらに 雲出川を美しく

名古屋の愛好者 名古屋市内を流れる矢田川、矢田川をきれいにする会(名古屋)が、矢田川沿いの山彦会(名古屋)と協力して、矢田川の水質汚染を防止し、釣りを楽しむ会として活動する。山彦会は、毎月1回、矢田川沿いの清掃活動を行う。また、釣りを楽しむだけでなく、川の水質を調査し、その結果を公表していく。山彦会は、矢田川沿いの住民と協力して活動していく。山彦会は、矢田川沿いの住民と協力して活動していく。

毎週 卵名刺を供

山彦会は、毎月1回、矢田川沿いの清掃活動を行う。また、釣りを楽しむだけでなく、川の水質を調査し、その結果を公表していく。山彦会は、矢田川沿いの住民と協力して活動していく。山彦会は、矢田川沿いの住民と協力して活動していく。

趣味通じ浄化の輪

矢田庄内川の水質汚染を防止し、釣りを楽しむ会「山彦会」が、毎月1回、矢田庄内川沿いの清掃活動を行う。また、釣りを楽しむだけでなく、川の水質を調査し、その結果を公表していく。山彦会は、矢田庄内川沿いの住民と協力して活動していく。山彦会は、矢田庄内川沿いの住民と協力して活動していく。

中スポーツ

昭和51年10月4日 (月曜日)

山彦会は、毎月1回、矢田庄内川沿いの清掃活動を行う。また、釣りを楽しむだけでなく、川の水質を調査し、その結果を公表していく。山彦会は、矢田庄内川沿いの住民と協力して活動していく。山彦会は、矢田庄内川沿いの住民と協力して活動していく。

山彦会会則

第 1 条 当釣りクラブは山彦会と称し、クラブ創設の意図は、名古屋市内を汚濁して流れる矢田川と庄内川のすべての汚染源に対し、きれいで而も快適であった過去の生活環境を取り戻すべく運動し、これを次の世代にまで引き継ぐことにある。

第 2 条 当釣りクラブは「川の汚れは心の汚れ」の相言葉をスローガンに、より豊かで爽やかな町創りをねがう『矢田・庄内川をきれいにする会』の会員の集結によって主動する。

第 3 条 当釣りクラブは本部及び連絡所を次の通り置く。

本 部 守山区大字守山市場 2 9 竹内久雄方

TEL 7 9 1 ~ 2 6 7 6

連絡所 守山区大字瀬古字川西 4 1 9 能勢美良方

TEL 7 9 3 ~ 0 6 7 3

昭 和 区 前 山 町 3 の 4 6 近藤爽風方

TEL 7 6 1 ~ 8 4 2 0

第 4 条 当釣りクラブは主として清流、溪流釣りをスポーツとして愛好する明朗にして健全な精神の会員によって構成する。

第 5 条 当釣りクラブの運営の目的は次の通りとする。

- 1 釣場の開拓、釣技の指導と研究
- 2 清流、溪流釣りの向上と発展
- 3 淡水魚保護観念の養成

4 釣りのマナー、エチケットの遵守

5 会員相互の親睦と交歓

6 『矢田・庄内川をきれいにする会』の成長

第 6 条 当釣りクラブには次の役員を置く。

1 相談役一名 2 名誉会長一名 3 会長一名

4 副会長二名 5 事務長一名 6 書記一名

7 渉外一名 8 会計一名 9 会計監査一名

10 幹事若干名

第 7 条 当釣りクラブの役員は会長のみ互選により選出し、他の役員の選出は会長に一任する任期は総会を終期とした一ケ年とし再任を妨げない。又役員任期中に欠員が生じたときは、役員会の諮問により選出することとし、その際の任期は総会までの残余期間とする。

第 8 条 当釣りクラブには次の機関を置く。

1 総 会 クラブの規定する年度末に開催し、翌年度の事業計画、会則の改訂、補足、役員
の改選及び、当該年度の表彰式等を行なう。

2 役 員 会 釣行会の計画及び諸事業推進のため、毎月釣会の終了後に行なう。

3 大 会 毎年3月、6月、10月、12月の四回シラハエ釣りを行なう。

4 月 例 会 大会の月以外に毎月一回シラハエ釣りを
行う。

5 月間長寸記 録 会 シラハエは一ケ年を通じて毎月、あまごは3月、4月、5月、6月、7月、8月の計六回行なう。

6 指 導 会 必要に応じて釣技を指導する。

7 魚 供 養 毎年末の釣行会時に現場にて行なう。

第 9 条 当釣りクラブは正会員と準会員の二会員制とし、その資格は次の通りとする。

1 正 会 員 高校生以下の男子のみ。

2 準 会 員 中学生以下の男子と一般女子。

第 1 0 条 当釣りクラブの運営費は入会金、会費、釣行会の参加料及び寄付金等によってまかない、クラブの規定する諸金額を次の通りとする。

1 入 会 金 正会員¥700(但し、きれいにする会
の入会金¥200を含む)

準会員¥700(同上とクラブのバッチ
代を含む)

2 会 費 正会員¥1,300(但し、きれいにする
会の会費¥100を含む)2ヶ
月分づつ前納

準会員¥500

3 釣会参加料 正会員 クラブの規定する車の走行負担
額を差引いた残額を参加人数で
分割して支払う。

準会員¥200

第 1 1 条 当釣りクラブの会員は、四ヶ月以上故意に会費を滞納した場合は、クラブを退会するものとみなして除名する。

第 1 2 条 当釣りクラブへの入会、退会の手続きは次の通りとする。

1 入会に際しては一応在籍会員の推選を必要とし、規定の入会金会費及び会帽、会章代を納入し、同時に住所、氏名、連絡電話番号等を必ず役員まで届け出なければならない。

2 退会に際しては、必ず退会する月までの会費を納入し、役員に連絡して退会しなければならない。但し再入会は役員会の諮問により諾否を決定する。

第 1 3 条 当釣りクラブの諸釣行会には次の各賞を設け、入賞順に規定の点数を加点し、年間賞の対象とする。(表彰規定は別紙)

1 大会賞 2 月例会賞 3 月間長寸記録会優償者賞
4 大会、月例会長寸賞 5 大会例会珍魚賞 6 大会
例会ピットリ賞 7 飛入賞 8 月間大物賞 9 年
間大物賞 10 年間大物大象賞 11 年間釣技賞 12 年
間特別賞 他に大会参加賞(記念品)等

第 1 4 条 当釣りクラブの会員は、必ず次の各項目を遵守しなければいけない。

1 会員は、釣場の汚染防止を常に心掛け、河川の浄化運動を推進する『矢田・庄内川をきれいにする会』の名誉を重んじなければいけない。

2 当釣りクラブ内へは、絶対に政事、政党色を導入した

りして、会員の人権を脅やかしてはいけない。

- 3 クラブの開催した釣行政では、クラブ活動という見地からも、我意を強調した迷惑プレーをしたり、地区的交友グループによる煽動的謀反行為をしてはならない。
- 4 クラブが開催した釣行会では会員の釣りに対する士気を喪失させたり、クラブの統制を乱さないためにも競釣中に、当日の対象魚以外の釣りを行ったり、自棄的に釣りを中止するような行為をしてはならない。
- 5 クラブの開催した釣行会では絶対に八百長行為をしてはならない。
- 6 クラブの開催した釣行会では、物見遊山的な気分を慎しみ、飲酒などをして他人や殊に運転士へ迷惑を避けぬとともに、水難や交通事故等の防止には万全を期するように心掛けねばならない。
- 7 クラブの開催する釣行会には、極力、会員相互が勧誘し合い、一人でも多く参加するように心掛けねばならない。
- 8 当釣りクラブの会員は、各河川での禁漁方法や、禁漁期間（産卵時期をも含む）及び禁漁区域への立入り並に稚漁の補獲等を行ってはならない。
又、遊漁に際しては必ず各釣場の規定する入川料を支払い、これを拒否するようなことがあってはならない。
- 9 以上の各項目の規制に甚だしく違反し、会員の再三に亘る勧告にも服さないときは役員会の諮問により除名す

ることがある。

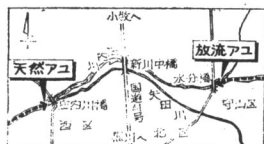
- 第15条 当釣りクラブの開催した釣行会で、万が一会員が不慮の死傷事故に遭遇したり、運転士が交通違反をしたときは、その原因は飽くまでも、本人の不注意によるものとみなし、その責任は一切誰も負わない。
- 第16条 この会則の改訂と補足は総会にはかり、会員の了解を得るものとする。
- 第17条 この会則の有効期間は昭和53年11月1日より効力を発し、次期総会までとする。

—以上—

山彦会役員名簿

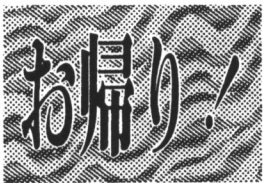
相談役	竹内久雄	守山、市場29	791-2676
名誉会長	丹羽秀義	守山、瀬古川西270	793-0677
会長	鈴木敏魚	〃 〃 409	793-5661
副会長	笹尾喜久魚	〃 小幡西島34	793-7753
副会長	村山峰夫	瀬戸菱野台地八幡台36-61	0561 82-1267
事務長	近藤爽風	昭和前山町3の46 日産サニー東山寮	761-8420
書記	堀田幸博	北、安井町郷中345の18	913-2866
渉外	埜崎秀也	北、上飯田通り1の24 野崎石油店	914-2771
会計	竹内敏憲	北、上飯田北町4の1	913-5657
会計監査	能勢美良	守山、瀬古川西419	793-0673
幹事長	松田 勇	〃 〃 68	793-1037
幹事	宮田照由	守山、瀬古川西341	794-3876
幹事	阿部信一	北、上飯田南荘1棟409	915-0791
幹事	伊藤重治	江南市大字曾本1441の3	05875 5-4775

天然鮎がいたことにより食べられるかも知れない釣り大会と名をかける。



庄内川で発見された天然アユ

庄内川に11年ぶり伊勢湾育ち



広 正機 取材

食べられるかも知れない魚釣り大会へ

きれいにすまると変わ

庄内川で発見された天然アユは、伊勢湾で育ち、今年四月、各県市山田市の庄内川に遡上して来た。発見されたのは、今年四月、各県市山田市の庄内川に遡上して来た。発見されたのは、今年四月、各県市山田市の庄内川に遡上して来た。



昭和51年(1976年) 10月25日 (月曜日)



庄内川

名港浄化も裏付け

庄内川は、きれいな水で、釣りが盛んで、今年四月、各県市山田市の庄内川に遡上して来た。発見されたのは、今年四月、各県市山田市の庄内川に遡上して来た。

少しは食べられた!

昭和51年10月25日 (月曜日)



庄内川で魚釣り試食大会

浄化作戦いま一歩

シラハエ フナは臭くて...
まずまず

「一部は食べられた!」天然アユ発見、庄内川で魚釣り試食大会。天然アユ発見、庄内川で魚釣り試食大会。天然アユ発見、庄内川で魚釣り試食大会。

中スポーツ

昭和51年10月10日

「食べられた!」天然アユ発見、庄内川で魚釣り試食大会。天然アユ発見、庄内川で魚釣り試食大会。天然アユ発見、庄内川で魚釣り試食大会。

川の監視コイに委託

中 日 兼 岸 昭和51年10月19日

庄内川の水質を監視するために、川にコイを放流する。コイは川の水を食べて成長し、その成長具合から水質の良悪を判断する。また、コイは川を掃除する働きもある。この方法が復活された事は魚にとっても私たちにとてもうれしいことです。



氷に凍りついた庄内川にコイを放つ釣り農園さんたち。中川区菟田町万場で

釣具商組合 庄内川などへ放流

大きく育て、コイ3万匹

庄内川の水質を監視するために、川にコイを放流する。コイは川の水を食べて成長し、その成長具合から水質の良悪を判断する。また、コイは川を掃除する働きもある。この方法が復活された事は魚にとっても私たちにとてもうれしいことです。

連絡は報道部へ
541局7848.7849
投稿、報道写真、催し物のご連絡を歓迎します。

購読お申込みは (052) 5411920
広告お申込みは (0598) 711-7760
新読みチラシお申込みは (052) 811-9846

市内

千種区青柳町4の2 春岡小3年 高山 由香

川をもっと美しく

釣具商組合 今年も稚コイ放流

庄内川の水質を監視するために、川にコイを放流する。コイは川の水を食べて成長し、その成長具合から水質の良悪を判断する。また、コイは川を掃除する働きもある。この方法が復活された事は魚にとっても私たちにとてもうれしいことです。



庄内川に放流される稚コイ守りの水産

魚の住み家をもっと多く

現在の河川の護岸工事はコンクリートでかためたそっこう型です。そだ工法が復活された事は魚にとっても私たちにとてもうれしいことです。

「そだ工法」復活します

庄内・矢田川の護岸工事

魚に住み家、堤防に緑を

工費も安上がり
今秋ニカ所着工

従来の護岸工法は、コンクリートでかためたそっこう型です。この工法は、魚の住み家を増やし、堤防に緑を回復させる効果があります。

（中） （日） （兼） （岸）

看板 100本目 市長がくいうち

堀川をきれいにする会（会長 豊島清吉氏）も参加し堀川の清掃をする。

フィッシュオン 3月号に紹介



川に生命を

新年に賭ける

黙ってみとれるか

浄化運動いつまでも 庄内っ子夫婦の意気

「川をきれいにする会」の活動が、市民の注目を集めている。この活動は、堀川の水質を改善し、環境をきれいにするための取り組みである。市民の協力と努力が、この活動の成功の鍵となる。



清流、願って100本目

矢田・庄内川をきれいにする会
2周年記念し市長くい打ち

「川をきれいにする会」は、今年で活動2周年を迎える。この間、市民の協力により、100本の看板が設置された。この看板は、市民の注目を集め、川の水質改善のための取り組みをアピールしている。



川の汚れは心の汚れ

200本目の看板設置式

●マイクで「川の浄化にご協力を」と訴える市長

市長は、この機会に市民に対して、川の浄化にご協力をお願いした。市長は、川の水質改善は、市民の生活の質を向上させるために不可欠であると述べた。

●川の汚れは心の汚れ……

名古屋市長も呼びかける

撮影 本誌編集部

名古屋市長もこの活動に呼びかけ、市民の注目を集めている。市長は、川の水質改善は、市民の生活の質を向上させるために不可欠であると述べた。

去る12月20日、矢田・庄内川をきれいにする会（名古屋市長守山区瀬古川南270、丹羽秀義会長、052・793・0677）では名古屋市長を迎えて、「川の汚れは心の汚れ、川をきれいにしよう」の立看板を、名古屋市北区城北橋近くの黒川べりに立てた。

同会では市民運動として、名古屋近郊を流れる矢田川・庄内川の浄化を断ってきたが、この日で100本めの看板を、矢田川から名古屋城の堀へ水を引いている黒川べりに立てたもの。

この日、本山名古屋市長は多くの矢田・庄内川を守る会会員や市民の見守るなか、看板の打ち直しを終え、その後マイクで、会の努力に対し感謝の意を述べるとともに、市当局も努力するから、市民のみならずもいっそうご協力をいただきたいと断え、道行く人々の拍手をあげた。

昭和51年12月13日 (四曜)

昭和51年(1976年)12月12日(日曜)

20日に100本目 市長くい打ち

堀川の汚染防止の看板

「川をきれいにする会」は、今年で活動2周年を迎える。この間、市民の協力により、100本の看板が設置された。この看板は、市民の注目を集め、川の水質改善のための取り組みをアピールしている。

市民版

川の汚れは心の汚れ

さっそく川を掃除

盛り上がり強い住民運動

「川をきれいにする会」は、今年で活動2周年を迎える。この間、市民の協力により、100本の看板が設置された。この看板は、市民の注目を集め、川の水質改善のための取り組みをアピールしている。



川の汚れは心の汚れ

200本目の看板設置式

●丹羽秀義（矢田・庄内川をきれいにする会）会長と熱心な会員たち

●看板の打ち直しをする本山名古屋市長

市長は、この機会に市民に対して、川の浄化にご協力をお願いした。市長は、川の水質改善は、市民の生活の質を向上させるために不可欠であると述べた。

魚死なせた代償にコイ放流

漁業権のない矢田川に企業が進んで魚を放流した事はかっきのな事です。又施設の改善も早急にされ、今後二度とくりかえさない対策がなされた事は大いに評価すべきです。なお、この事件の発見者は会員の竹内久雄さんです。

魚死なせてごめんなさい

大和鍍金など矢田川へコイ放流 千種区



大きく育て一万匹

メツキ液し 現物補償でおわび

徳区高崎町千原の山田、香流川合流付近で九日、コイ一万匹が放流された。放流したのは矢田川をきれいにする会(丹羽秀代表世話会)による。丹羽秀代表世話会、名目釣具商組合(千種区)は、先月、同工業が多量に放流したコイ、フナ約一万匹が死んだ。その結果、丹羽会長ら代表取締役は、昨午十月、千種の矢田川でコイ四千匹を放流した。結果、コイが死んだ。現物補償(代金)が、この日の放流となった。コイは、海部郡菟野町の生産地から運送した。年もの。大きなコイは、ほいほい大きくなった。魚の出産者が多量に放流された。矢田川の深さ(五十センチ)を見ながら、河川管理の場には、川も汚れている。河川の浄化は、川も汚れている。河川の浄化は、川も汚れている。河川の浄化は、川も汚れている。

元気に泳ぐ

コを放流する大和鍍金の従業員と川をきれいにする会の人たち

矢田川にシアン流出

四千人の致死量

通報怠った工場長調べる

千種区、矢田川合流付近で九日、コイ一万匹が放流された。放流したのは矢田川をきれいにする会(丹羽秀代表世話会)による。丹羽秀代表世話会、名目釣具商組合(千種区)は、先月、同工業が多量に放流したコイ、フナ約一万匹が死んだ。その結果、丹羽会長ら代表取締役は、昨午十月、千種の矢田川でコイ四千匹を放流した。結果、コイが死んだ。現物補償(代金)が、この日の放流となった。コイは、海部郡菟野町の生産地から運送した。年もの。大きなコイは、ほいほい大きくなった。魚の出産者が多量に放流された。矢田川の深さ(五十センチ)を見ながら、河川管理の場には、川も汚れている。河川の浄化は、川も汚れている。河川の浄化は、川も汚れている。



シアンを流して大量の魚を死なせた大和鍍金工場と矢田川の風景(千種区高崎町大字千原)

庄内川の汚染源 王子製紙も有力

王子製紙の排水口より下流はいつの間か漁業権が放棄され、汚染を野放し庄内川を汚す原因は上流部の陶土と中流部の王子製紙又一般家庭で使われる合成洗剤です。大量の水をくみ上げ使う王子製紙はきれいな水にもどし排水すべきである。

昭和52年2月19日 (土曜日) 12版 (16)

下流住民とも話し合いを 王子製紙春日井工場の増設



被害は庄内川に

きれいにする会 工場へ申し入れ

春日井市へ話し合いへ

庄内川下流の住民は水もへられぬ川に汚染の被害を受け、昨年4月、本誌に「川に申し入れ」の報告を掲載した。この報告を受けて、王子製紙春日井工場は、下流住民と話し合い、排水口より下流に排水しないよう申し入れた。しかし、工場側は「排水口より下流に排水しないよう申し入れた」とは認めない。また、工場側は「排水口より下流に排水しないよう申し入れた」とは認めない。また、工場側は「排水口より下流に排水しないよう申し入れた」とは認めない。

昭和52年2月22日

矢田・庄内川をきれいにする会
御中

王子製紙株式会社春日井工場
業務部

拝啓 過日、ご送付の貴書簡拝見致しました。

弊場の今次の増設計画につきましては、所管行政機関に既にご報告致し、春日井市においては専門調査委員会により専門的角度からご審議を願っております。

弊場では、この指導に基づき、増設に伴う環境対策を鋭意推進する所存ですが、排水問題につきましては必要増分バルブを輸入により賄うことにより、水質汚濁の負荷は殆んどなく、且つその処理にも万全を期するため、現状より悪化することはありませんので宜しくご理解の程お願い申し上げます。

敬具

矢田 庄内川をきれいにする会

庄内川下流の住民の代表としてお尋ねします。春日井市ではこの度の王子製紙(株)春日井工場の ティンバー工場増設計画について地元住民と学識経験者で構成される専門委員会を發足させ、この計画によって生ずる恐れのある公害その他の問題について審議され、地元の市民に対しては説明は充分にされることと思います。一般社会では隣家に迷惑を及ぼすようなときには挨拶をしてお詫言をするのが常識であり礼儀であります。が、王子製紙、春日井工場は、庄内川下流沿岸住民には何の断りもなく過去二十数年にわたり汚濁排水を流し続けてきました。

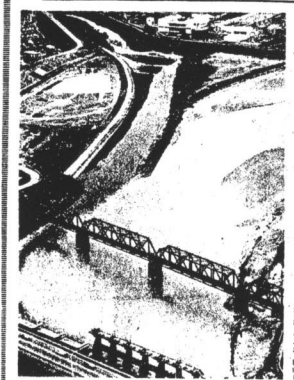
私たち 矢田庄内川をきれいにする会は、この河川の汚れを少しでもとり除き、次代の青少年にきれいな水とあたたかい社会を作るために運動してまいりました。過去二年余りの活動により、多くの市民の支持も得て、庄内川の水は少づつきれいになり、私たちも希望もって川を見守っております。この時期にティンバー工場増設により、少しでも工場排水が多くなると言うことは私たち会員及び沿岸住民に大きな不安を抱かせるものであります。

この私たちの不安を解消するため、工場増設計画が実施された場合の公害、排水等の諸問題について、下流住民の私たちに納得のできる御説明をいたされるよう、心からお願ひするものであります。

河川及び自然環境の浄化を目標として、さやかながら活動をつづける私たち会員の要望をお汲みいただき、多忙のころは存じますが、是非ともこの問題について、2月中旬に御返答を文書にて、お願ひいたします。

矢田 庄内川をきれいにする会
名古屋市中区津島南270.
TEL 052-793-0677
会に在り

水はみきたし 悪臭にわい



庄内川と堀川の両色水が混合する。手前が庄内製紙工場の排水、奥が堀川の水。この付近で悪臭が発生している。

庄内川と堀川 浄化作戦に難問

消えないパルプ臭
 悪臭名 取水口近く下水流入

【本紙記者 庄内川】庄内川と堀川の両色水が混合する。手前が庄内製紙工場の排水、奥が堀川の水。この付近で悪臭が発生している。悪臭の原因は、パルプ臭とされている。この悪臭は、取水口近くで発生している。この悪臭は、取水口近くで発生している。この悪臭は、取水口近くで発生している。

脱臭に今後も努力
 中国製紙工業会が、脱臭剤の使用を奨励している。また、脱臭剤の使用を奨励している。また、脱臭剤の使用を奨励している。また、脱臭剤の使用を奨励している。また、脱臭剤の使用を奨励している。

環境・国内診断

立ちあがる住民

【本紙記者 庄内川】環境・国内診断。立ちあがる住民。環境・国内診断。立ちあがる住民。環境・国内診断。立ちあがる住民。環境・国内診断。立ちあがる住民。



浄化のために、ます心の汚れをとらう—と戸籍簿を掲げる「失田・庄内川をきれいにする会」の人たち

手を打たぬ企業

地道な精神革命で迫る

【本紙記者 庄内川】手を打たぬ企業。地道な精神革命で迫る。手を打たぬ企業。地道な精神革命で迫る。手を打たぬ企業。地道な精神革命で迫る。手を打たぬ企業。地道な精神革命で迫る。



代表者

【本紙記者 庄内川】代表者。手を打たぬ企業。地道な精神革命で迫る。代表者。手を打たぬ企業。地道な精神革命で迫る。代表者。手を打たぬ企業。地道な精神革命で迫る。

市民の力で包囲を

失田・庄内川

【本紙記者 庄内川】市民の力で包囲を。失田・庄内川。市民の力で包囲を。失田・庄内川。市民の力で包囲を。失田・庄内川。市民の力で包囲を。

企業に甘すぎる

春日井市と王子製紙の新公害防止協定案



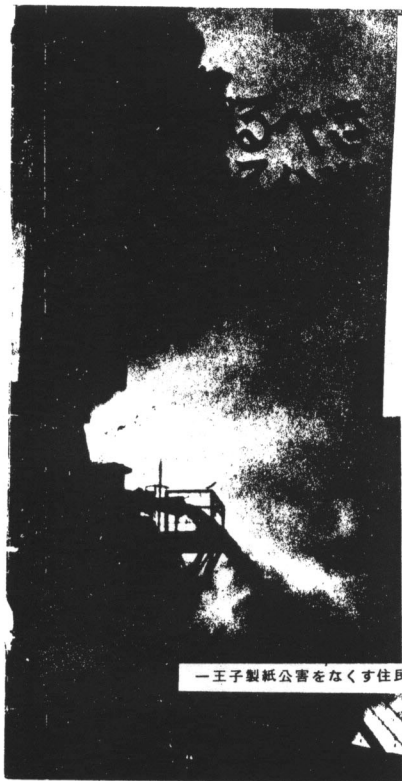
春日井市と王子製紙の新公害防止協定案。協定案の内容は、春日井市と王子製紙の間で締結された。

「楽にパス」と怒る住民

市「画期的な内容」と反論

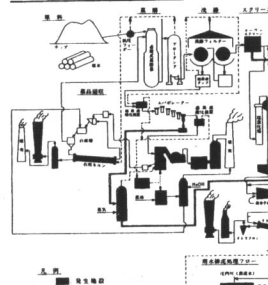
【本紙記者 春日井市】「楽にパス」と怒る住民。市「画期的な内容」と反論。楽にパス。怒る住民。市「画期的な内容」と反論。楽にパス。怒る住民。市「画期的な内容」と反論。

【本紙記者 春日井市】楽にパス。怒る住民。市「画期的な内容」と反論。楽にパス。怒る住民。市「画期的な内容」と反論。楽にパス。怒る住民。市「画期的な内容」と反論。



— 王子製紙公害をなくす住居 —

清気、臭気、排水処理フロー



環境改善対策の概要

項目	水				臭		大気	
	汚水	COD	BOD	SS	悪臭物質	悪臭ガス	ばいじん	大気汚染物質
基準	20ppm	20ppm	20ppm	20ppm	臭気 11'	臭気 11'	臭気 11'	臭気 11'
対策	1. 汚水処理装置の改良 2. 活性汚染処理 3. 高圧による汚染物質の除去 4. 高圧による臭気物質の除去 5. 高圧による臭気物質の除去 6. 高圧による臭気物質の除去 7. スクラブによる臭気物質の除去 8. スクラブによる臭気物質の除去	1. O&Aタイプによる臭気物質の除去 2. 臭気物質の除去 3. 臭気物質の除去	1. 臭気物質の除去 2. 臭気物質の除去 3. 臭気物質の除去 4. 臭気物質の除去 5. 臭気物質の除去 6. 臭気物質の除去 7. 臭気物質の除去 8. 臭気物質の除去	1. 臭気物質の除去 2. 臭気物質の除去 3. 臭気物質の除去 4. 臭気物質の除去 5. 臭気物質の除去 6. 臭気物質の除去 7. 臭気物質の除去 8. 臭気物質の除去	1. 臭気物質の除去 2. 臭気物質の除去 3. 臭気物質の除去 4. 臭気物質の除去 5. 臭気物質の除去 6. 臭気物質の除去 7. 臭気物質の除去 8. 臭気物質の除去	1. 臭気物質の除去 2. 臭気物質の除去 3. 臭気物質の除去 4. 臭気物質の除去 5. 臭気物質の除去 6. 臭気物質の除去 7. 臭気物質の除去 8. 臭気物質の除去	1. 臭気物質の除去 2. 臭気物質の除去 3. 臭気物質の除去 4. 臭気物質の除去 5. 臭気物質の除去 6. 臭気物質の除去 7. 臭気物質の除去 8. 臭気物質の除去	1. 臭気物質の除去 2. 臭気物質の除去 3. 臭気物質の除去 4. 臭気物質の除去 5. 臭気物質の除去 6. 臭気物質の除去 7. 臭気物質の除去 8. 臭気物質の除去

3. クラフト法による製紙工程と公害

王子製紙K-K春日井工場はクラフト法という化学的方法で紙をつくっています。その工程とそれから発生する公害について説明します。紙の原料は木材を細かくしたチップというもので、その主成分はセルロースとリグニンです。セルロースは繊維質をつっており、リグニンはそれらを固め合わせる接着剤の役目をしていいます。春日井工場がついているような上質紙は繊維質のみでできていますので、リグニンをとり除く蒸解という操作が必要になります。クラフト法では連続蒸解釜の中でチップに白液、つまり可溶性ソーダ（水酸化ナトリウム）と硫化ソーダ（硫化ナトリウム）の水溶液を加え、重油ボイラーでつくったスチーム（水蒸気）を送って加熱します。

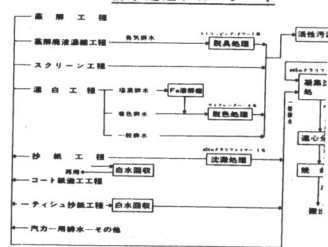
するとリグニンは化学変化を起こしながら白液に溶けて全体は黒色になります。これが黒液というものです。と同時にここで悪臭物質、つまりメチルメルカプタン、ジメチルサルファイド、ジメチルジサルファイド、硫化水素ができます。また重油ボイラーからは他の工場のボイラーと同じく亜硫酸ガス（硫酸酸化物）、窒素酸化物、煤塵（スス）が出ます。次の洗浄工程では、残った繊維質と黒液をこし分け、繊維質の方はさらに水洗いしゴミをとり除きます。こうして得られた繊維質は褐色をおびていますので、白い紙をつくるためには塩素とその化合物をつかって漂白（晒工程）します。洗浄工程と晒工程からは黒褐色に着色し悪臭を放なつ着色排水が出ます。最後に、繊維質をからみ易くするため毛ば立たせるなどの調整をし、これを大量の水に浮遊させて言わゆる「すく」という操作（抄紙工程）を行ない、仕上げをして紙がで上がります。この抄紙工程からは大量の一般排水が出ます。着色排水や一般排水には木のアクや製紙カスなど有名なヘドロが含まれています。

さて黒液の方ですが、これは悪臭物質リグニン分と共に有効な薬品が溶けています。クラフト法ではこの薬品を再生してもう一度つかいます。この薬品回収工程は次のようになっています。まず不溶性リグニン分などを燃やしてとり除くために黒液自身をエバポレーターで濃縮します。このとき、加熱するわけですから悪臭物質が蒸発して出ていきます。これができるだけおさえるため悪臭物質や水蒸気を冷却して凝縮させます。こうしてできたものがものすい悪臭を放なつ凝縮水です。十分に煮つまった黒液は回収ボイラーの炎の中に霧のようにして吹き込んで燃焼させます。すると有効な薬品の方は化学変化をし、熱のためろけて下にたまりまます。これをスモルト（熔融物）と言います。この回収ボイラーは公害の親分で、これからは重油ボイラーと同じ汚染物質に加えて、燃え残った悪臭物質それに芒硝（硫酸ナトリウム）、炭酸ソーダ（炭酸ナトリウム）など有効な薬品が下にたまり切らず粉塵として出てきます。次にスモルトをテゾルバーで水に溶かすと、緑色をした言わゆる緑液になります。ここでも、たき火に水をかけると同じで粉塵が出ます。

次に石灰石（炭酸カルシウム）を石灰キルンで焼いて生石灰（酸化カルシウム）をつくり、これを緑液に加えると、化学変化を起こしてもとの白液に戻ります。と同時に生石灰ももとの石灰石に戻りますのでこれは再び石灰キルンで焼きます。この石灰キルンからは石灰の粉塵や悪臭物質が出ます。

この他に製紙工場は仕上げを含めた抄紙工程を中心に騒音を出します。又大量の水を必要とするため地下水を汲み上げ、地盤沈下の原因をつくりまます。

排水処理フローシート



5-7/6000

以上で説明を終りますが、入りこんでいて解かりにくいかも知れません。しかし工場と打ち打ちできるためにはこれくらいの知識は必要です。頑張って勉強して下さい。

また「住民の会」の学習会にも参加して下さい。

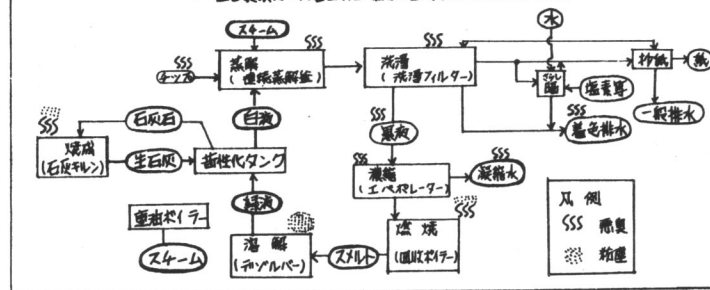
尚、汚染物質がひき起こす被害や工場の公害対策の実情については次号にまわしますので御期待下さい。

王子製紙公害の汚染物質等

大気汚染	悪臭	メチルメルカプタン、ジメチルサルファイド、ジメチルジサルファイド、硫化水素など
	粉塵	芒硝、炭酸ソーダ、石灰、その他
	その他	亜硫酸ガス（硫酸酸化物）、窒素酸化物、煤塵
水質汚濁	（凝縮水）	現在は循環使用するので排出されていないはず
	着色排水 一般排水	木のアク、製紙ガスなどいわゆるヘドロを含む
その他	騒音	
	地盤沈下	地下水の汲み上げによる

クラフト法による製紙工程と公害

— 王子製紙K-K春日井工場の公害対策の現状は次の図で紹介 —



庄内川を浄化するには、庄内川流域にまたがる県市が力を合わせなければ効果は上がらない。私たちは三県一市の首長会談の中でも庄内川をとり上げるよう要求しました。

地盤沈下防止へ協力

法体系の整備急げ 美しい川、へ行政の対応を



三県一市首長会談
左から 藤助 田川 亮三
仲谷 義明 本山 政雄

庄内川流域にまたがる三県一市が、地盤沈下防止と河川浄化の両面から協力する。三県一市首長会談で、地盤沈下防止と河川浄化の両面から協力する。三県一市首長会談で、地盤沈下防止と河川浄化の両面から協力する。三県一市首長会談で、地盤沈下防止と河川浄化の両面から協力する。

河川から大量の流出物

汚濁の現状

庄内川中流汚濁状況 (単位: mg/l)

項目	値
COD	150
BOD	10
SS	50
NO ₃ -N	10
NO ₂ -N	5
NH ₄ -N	5
TP	1
硫酸根	100
塩素	100
鉄	10
マンガン	10
銅	1
亜鉛	1
セレン	1
鉛	1
水銀	1
有機リン	1
有機窒素	1
有機塩素	1
有機硫黄	1
有機塩素	1
有機硫黄	1
有機塩素	1
有機硫黄	1

庄内川下流汚濁状況 (単位: mg/l)

項目	値
COD	100
BOD	10
SS	50
NO ₃ -N	10
NO ₂ -N	5
NH ₄ -N	5
TP	1
硫酸根	100
塩素	100
鉄	10
マンガン	10
銅	1
亜鉛	1
セレン	1
鉛	1
水銀	1
有機リン	1
有機窒素	1
有機塩素	1
有機硫黄	1
有機塩素	1
有機硫黄	1
有機塩素	1
有機硫黄	1

庄内川上流汚濁状況 (単位: mg/l)

項目	値
COD	50
BOD	5
SS	20
NO ₃ -N	5
NO ₂ -N	2
NH ₄ -N	2
TP	0.5
硫酸根	50
塩素	50
鉄	5
マンガン	5
銅	0.5
亜鉛	0.5
セレン	0.5
鉛	0.5
水銀	0.5
有機リン	0.5
有機窒素	0.5
有機塩素	0.5
有機硫黄	0.5
有機塩素	0.5
有機硫黄	0.5
有機塩素	0.5
有機硫黄	0.5

濃度規制だけでは浄化困難

総量規制 伊勢湾 難題多い

生活排水も対象

生活排水も対象
期待される規制

伊勢湾に生活排水も対象とする総量規制が実施される。水質汚濁防止法に基づき、伊勢湾に生活排水も対象とする総量規制が実施される。水質汚濁防止法に基づき、伊勢湾に生活排水も対象とする総量規制が実施される。

次善の策

課題は海の自浄力

「上流県に足かせ」と岐阜県は反対 困惑の三重・愛知

伊勢湾に生活排水も対象とする総量規制が実施される。水質汚濁防止法に基づき、伊勢湾に生活排水も対象とする総量規制が実施される。水質汚濁防止法に基づき、伊勢湾に生活排水も対象とする総量規制が実施される。

和解決した愛知岐阜

運命共同体で協調

自治体の対立 改善は両知事の手腕


伊勢湾に生活排水も対象とする総量規制が実施される。水質汚濁防止法に基づき、伊勢湾に生活排水も対象とする総量規制が実施される。水質汚濁防止法に基づき、伊勢湾に生活排水も対象とする総量規制が実施される。

上流は発言する

庄内川の行政一本化

昭和53年6月5日 (月曜日) 12頁 (16)

上流は発言する

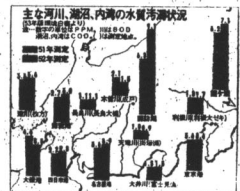


庄内川の水質汚染は、上流から下流へと広がっている。この写真には、上流部の河川が写っている。水質汚染の防止には、上流からの対策が不可欠である。

利益、負担は公平に

黙ってはおれぬ総量規制

水質汚染防止法に基づき、各河川に総量規制が課せられている。これは、上流と下流の間に公平な利益と負担を配分するための重要な手段である。



庄内川、湖沼、内海の水質汚染状況。この図表は、各河川の水質汚染レベルを示している。上流部では汚染が深刻化していることが確認されている。

昭和53年6月6日 (火曜日) 12頁 (16)

上流は発言する



水質汚染防止のために、上流部での浄化施設が整備されている。この写真には、作業員が施設内で作業している様子が写っている。

『汚すのは下流側だ』

排水処理に苦闘の企業

下流側からの排水処理に苦闘を覚悟する企業が増えている。これは、上流からの汚染物質が下流に到達しているためである。



庄内川の流域図。この図は、流域の広範囲を示している。上流部からの汚染物質が下流に到達していることが確認されている。

昭和53年6月7日 (水曜日) 12頁 (16)

上流は発言する



庄内川の水質汚染は、上流から下流へと広がっている。この写真には、上流部の河川が写っている。水質汚染の防止には、上流からの対策が不可欠である。

先陣切り浄化作戦

終末処理場の諏訪湖

諏訪湖周辺の河川に先陣切り浄化作戦が展開されている。これは、終末処理場の建設と稼働によるものである。



諏訪湖周辺の河川図。この図は、諏訪湖周辺の河川を示している。先陣切り浄化作戦の展開が確認されている。

昭和53年6月8日 (木曜日) 12頁 (22)

上流は発言する



庄内川の水質汚染は、上流から下流へと広がっている。この写真には、上流部の河川が写っている。水質汚染の防止には、上流からの対策が不可欠である。

汚染者か、受益者か

環境の保全だけに責任

環境の保全だけに責任を負うべき汚染者か、受益者か。これは、環境汚染問題における重要な問いである。



庄内川の流域図。この図は、流域の広範囲を示している。上流部からの汚染物質が下流に到達していることが確認されている。

第一回「健康と環境を守れ」 愛知の一斉行動デー

県下の住民運動がこのように集まったのは
初めてのことで。

要望事項

庄内川は岐阜県に源を発し愛知県を流れ、名古屋市を通過して伊勢湾に注ぐこの川の汚染は上流では岐阜、愛知の陶器産業によってなされ、中流にては春日井市王子製子が主なものであり、この汚水が伊勢湾に出て三重県漁業にも大きな影響を与えている。

庄内川の浄化問題は単に一地域の問題ではなく大きく岐阜、愛知、三重、名古屋の県市民でとりあげ考えてゆかねばなりません。

仲谷愛知県知事には三重一市の首長会談の中で木曾三川と合せて庄内川の浄化についても協議されることを強く要望致します。

愛知県仲谷知事 殿

矢田・庄内川をきれいにする会

⑤
知事宛て
おたのしみです
愛知県知事 殿
「健康と環境を守れ、愛知の健康一斉行動デー」に
おける要望について(概要)
昭和52年6月4日(愛知新聞)に掲載の愛知新聞について、掲載の
内容についてお礼の言葉を述べ、御礼の言葉を述べさせていただきます。

項目	内容
(環境部)	1-1 庄内川の浄化は、まず水質と汚染と第一歩に依る問題として、取り組むべし。 1-2 庄内川の浄化対策については、関係機関、関係団体、関係業者、関係行政機関と連携して取り組むべし。 1-3 関係機関、関係団体、関係業者、関係行政機関と連携して取り組むべし。 1-4 関係機関、関係団体、関係業者、関係行政機関と連携して取り組むべし。
(環境部)	2-1 庄内川の水質は、現状より改善され、汚染の程度は、軽減され、水質が向上するよう努めるべし。 2-2 庄内川の水質は、現状より改善され、汚染の程度は、軽減され、水質が向上するよう努めるべし。
(環境部)	3-1 庄内川の水質は、現状より改善され、汚染の程度は、軽減され、水質が向上するよう努めるべし。 3-2 庄内川の水質は、現状より改善され、汚染の程度は、軽減され、水質が向上するよう努めるべし。

【1】 市民 昭和52年6月9日 (木曜日)

環境を支える力

「環境を生きる力」
「環境を生きる力」
「環境を生きる力」
「環境を生きる力」

今や行政をリード

空、海、陸…対象は多彩

計画策定中止要求
計画策定中止要求

「環境を生きる力」
「環境を生きる力」
「環境を生きる力」
「環境を生きる力」



愛知の住長運動

第二の高揚期へ

責任のがれ許さぬ

質、量的にも多様な発展

「環境を生きる力」
「環境を生きる力」
「環境を生きる力」
「環境を生きる力」

大田・庄内川にきれいに暮らす会
に対する県の回答の見解
私たちの要求に対する愛知県からの回答が満足のできる回答ではなかったが、評価はしている。
今回、愛知県の住民運動の結束により、知事と会談でき、これは今後の運動の大きな前進に繋がります。
今後、お互い、住民運動の結束と希望を込めて。
矢田・庄内川にきれいに暮らす会

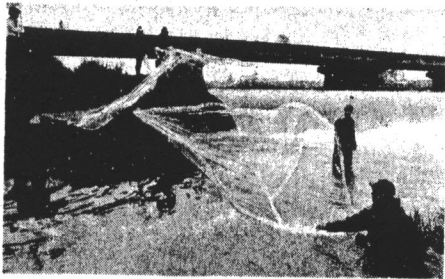
鮎救出作戦

上流へ行きたし道はなし

やっと庄内橋までたどりついたのに水分橋の汚ない水と吉根橋の高いえんていをどうやってとおりぬけよう。手をかして下さい。

そんな声が聞えてくるようで私たちは鮎を上流へ運ぶことも決意

アユを上流で大きく育て



上流の土岐川へ放流するため投網でアユをつかまえる
土岐川漁協の人たち一名古里市西区の庄内橋近くで



アユはこれだ

庄内川で救出作戦 網ですくい、放流

市民と漁協がっちりスクラム

各自治体の庄内川下流へ上流へ放流するアユを、きれいな上流へ放つ。5月15日朝、庄内川下流の庄内橋付近で、市民と漁協がアユ救出作戦を始めた。大規模な上流水域の整備が、アユの放流を可能にした。アユは40匹以上が捕獲された。上流の住民がアユを育てたいという思いが、アユ救出作戦のきっかけとなった。初回は約80匹が川へ放れ、2日連続で放流された。アユは川を泳ぎ、上流へ移動する。放流されたアユは、きれいな上流で大きく育てられる。市民と漁協が協力して、アユの救出作戦を進めている。

第一陣は40匹

救出作戦は午前8時30分開始。各自治体の庄内川下流で、アユを捕獲する。アユは川を泳ぎ、上流へ移動する。放流されたアユは、きれいな上流で大きく育てられる。市民と漁協が協力して、アユの救出作戦を進めている。

天然アユ

庄内川浄化の日まで 救出作戦スタート

「きれいな土岐川で育て」

昨年夏、十一年ぶりに実施した庄内川の浄化事業。この日、「きれいな土岐川」をテーマに、市民と漁協がアユ救出作戦を始めた。アユは川を泳ぎ、上流へ移動する。放流されたアユは、きれいな上流で大きく育てられる。市民と漁協が協力して、アユの救出作戦を進めている。



網の中、投網で天然アユをつかまえる。市民と漁協が協力して、アユの救出作戦を進めている。

鮎救出作戦の件、私どもの会では、庄内川において鮎の救出と大規模な成長見守り作戦の協力を得て、庄内川を大工義教授の指導のもと、実行委員会として下記のように鮎の捕獲を行います。

1. 日時 5月(旧) 8:30~
2. 場所 庄内橋下流右岸
3. 捕獲した鮎は、土岐川に放流します。

協力 土岐川漁業組合
丸尾谷釣具組合
主催 矢野庄内川をきれいに研究会
鮎救出作戦実行委員長

第二回食べられるかも知れない魚釣り大会試食会

試食会のインタビューに自分で食べてみなさいと報道陣にも食べさせる。



新聞記事の抜粋。見出しは「矢川 少しずつ、きれいに 庄内川」。本文には「庄内川の水質改善が目的で、矢川に少しずつきれいな水を注ぎ、川の水質を徐々に改善していく」とある。また、「魚食べられるかも チビっ子が釣り大会」という見出しも見える。



元気に泳ぐ きれいに変わった庄内川にコイを放つ釣り農屋さんたち。中川区葛田町万場で

「魚べられるかも知れない」とおもしろい釣り大会も、多量に釣れた魚は、多量に食べさせる。...

大きく育てて、コイ3万匹

釣具商組合 庄内川などへ放流

...

あゆ 53年 救出作戦

昨年 無断で魚を移動させてはいけないと県からおしかり、今年
は届出をするが鮎のそ上状態が悪くだんねん。

特別採捕許可願い

住所 名古屋府守山区瀬古川西270
 代名 矢田庄内川をきれいにする会
 代表 丹羽 秀義
 生年月日 明治45年2月15日生
 水産動物の種類及び数量

鮎 50 尾
 採捕期間 53年3月24日から53年5月31日まで
 採捕区域 庄内橋下流
 漁具及び漁法 投網 テーネット等
 採捕に従事する者及び住所 (魚体をいかに採捕の方法差弊)
 住所 名古屋府守山区瀬古川西270
 氏名 宮田 照由

庄内橋下流で採捕した鮎は玉野川上流(愛知県側)
 と上流支流の肥田川下流全域に放流し肥田川に於て
 は庄内川で採捕した鮎以外は放流いたしません。
 数量については未達か成育追跡調査可能な数量とします。

昭和53年3月24日 (金曜日) 12版 (19)

アユ救出作戦を拡大

矢田庄内川をきれいにする会

採捕時期早める

岐阜県の川にも放流計画

岐阜県は、庄内川で採捕したアユを、県内の他の川にも放流する計画を、早くから進めている。今年度は、3月24日から5月31日まで、特別採捕許可を得て、アユを採捕し、県内の他の川にも放流する。この計画は、アユの数を増やし、川をきれいにすることを目的としている。

昭和53年3月25日 (土曜日) 12版 (19)

庄内川のアユ 救出は絶望的

岐阜県は、庄内川で採捕したアユを、県内の他の川にも放流する計画を、早くから進めている。今年度は、3月24日から5月31日まで、特別採捕許可を得て、アユを採捕し、県内の他の川にも放流する。この計画は、アユの数を増やし、川をきれいにすることを目的としている。

1978年6月3日 (土曜日)

名古屋 庄内川

アユ泳ぐ川へ 運動強めたい

「きれいにする会」

名古屋市の庄内川をきれいにする会

王子製紙の温排水が原因か

「ことしはまたゼロ匹」

名古屋市の庄内川で、アユの採捕がゼロに終わった。これは、王子製紙の温排水が原因とされている。この会では、アユの数を増やし、川をきれいにすることを目的としている。



昭和53年6月2日 (木曜日) 12版 (19)

名古屋 アユのそ上 今年ゼロ

せめてアマゴ放流

きれいに「イメージ残したい」

名古屋市の庄内川で、アユの採捕がゼロに終わった。これは、王子製紙の温排水が原因とされている。この会では、アユの数を増やし、川をきれいにすることを目的としている。



さくらの銀行植樹祭準備 次代の青少年によい環境を

さくら会議

矢田・庄内川をきれいにする会では、次代の青少年に「きれいな水と、あたたかい社会」を提称してきました。

その一環として桜銀行を開設する事になりました。

名古屋市が市民の憩いの場として、南の山崎川に四季の花の名称を作るならば、北の堀川(黒川)には私たちの手で日本の花、桜を植え公害のない良い環境を作り次代の青少年に引き継ぎたいと思います。その為にも桜銀行が必要と考え来る2月21日夜7時半より丹羽秀義宅で会議を開きます。これは矢田・庄内川をきれいにする会の会員はもとより一般の方の御協力がなければできないものではありません。

皆様の御出席を心からお願い致します。

矢田・庄内川をきれいにする会内

さくらの銀行、募金のお礼

さくら銀行開設実行委員会

みんなの力で桜並木を!

皆様のご協力とご理
さくらの銀行、募金も4
事ができ大変ありがと
来る4月には才1回植
桜の苗木150本を
守山下水処理場と隣
植樹する運びとなりま
ここに ご報告と共にお礼

私達の住む街を桜の

これからも2回、3回と続
くべくご協力をお願い致し

矢田・庄内川をきれいに

桜の銀行
名古屋市守山区瀬古川西2
TEL 793-0677

矢田・庄内川をきれいにする
私たちは 河川や大気の流れの
自然環境をより良くするため、いろいろ
な取り組みを行っています。新聞報道でも御存じのと
う、一帯に桜を植栽、花の名所にも選
ばれた「桜」として、よい環境を
青少年に残したいと思っております。
桜の樹を植えるためには多くの資金
が必要で、社会とよく相談、皆様のあたたか
いお声援をいただくと、頼っております。
募金の方針については、次のように考えて
申し上げます。

- 1 矢田・庄内川をきれいにする会の3本パス
求の植樹費、50,000円が桜の募金
- 2 竹筒貯金箱(100円)の募金(銀行)
- 3 銀行振込のみ、お名前を銀行に届けて

連絡先 矢田・庄内川をきれいにする会
桜の銀行

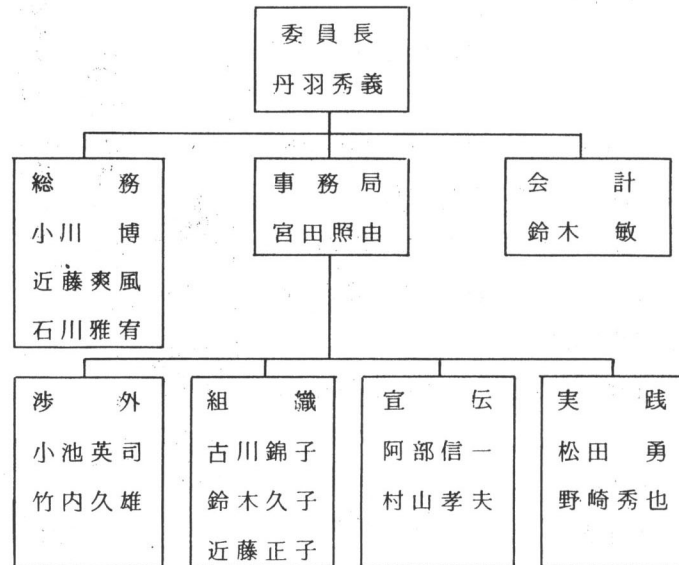
毎日新聞
この度は 私たちの桜の銀行の趣旨、
いたたまれなく、ご支援くださいました。私たちの、
「川の汚れは、心の汚れ」のモットーのもと、自
環境浄化のための一本でも多くの桜の樹
の努力をいたします。今後ともよくご協力をお願い
申し上げます。

領收証 年月日

桜の銀行 募金内
矢田・庄内川をきれいにする会
名古屋市守山区瀬古川西2-70 TEL 793-0677

御芳名	年月日
住所	TEL
金額	矢田・庄内川をきれいにする会 桜の銀行

桜の銀行実行委員会



毎日新聞
黒川にサクラ名所を
「矢田・庄内川をきれいにする会」が計画
1977年(昭和52年)2月22日 火曜日

2月15日(火曜日)
わが川千本桜
矢田川 庄内川 新堀川

われらの力で桜並木を
黒川(北区)中絶/池(西区)
千本の植樹めざし運動
住居団体が募金活動へ



植樹祭式典

矢田・庄内川をきれいにする会

「さくらの銀行」第一回 植樹祭

昭和53年5月14日

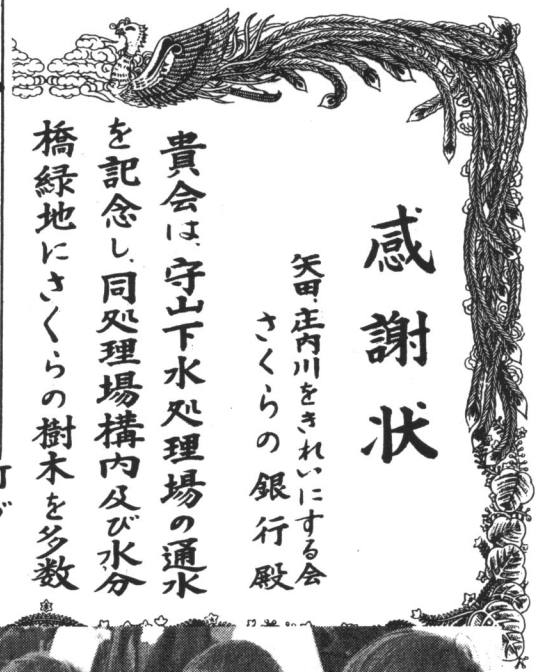
植樹式次第

- | | | |
|----------------|-----------------------------|--------------|
| 進行係 | 宮田照由 | きれいにする会事務局長 |
| ○ 開会のことば | 鈴木 敏 | さくらの銀行会計 |
| ○ 主催者あいさつ | 丹羽秀義 | きれいにする会代表世話人 |
| ○ 目録贈呈 | 小川 博 | きれいにする会常任世話人 |
| ○ 感謝状贈呈 | 本山名古屋市長 | |
| ○ 受け取り代表者 | 小池英司 | きれいにする会常任世話人 |
| ○ 名古屋市長あいさつ | | |
| ○ 除幕式
(記念碑) | ・村山祐子
・今井健一 | きれいにする会準会員 |
| ○ 植 樹 | ・ひまわり幼稚園児代表 | |
| ○ 子供達のお願い | 宮田活克・本田順子・松田かおる | 代表 松田かおる |
| | 米ヶ瀬川西子供会代表 | |
| | まんがの本をおいてある子供文庫を作って下さい。 | |
| ○ 米ヶ瀬川西少年少女代表 | 押元 稔・坂ひとみ・代表坂ひとみ | |
| | 処理場の中にテニスコート、バレーコートを作って下さい。 | |
| ○ ひまわり幼稚園児代表 | ひまわり幼稚園児全員 | 花束贈呈 |
| | 私たちのそばの香流川をきれいにして下さい。 | |
| ○ 閉会のことば | 鈴木 敏 | さくらの銀行会計 |

目録

街に緑を育て健康で
明るく社会づくりを
めざすため
八重桜の苗木・百十五本を
寄贈いたします

昭和五十三年五月十四日
矢田庄内川をきれいにする会
桜の銀行



感謝状

矢田庄内川をきれいにする会
さくらの銀行 殿

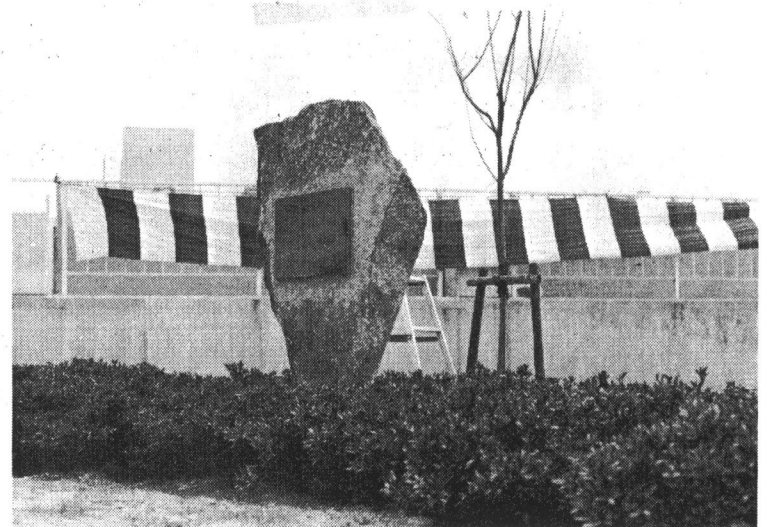
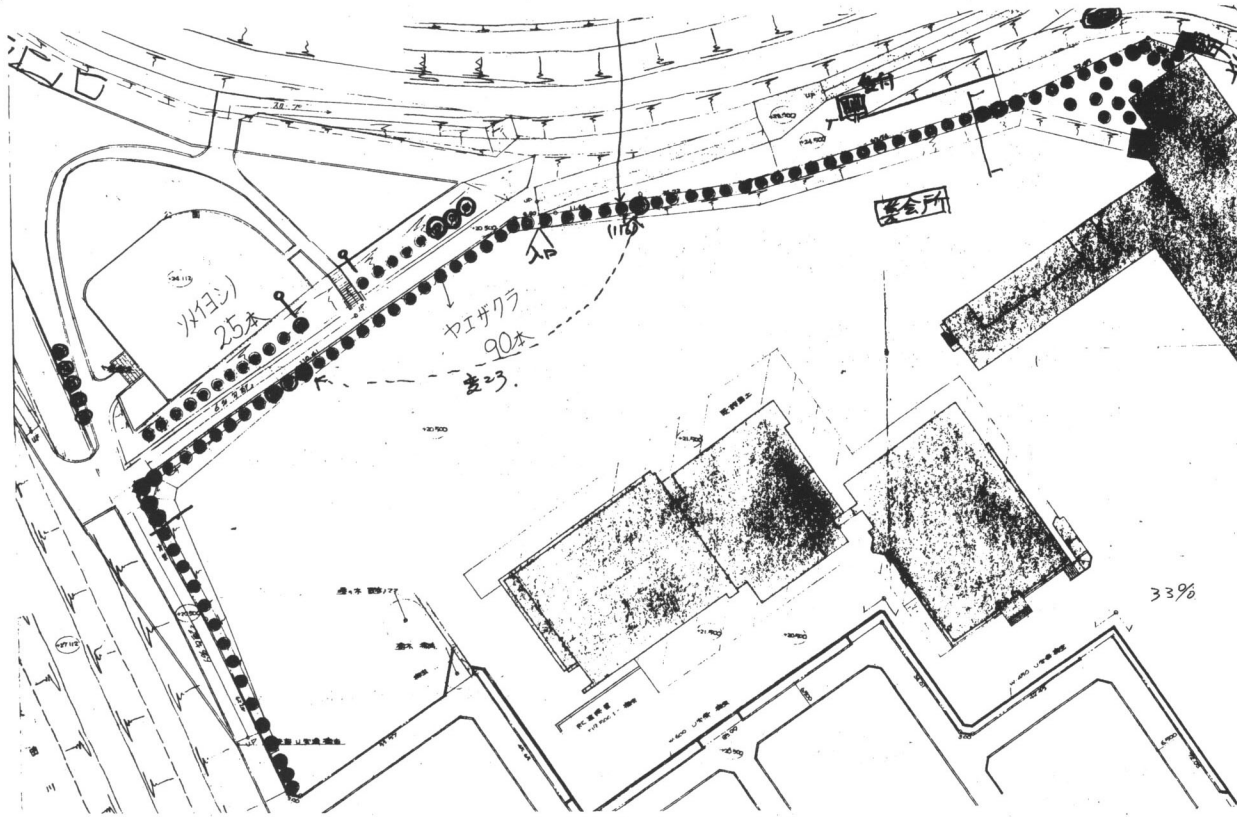
貴会は、守山水処理場の通水を記念し、同処理場構内及び水分解緑地にさくらの樹木を多数

町づくり
しました
表します

本山政権



守山下水処理場内植樹祭見取図



第二回「健康と環境を守れ、愛知の住民一斉行動デー」

健康と環境はいつになったら守られる
環境デーの必要性ますます強くなる。

昭和53年5月27日

矢田・庄内川をきれいにする会

代表 丹羽秀義

愛知県知事 仲谷義明 殿

要 望 書

私たち「きれいにする会」は、河川や・大気の汚れを除き、よりよい自然環境を取り戻し、次代の青少年にきれいな水とあたたかい社会を残そうと御存じのように色々な活動を続けております。

資源の少ない日本国民にとって200カイリ問題は重大な感心事であり、私たち愛知県民にとっても大きな影響があります。白資源確保のため、身近な場所が見直され、各地で色々な活動研究が始められております。

天然アユがそ上した庄内川を現在のまま放置することは、私たち愛知県民にとって大きな損失であります。

庄内川水系の自然保護並びに白資源確保の絶対の条件は、水質をよくすることであると、私たち「きれいにする会」は確信しております。

県は、庄内川水系の自然保護並びに魚種の保護にどのような努力をしたのか資料の公開をし、更に私たち「きれいにする会」と話し合う機会を今後もつくりませんか。話しあうとするなら、日時を設定して下さい。

以上

川についても環境保全委員会を作りたい。
アユの棲息できるようにしてほしい。

庄内川流域の浄化については、規制の強化を図るとともに、県界水域であることから、愛知県・岐阜県等の関係機関で庄内川水系水質汚濁対策連絡協議会を設けるなどの努力をされているところがあります。

またアユの棲息環境については、水産用水の環境基準値と、水産用水(環境基準B類型)とされています。BODは3ppm以下となっております。昭和52年度における水質検査測定のBODは4.1ppmで今一歩のところで改善されたい。今後は総量規制の実施によって浄化に努力したいと考えております。

またアユの放流については、昨年継続して本年も県民漁協に試験放流も実施していきたいと考えております。

今年アユが一匹もとれない。これはアユ製紙の排水処理を暗黒に押し込めた水道が、11年度から24~25度まであがり始めたから。

過去3年間のデータ公表してほしい。

アユ製紙の排水は、昭和49年度から1955年度までによる。

公共用水域の調査結果では庄内川の分水橋(地蔵川の合流点後)の水温は、年平均で48年度18.3℃、49年度15.5℃、50年度16.5℃、51年度16.7℃と大巾変化はみられませんでした。

またアユ製紙の排水に係る過去3年間の水質検査では、PH、SS、BOD等各項目とも全て排水基準を満足しております。今後とも水質の改善に努力するよう指導してまいります。

58公対第165号
昭和58年7月27日

矢田・庄内川をきれいにする会
代表 丹羽秀義

愛知県知事

第2回「健康と環境を守れ愛知の住民一斉行動デー」
における要望について(回答)
さきに要望のありましたことについては、別紙のとおりであり
ますので、御了承くださるようお願いいたします。

(連絡先 公害対策課補償担当 電話961-2111 内線2414)

アユ製紙(株)春日工場排水検査結果

項目 年度	PH	BOD PPM	COD PPM	SS PPM
50	7.2	34~56	—	11~15
51	6.4~7.0	28~60	32~59	0~44
52	6.3~6.9	26~51	59~70	15~56
排水基準	5.8~8.6	90 PPM	—	120 PPM

(注) 検査機関: 春日町健康・公害対策センター

公害ない住みよい町に 「暴行団体」が 知事に要望書提出

【本紙記者】名古屋市の公害問題に取り組む住民の有志が、名古屋市長に要望書を出し、公害のない住みよい町にしたいと訴えている。この要望書は、名古屋市長宛てに提出された。

この要望書は、公害のない住みよい町にしたいと訴えている。この要望書は、名古屋市長宛てに提出された。

この要望書は、公害のない住みよい町にしたいと訴えている。この要望書は、名古屋市長宛てに提出された。



健康と「環境」守れ 愛知で住民がいせいで行動 仲谷知事、住民交渉を拒否

【本紙記者】愛知県の公害問題に取り組む住民の有志が、名古屋市長に要望書を出し、公害のない住みよい町にしたいと訴えている。この要望書は、名古屋市長宛てに提出された。

この要望書は、公害のない住みよい町にしたいと訴えている。この要望書は、名古屋市長宛てに提出された。

この要望書は、公害のない住みよい町にしたいと訴えている。この要望書は、名古屋市長宛てに提出された。

許すなよ、NNOの暴行団体。 作らうよ、住民本位の環境！

■ 許すなよ、NNOの暴行団体は、市民の健康と生活を脅かすために、全国の石炭の公害被害者をかかえた。この暴行団体は、NNOの暴行団体は、市民の健康と生活を脅かすために、全国の石炭の公害被害者をかかえた。

■ 住居の密集地、NNOの暴行団体は、市民の健康と生活を脅かすために、全国の石炭の公害被害者をかかえた。この暴行団体は、NNOの暴行団体は、市民の健康と生活を脅かすために、全国の石炭の公害被害者をかかえた。

■ 公害被害者の健康被害、NNOの暴行団体は、市民の健康と生活を脅かすために、全国の石炭の公害被害者をかかえた。この暴行団体は、NNOの暴行団体は、市民の健康と生活を脅かすために、全国の石炭の公害被害者をかかえた。

■ 公害被害者の健康被害、NNOの暴行団体は、市民の健康と生活を脅かすために、全国の石炭の公害被害者をかかえた。この暴行団体は、NNOの暴行団体は、市民の健康と生活を脅かすために、全国の石炭の公害被害者をかかえた。

5.27 第2回・健康と環境を守れ 愛知の住民一斉行動デー

一斉行動日程

● 被害の回復と被害を軽減するための活動

● 健康被害・環境被害を訴え、国民の生命健康を守る

● 公害被害者の健康被害を訴え、国民の生命健康を守る

● 公害被害者の健康被害を訴え、国民の生命健康を守る

第1行動	9.30～(早方)
第2行動	13.00～17.00

対県交渉
県民集会(名交会路)

- 叔良集会
- シニアアセスメント
- 環境アセスメント
- 県民ホール
- 県民ホール

外環道通り

(本町通り)

主催: 愛知環境市民連帯会

第三回食べられるかも知れない魚釣り大会 市長杯争奪戦試食会

試食会には庄内川のおち鮎を使う

おいしいと好評、しかし定着性のフナやコイはやはり臭い。



会の呼びかけで釣具のメーカー
ダイワも矢田川にコイ放流

議員さんに招待状

揮啓秋もいまだ人と、ふいふいとうなま
また、市會議員の皆様方には
ますます、健康勝んで、日々明るい
お顔を、未束のため、お努力下さい
まして、誠にありがとうございます。

さて、来年は国際児童年になって
おられます。各地で、青少年のために催し
が企画されておられます。矢田庄内川をきれ
いにする会も、次代の青少年にきれいな水と
暖かい社会をモットに、数多くの安全で
環境のよい釣場作りにつとめ、各方面の
方々に働きかけてまいりました。

また、その一環として、過去二度に
わたりに、庄内川まつりを行なう市民の
皆さんに、河川浄化に対する、関心を深め
ていただくため、いろいろ行事を催して
まいりました。

（ま）としては、石古屋長先生の代表である
皆様方に、矢田庄内川の現状を
お知らせの目で見えていただき、今後の行
政にとうり入れていただければ、幸いです。思い
「第四回庄内川まつり」にお招き申し上げ
ます。

何れも、多用の折とは、存じます。何か
ぜひとも、お席下さい。お申し込み願
い申し上げます。

昭和52年10月20日

敬具
矢田庄内川をきれにする会
事務局 局長 菅 田 昭 由

尚、庄内川まつりにつきましては別紙同封じにし
てお送りいたします。お申し込み願
い申し上げます。

ボクたちに良い釣り場を！！

きれいにする会では、次代の青少年にきれいな水とあたたかい
社会づくりをテーマに、家族で手軽にできる釣大会などを行
い、皆さんと明るく楽しくを合言葉に川をきれいに
する運動を進めてきました。また、きれいにす会の中に清
溪流釣クラブ「山考会」を作り、新しい釣場の開発や、
良い釣り場を作り努力をしてきました。

来年は国際児童年です。各地で青少年のための催
しが企画されておられます。私たちは数多くの安全で環境
のよい釣り場を、次代の青少年に残していきたいと思
います。

きれいにする会では「あたたかい社会」づくりの一環として、
石古屋釣具商組合、釣を愛好される皆さん、あるいは、
クラブと力を合せて、現在の海、川、池の魚類調査と安
全で環境のよい釣り場作りの県市早期予算化などを
推進するため、協議会を作ろう努めておられます。

皆さんもぜひとも協議会作りに参加して下さいませ
お願いいたします。 矢田庄内川をきれにする会

釣り場作り促進協議会(仮称)

〒463 守山区瀬戸町270 TEL 793-0677.
事務局 TEL 794-2826.

釣り場作り協議会の主旨に賛同(参加いたします)			
住所	電話		
氏名	会	団体名	
御意見			



大きくなれよ コイの稚魚を放流する釣具組合の人たち
—北区・庄内川の水分橋下で—

釣具商 庄内、矢田川に放流

「あたたかい社会」づくりの一環として、石古屋釣具商組合、釣を愛好される皆さん、あるいは、クラブと力を合せて、現在の海、川、池の魚類調査と安全で環境のよい釣り場作りの県市早期予算化などを推進するため、協議会を作ろう努めておられます。

皆さんもぜひとも協議会作りに参加して下さいませお願いいたします。

第四回「庄内川まつり」

ボクたちに良い釣り場を！！
食べられぬが、魚釣大会
石古屋市長杯争奪 併催 生息魚、試食会
伊賀釣具店のバー

記
期日 10月22日(日) 雨天の場合は29日
釣場 庄内川水分橋～庄内橋間
受付審査場所 水分橋下流 左岸
受付時間 午前6時から 同10時まで
審査時間 午前11時から 正午まで
参加資格 きれいにする会のシンボルバッヂを
つけていること(バッヂ代 ¥200)
授賞 シラハエのみ 10尾の計量、優勝者に
市長杯、10位までに賞状、賞品
10位までに賞品、他魚賞は1尾の
長寸参加賞、クジに賞あり
注意 開催中の事故には、当会は一切責任
を負いません。子供等は父兄等の同伴
で指導して下さい。
TEL 793-0677.

主催 矢田庄内川をきれにする会
協賛 清溪流釣クラブ山考会

二年前からの会の提唱

手近な川と海をきれいにし、手近な所
によい釣り場を作りましょう。

実現に一步近づく

昭和53年(1978年)11月22日(水曜日)

中 四 橋子 月号 (9期)

名古屋港に魚釣り公園

安心して遊べます

管理組合が来年度に調査費

市議会の中で社会党の浅田議員と共産党井並議員が質問。両氏に質問記録依頼しましたが以下は井並議員のものです。原文のまま

共産党 井並議員

最後に、親しまれる港づくりの一つとしての海釣り公園の整備についてであります。

この海づり公園については、県民・市民の要望は強く、すでに神戸、横浜港で実施され、大阪、北九州でも具体化が進められていると聞いています。

昨年11月に、わが市議団の柳田議員が、西5区の外港、及び高潮防潮防波堤の中央堤、いま建設中のポートアイランドあたりはどうかと提案し、本山管理者から「西5区の場合は、弥富町の了解や漁連との関係」また、「あらかじめの魚礁をつくるなど、いろいろな準備」

名港に魚釣り公園
来年度予算に調査費 表明

本市は、名古屋港に魚釣り公園を整備する計画を、本年度予算に調査費として計上する。市長は、この計画について、本市の発展と市民の健康増進に資するものとして、積極的に推進する意向を示した。市長は、この計画について、本市の発展と市民の健康増進に資するものとして、積極的に推進する意向を示した。

市議会の中で社会党の浅田議員と共産党井並議員が質問。両氏に質問記録依頼しましたが以下は井並議員のものです。原文のまま

共産党 井並議員

最後に、親しまれる港づくりの一つとしての海釣り公園の整備についてであります。

この海づり公園については、県民・市民の要望は強く、すでに神戸、横浜港で実施され、大阪、北九州でも具体化が進められていると聞いています。

昨年11月に、わが市議団の柳田議員が、西5区の外港、及び高潮防潮防波堤の中央堤、いま建設中のポートアイランドあたりはどうかと提案し、本山管理者から「西5区の場合は、弥富町の了解や漁連との関係」また、「あらかじめの魚礁をつくるなど、いろいろな準備」

等に、検討すべきことがらをあげ「宿題として前向きに検討していきたい」と答弁をいただいています。

具体的にお聞きしたい第一は、県民、市民の大変に強い要望を本山管理者は積極的に「前向きに検討したい」と答えられたが、この時の検討事項などは、どのように検討がすすんでいるのか、まずおきしておきます。

二つは、この海づり公園は、家族そろっての健全なスポーツ、レジャー、学習の場となるような施設が望まれます。今日、子供たちの中には、川魚、海魚の区別もつかず、エサが何であるかについて理解していない状況があります。単に魚を釣って楽しむというだけでなく、魚の生態など監察、生きた学習のできる水族館、釣った魚を焼いて食べられるような施設、サイクリングなどのスポーツ施設などを含めた、家族みんながくつろぎ、たのしめる場所にしたいものだと思います、どうでしょう。

第三に、釣り愛好家や、管理組合の職員などに聞きますと、釣り人口の増加にもなって、釣りの基礎的知識のない人や、マナーの低下について嘆きの声をききます。釣りクラブなど自主的組織の育成の広報、窓口などを設けるなども必要ではないでしょうか。

四つには、釣り場所の選定、市民要望にそって施設づくりの検討は、事務室の机上プランで満足なものができる筈がありません。その道の専門家、釣りクラブなど市民参加で行うべきと考えますがどうでありましょう。

以上で第1回の質問を終ります。

汚染から水資源を守る



赤潮防ぐ自然浄化

家庭排水も規制適用の動き
リン分少ない洗剤を

洗剤	削減率
リンフリー洗剤	100%
低リン洗剤	約50%
標準洗剤	約20%

出席者



富山和子氏 飯塚敏夫氏 高橋 裕氏 石渡謙雄氏

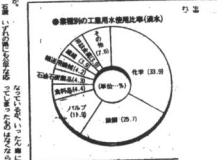
合成洗剤問題

赤潮の原因の一つとして、家庭排水に含まれるリン分が注目されている。赤潮は、海水が富栄養化し、藻類が異常繁殖する現象で、魚類の大量死や観光被害をもたらす。合成洗剤にはリン分が含まれており、これが赤潮の原因の一つとされている。そのため、リン分を削減した洗剤の使用が推奨されている。

海へ入った分は、自然浄化作用で分解されるが、赤潮を防ぐには、リン分を削減した洗剤の使用が効果的である。

土による浄化
土壌中の微生物は、有機物を分解し、無機物に変換する。この過程で、有害な物質も分解され、浄化作用が果たされる。また、土壌中の植物も、有害物質を吸収し、浄化作用に貢献している。

水質の総量規制
水質汚濁防止法に基づき、河川の水質を規制している。総量規制とは、一定の河川に排出される汚染物質の総量を規制することである。



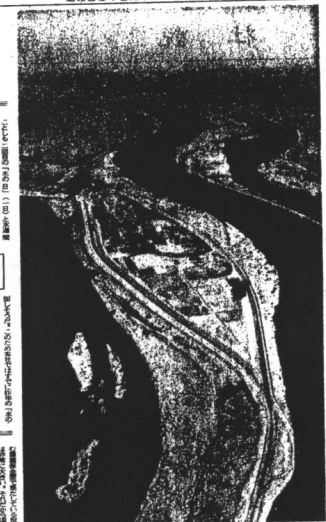
「豊かな上流」の実現へ

水源地对策
水源の保護は、豊かな上流を実現するための第一歩である。水源地对策として、森林の整備、農薬の使用削減、生活排水の処理などが行われている。

森林育てる後継ぎを 再利用の普及が急務
森林の整備は、水源の保護に不可欠である。後継ぎの育成と、木材の再利用の普及が急務とされている。

節水社会の形成
節水社会の形成は、豊かな上流を実現するための重要な課題である。節水の普及と、節水器具の使用が求められている。

器具	普及率
節水トイレ	80%
節水シャワー	60%
節水洗濯機	40%
節水風呂	30%



水源地对策の重要性を説く。水資源の持続可能な利用のために、水源の保護と整備が不可欠である。

8月1日 8月1日は水の日

きょうは水の日

水を大切にしましょう

婦人と生活

水は生きていくために不可欠である。水質の悪化は、私たちの生活に大きな影響を及ぼしている。

水質汚濁防止法に基づき、水質の改善が求められている。

きれいな水は有限です

6月1日〜7日は水週間

水質汚濁防止法の目的は、水質の悪化を防ぎ、きれいな水を確保することである。

水質汚濁防止法に基づき、水質の改善が求められている。

水質汚濁防止法に基づき、水質の改善が求められている。

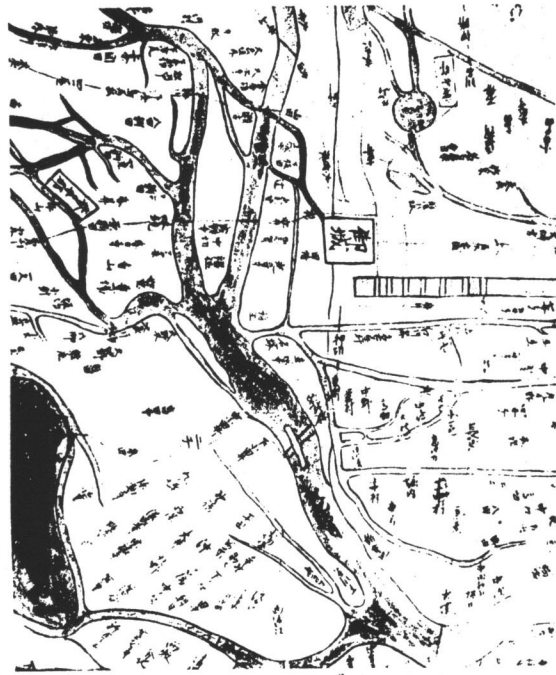
庄内川の歴史

現在の川は昭和5～8年に矢田川合流点の付替が行なわれた。

養老元年(717年)



江戸初期(1610)

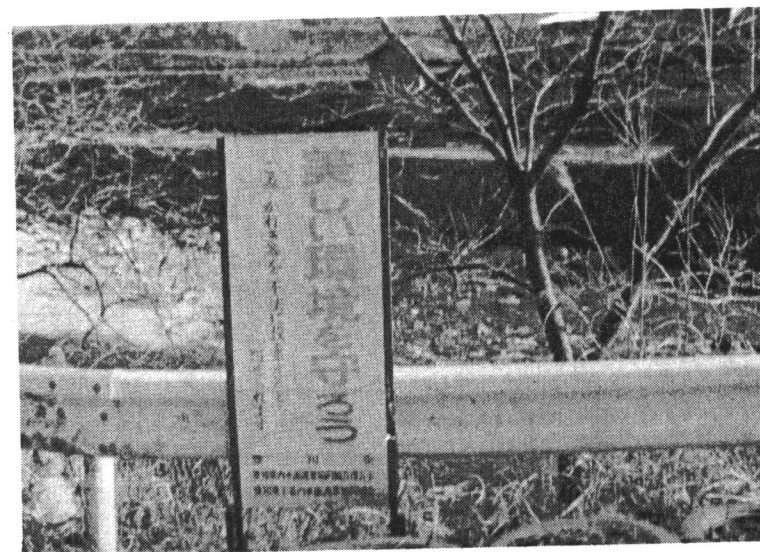
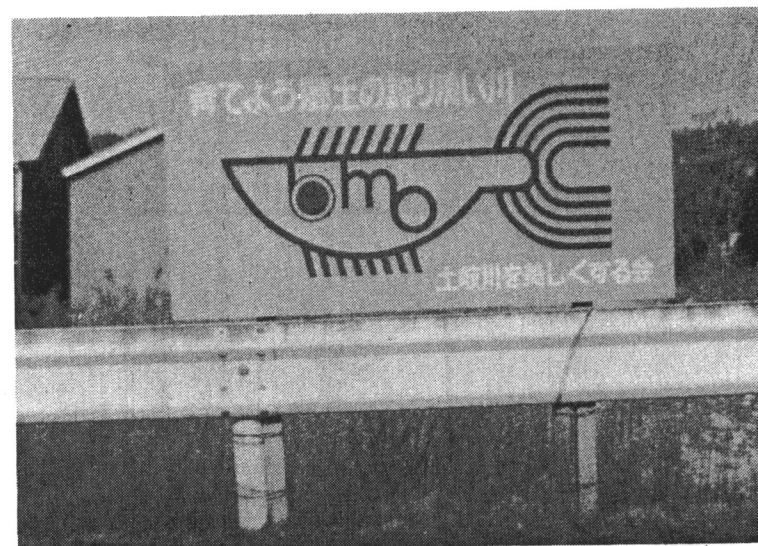


明治のころ



写真提供 渡辺 豊氏

庄内川水系に立てられた看板あれこれ



次代の青少年に

きれいな水とあたたかい社会づくり

街づくり

名古屋市長
本山政雄



私がかねがね、都市行政の本質は、経済の理論からの街づくりだけでなく、市民のよりよい生活環境づくりをめざす生活の理論からの街づくりでなければならないと機会あるごとに訴えてきました。それは、言葉をかえれば住民自治、市民本位の街づくりと云うことになると思います。その具体的なすすめ方として私は、街づくりのための住民との対話、住民参加の市政ということ、試行錯誤をくりかえしながらも、今日まで私なりにつとめてきました。その成果は必ずしも充分であるとは云えませんが、そのことは一朝一夕にできることでなく、長い時間をかけていかなければいけない問題だと考えております。

このことは市職員についても云えることで、私は就任以来市政の運営方針策定に当たって、市職員の参加が重要であるという基本的立場を強調してきました。その典型的な形は各種の職員のプロジェクトチームの設置で、昭和50年の名古屋市短期三ヶ年計画をはじめコミュニティ研究会、福祉研究会さらにはオリンピック問題など、街づくりの専門家としての知識と技術を最大限に活用し計画策定に積極的に参加してもらうようにしております。もちろんこの場合、出来上がった計画案を市議会をはじめ市民の皆さんのご批判と助言をうけて成案としていくべきだと考えております。

それらの具体的なあらわれが、職員のプロジェクトチームが作成し市民参加を経て作成した昭和50年の第1次名古屋市短期3ヶ年計画であります。(その後3回にわたり見直し作業を実施しました)。昭和52年12月には市議会の議決を経て名古屋市基本構想が定められましたが、この基本構想は21世紀を展望した長期の市政運営の指導理念として位置づけられるもので、私たちはこの理念をふまえて1990年を目標年次とする新しい基本計画の策定に取り組んでいます。

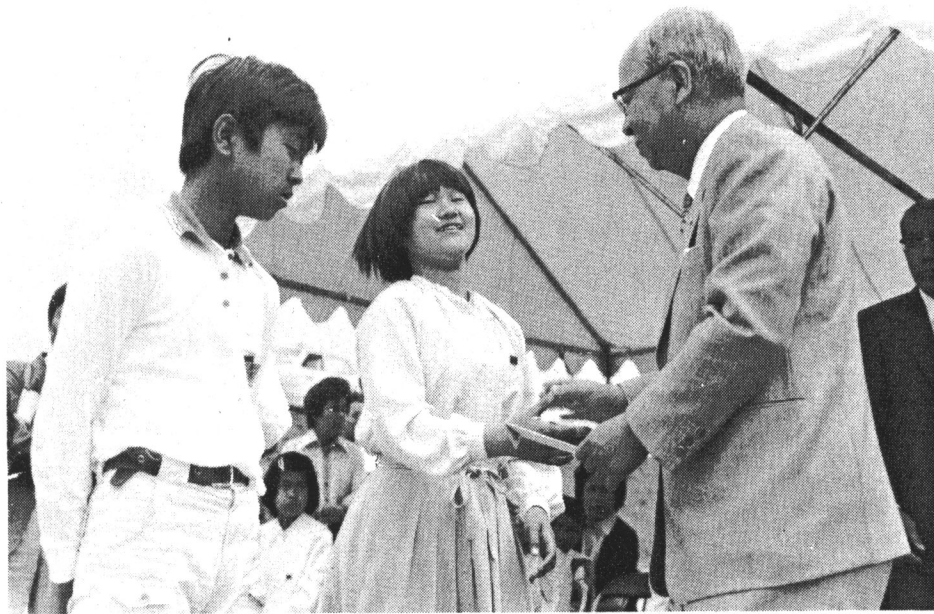
この基本計画の策定には学識経験者を基本計画研究委員として委嘱するほか、市職員による基本計画策定研究会を並行して発足させております。もちろん、学識経験者による研究と市職員の研究会の成果をふまえた基本計画の素案が策定されれば市民の皆さんにこの案を提示しご意見を受けて最終案を作ることになります。

少し話題が主題からはなれましたが、私は街づくりの基本は、市民が連帯して自分たちのまちは自分たちで作るという基本的な立場でなければならないと思います。自分たちのためにも、子供たちのためにもお互いに知恵を出し合い、力を出し合って自分たちのまちをどのようにすべきかを考えることによってはじめて本当の街づくりができるのではないのでしょうか。

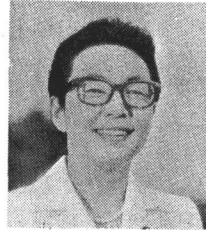
私は「矢田川・庄内川をきれいにする会」の皆さんが、丹羽さんや宮田さんを中心にこれまで進めてこられました運動とその成果に大変敬意を表しております。これまで皆さんが「川の汚れは心の汚れ」というスローガンのもとに「川をきれいにしましょう」立看板の設置、食えない魚を釣る会、シンボルバッチ運動、黒川などへの植樹など、その活躍はいろいろ枚挙にいとまがありませんが、私がここで特に強

調しておきたいのは、皆さんの運動が行政と一体となって推進されてきたということです。皆さんの運動の中に、私が訴えつづけてきた市民参加、職員参加の街づくりの一つの生きた具体例を見出した気がして喜ばしく思っています。

私はいま、街づくりの一環として地域ごとに市民の皆さんに街づくりの話し合いをしていただく場として、コミュニティセンターを建設したいと思っております。そしてそこを中心に河川浄化や都市緑化についても市民が協力しあって自分たちの街づくりにいそんでいただくことを夢んでいます。



住民運動と政治



衆議員議員

田中 美智子

川を汚している張本人が、大企業がたれ流す工場排水であることがはっきりして、それが批判されると、こっそり夜中に流す、わたしは、はらがにえかえる思いでした。

基本的には、政府がきちりと規制すればいいのですが、あいまいな取締りでは、結局ひっかかるのは、小さな企業ばかりです。まず、大量に汚す大きな企業をしっかりと政府が指導し、守らない場合は、きびしく取締る必要があります。そのためにがんばります。

「川の汚れは心の汚れ」という立看板が「庄内川をきれいにする会」の人たちによって、あちこちに立てられました。わたしたち一人ひとりが、みんなのものである川を大切にしよう、というこのよびかけは、うっかりしていた人たちに対しても、行政側にも、企業側にも、大きな反省をさせていると思います。

この会の主催で「食べられない魚釣り大会」「食べれるかもしれない魚釣り大会」などがやられ、鮎の稚魚が放流されたり、桜の木が植えられたりしました。少々皮肉で、こんなに楽しい住民運動のユニークさに、すっかりうれしくなりました。毎年、わずかながら魚がふえ、とった魚の油くささも、少しづつへっている。こういう住民運動こそ、人を変え、行政を変える、そこ力だどつくづく思います。わた

しも、いまでは台所でも洗濯でも、合成洗剤はいっさいやめ、川を汚さない石けんを、つかうようになりました。



自湧水と土岐川漁協



土岐川漁業協同組合長

市会議員 土屋 保 一

土岐川漁協の発足は昭和24年4月で終戦直後のことで敗戦の虚脱状態からようやく一歩抜け出した頃だったのです。当時組合員は700

名（現在 1,700名）鉱工業に依る被害の全くない土岐川の清流で漁を楽しんだものでした。だがその後日本産業の復活につれ窯業界の進展もその速度をはやめ、昭和35年より土岐川の水は上流の一部（通称釜戸川）を除いて白濁の度を逐年増して昭和40年がピークでした。

その頃白濁度の強弱が地元産業の象徴と盛衰を現わすバロメーターであると言われたものでした。私が組合長に就任した昭和41年頃より白濁水対策即ち土岐川を元の姿に戻そうという住民の声を背景に組合員一致して浄化運動を展開して行ったのです。

昭和45年に東濃地区に土岐川をきれいにする会が官民合同体で発足し、私もその中心となって運動を展開強化しつつ今日に至っております。

土岐川の白濁水もようやく原形に近い状態に戻ったのは数年前の事です。河の価値は鮎の生息成長の如何によって象徴されます。鮎の住めない川、鮎の伸びない川は沿線住民にとって全く価値のないものです。鮎は天然型上ものを原則としますが、いろいろな事情で日本河川大半は放流によってこれを補っているのが実情です。放流ものについては琵琶湖産を第一とします。各河川とも年によって型上は一定しておりませんので湖産をもって補充する形をとっております。土岐川の白濁化の最悪期に於て稚鮎の放流量は400キロ弱だったのですが、600キロとなり一昨年から800キロとしてその成果を見るようになりました。即ち愛知県境から多治見市、土岐市、瑞浪市を経て恵那市にまたがる延々40kmを活用することになったのです。

昨53年は稚魚と天候に恵まれ鮎推定水揚量は三万キロという成果を挙げました。こんな年が続けばと組合員は喜んでいきます。これは河

川浄化運動が徹底した賜といえましょう。一昨年三月のことでした。

矢田川庄内川をきれいにする会丹羽秀義氏が数名の役員同行にて当組合を訪問されました。今後協力して庄内川全域をきれいにしようと握手を交した訳です。特に一昨年の四月同会の調査で稚鮎が型上しているとの報告を受け、4月15日新庄内川橋下で数十匹の稚鮎（他5種もの）を採捕することが出来、又6月下旬には鰻の「しらす」が多量に型上しているとの通報を受けました。

土岐川にも今後型上鮎が来るのも夢ではない浄化運動と堰堤改良等によっては天然ものが見えると組合員一同期待をしております。河川をもとの姿に戻すこと。沿岸一帯を清掃とすることは沿線住民の願いであり又漁労者にとっては特に最大の悲願であります。当土岐川の場合は庄内川の上流に当たり河川を原形に保つ責任があります。然し今尚悪徳業界員もおり満足する状態に到達迄には長年月がかかるように思われます。

土岐川で春夏の風物詩の一つに白ハエ釣があります。味も東海一との評があります。その白ハエも一時汚濁水と農薬の影響で大変減少したこともありましたが 数年前から異状な繁殖を続け十分楽しめる状態になっており、又52年秋から愛知県境にヤナ場も出来ました。

近郊の方の来訪を夏は鮎、春から秋への白ハエ魚と共に待っております。

昭和53年3月15日

バッヂ製作者の弁

バッヂづくりは私にとって何なのか

日本福祉大学教授
土方康夫



「矢田・庄内川をきれいにする会」のシンボル・バッヂの紹介を新聞で読んだとき、またもや奇妙な気分と疑問が頭をもたげた。その記事には「そのデザインが土方康夫日本福祉大学教授の手で出来上った」とある。むろん福祉大学の教授としてやったことではない。そこに奇妙な気分の糸口がある。そして私にとってバッヂづくりは「あそび」なのか「しごと」なのか、疑問の中身とはそのことである。

ある一つの主張を形象化するしごとには多様な形態がある。絵画、音楽、演劇、建築、図案……。そして、きわめてチップケな存在ではあるが、バッヂもその一部にあてはまる。それをみんなの胸につけることによって、みんなが確めあった共通の意志やねがいを、共同で表現するという役わりをもっているからである。

改まって、バッヂの機能を考えると、バッヂづくりも大げさなことになってしまう。ところが、私の場合、そんなに気ばった構えはいささかもない。私にとってバッヂづくりはあそびにすぎない。注文を受けたおかげで、たいへん楽しませていただける、けっこうな活動として存在しているのである。

乳幼児教育の分野（これこそ私の本来の労働の領域）では、「あそ

び」だとか「労働」だとかがたえず問題にされている。子どもたちの発達にとって不可欠の条件というか、源動力というか、とにかく「あそび」をぬきにして発達を考えることができないほどに重要な位置を「あそび」はもっているし、子どもの「労働」も同様である。ワロンの定義によれば、あそびとは「活動それ自身が目的である活動」ということになる。その活動がもたらす結果を目的にしての活動ではなく、その活動自体がもたらすたのしみに支えられておこなわれる活動といいかえてもよいだろう。あそびをする本人以外に、社会的有用性をもたらすかどうかは問題にならない。

これに対して、子どもの「労働」は、ワロン流に定義づけるなら、自分もふくめてみんなに役だたせる活動、役だつものを生みだすための活動ととらえることができる。おとなの労働についてはもっと精密なとらえ方ができるが、子どもの活動の一形態としての、子ども労働という場合には、これくらい大ワクでないととらえようがない。しかも、子どもたちの場合「あそび」と「労働」はきわめて接近しており、未分化である。

こんなふうに区分しておいて、さて自分自身についてみると、じつにさまざまな「あそび」をもっている。絵をかくこと、工作すること、刃ものをとぐこと、なるべく金のかからぬやきものを手に入れること、雪の斜面をすべること……。したがって、バッヂのデザインも、わが大学が発行する「福祉大学評論」の表紙をつくることも、そして今は凧をつくることにいささかの情熱と努力を払っていることも主観的には「あそび」のなかに含まれている。

この種の活動が私の発達に役だっているかどうかについてさだかな

自覚はないが、たのしみをもたらしていることは事実である。こうした活動は原稿を書くのちがって、寸暇をおしんでもやるほどの魅力をもっているし、したがって能動性を示す。その意味でバジづくりは私にとってあそびの形態に位置づけられている活動である。

ところが、私がめったに使いもしないナタやオノ、数種におよぶカマだとかを研ぎあげるたのしみとちがって、私のあそびのいくつかは特に結果において人々に役だつ価値を生みだすことがおきてくる。バジづくりは、その過程をたのしむと同時に、でき上りのもつ効用を目的ともしている。労働であるとともにあそびであるような活動、これはまさに幼児的未分化の特徴に合致しているといえようか。

そしてさらに、本来の労働とは、苦役である側面とともにあそび的な側面を共存させていたのではないだろうか。社会的分業の進展が人びとを細分化した内容の労働におしこめ、労働からあそびの側面をきりすて、逆にあそびがもたらす社会的効用をはぎとってきたのではないだろうか。もしそうだとすると、私のバジづくりはさらに進んで次のようになる。すなわちそれは「あそび」と「労働」の統一的活動形態の一つであり、本来の労働の特徴をもっているのではなかろうかと、表むきのかざりたてた解釈はここで終る。

ところで、福祉大の教員としての私の本来の活動はどうか。とてもとても、たのしんでおれるというのではなくて、ただひたすらにガンバラなくちゃという切迫感に追いまわされ、そのくせ実績をあげることができずにいららし、なぜこうもナマケモノなのかといて反省し、あげくの果てに、気分転換が不可欠だという結論にたどりついて、おもむろに手先きを動かし、ものをつくるおたのしみを始め

るのである、したがって、どうこじつけをやってみたところで、しょせんは「おあそび」にすぎないのであって、バジづくりも注文をうけたかどうかを別にすれば、私の個有の労働にまつわる苦しみが要求するところのおたのしみの所産でしかないのである。個有の労働の領域以外のところで「あそび」と「労働」とを統一させていること、そこにこそ奇妙な気分と疑問の根元があるのである。

「王子製紙公害をなくす住民の会」

代表世話人会代表

川 島 淳 三



「矢田・庄内川をきれいにする会」が、昭和49年12月に発足してから4年間を経過して、今年が5年目の新しい運動の年を迎えると共に、会の機関誌「川の汚れは心の汚れ」を発行されるに当たり、同じ守山区で住民運動を展開する、『王子製紙公害をなくす住民の会』として誠に此の上もない喜びを感じますと共に誠にご同慶に堪えません。「矢田・庄内川をきれいにする会」と「王子公害をなくす住民の会」は、人間にたとえと親子の間柄統柄と言う間で。というのは、「王子公害をなくす住民の会」の会員の中から、矢田川と庄内川にはさまれたと言うか、川の中州の様な地形の瀬古から参加されておられた、多くの会員の方達が独立して「きれいにする会」を作られたと言う事なのです。同じ行政区で、同じ地域で、親子の続

き柄で、緊密な親子の関係を保って、連携を取り合って、ある目的では完全に一致している住民運動の団体としては、日本中でも極めて希な存在では無いかと自負いたしております。「住民の会」は発足以来9年目の新しい運動段階を迎えるし、「きれいにする会」は5年目の運動段階を迎える事で、(親子)両会で約15年に近い運動を展開する事になります。こうした点でも今後は、もっともっと相談し合って協力して行き度いと考えております。その内に息子の「きれいにする会」にも良く、相談して、将来は「きれいにする住民の会」にでも出来るかと誠に素晴らしい事だと、内心、思っている次第です。「きれいにする会」は名前、名称の通り、庄内川を汚す人、汚ごす企業、矢田川を汚ごす人、汚ごす企業に、川を汚ごさないで欲しいと、訴え続けてあらゆる方法。あらゆる手段を試みて運動を続けて来た4年間で、会の目的である初期の目的を果たしたものと、親の立場から判断して居ります。「住民の会」は守山区全体の空気を汚ごすだけではなくて、何ものにも変がたい人体え、取り返しの効かない影響や、被害を与えるばかりか、市の財産や県の財産に、また一般の住民の財産に迄被害を与え、ひいては守山区の貴重な自然に迄も被害を与え破壊している王子製紙の公害を、なくさせるための運動をしているのです。

話が大きい過ぎるではないか……と思われる方達がありましょう。守山区には大変に貴重な自然がある事を、一寸と申し上げて見ますと、食中植物の、モウセン苔、イシモチ草、ミミカキ草やコバノトンボ草サギ草、などのラン科の植物や、また氷河期の遺存種で“植物の化石”と言われていて、世界でも中国の揚子江沿岸の一部と、わが国では、愛知、三重、岐阜、長野のごく限られた一部にしか無いと言われる、

マメナシの木。「バラ科ナシ属」や、絶滅寸前のハッチョウトンボ。「日本一、小さいトンボ」の生息地である。恵まれた自然環境価値の高い地域が、いずれも王子製紙公害の影響を、「モロ」に受ける。(3キロ以内の)近距離で、しかも王子製紙の煙突の高さと同等の海拔90メートル前後の地形にあると言う事なのです。これらの貴重な自然が毎日、王子製紙の煙突から排出される有害物質によって影響を受け続けているのです。「住民の会」が、如何に(自分達の)体を大切にしよう。如何に自然を大切に守ろうとしているのか、お解かりになられますでしょう。人間1人が生きるためには、毎日、約8千リットルから9千リットルのきれいな空気が必要とされます。解かり安く言うと、ドラム缶でたとえると、40本から45本分のきれいな空気が必要なのです。この空気を永年にわたって汚ごし続ける王子製紙は、非常に罪の深い、「バチ」あたりの企業だと思います。庄内川への影響も大変なものなのです。王子製紙の1日に使用する水の量は20万トン前後と考えられますが、この膨大な水を庄内川の表流水にたよって操業しているのです。この1日で使われる水の量を解かり安く言うと、名古屋市民210万が1日で消費する水の量が、約140万トンと考えられますので、1日にその1/7を庄内川から採取して、汚たなく汚して、鼻をつまみたくなると言うか、鼻がねじ曲がると言うか、大そう臭い水にして、また庄内川に流しているのです。静岡県田子の浦では、王子製紙よりもっと小さな規模の製紙会社が、製紙粕を川に流して、海が死んでしまうということで、住民が川の水をせき止めてしまっ、会社側も一時操業不能になって、最終的には何ヶ年計画かで製紙粕を除去したり、水を「きれいに」して流す事を住民に約束

して、ついこの間、住民にこれでいいだろうかと見てもらっていると言うか、調べてもらっていると言うか、そういう事がテレビのニュースで報道されていました。王子製紙と言う会社と比較して見ると同じ製紙会社でも大変に立派な会社だと思います。庄内川でも、名古屋港でも、王子製紙の汚染度の影響は、取り上げられないだけの事で、日本一級の公害度と言うか、被害ではないでしょうか。つまり王子製紙は庄内川の自然を、一番大きく壊しているのです。ですから、小さい他の企業も、王子製紙が汚しているんだから、うちだって多少汚ごしてもと言う事になります。

私共日本人の多くは、川を愛し、川と遊び、川と共に育って来ていると言ってもいい過ぎではないでしょう。「きれいにする会」の宮田さんも非常に魚釣りのお好きな方と伺っています。私も小さい時から、魚釣りが大好きで、毎日毎日冬の時期を除いて、鳥が鳴かない日があっても、1日、1回乃至は2回、多い時は朝、昼、夕と、どうかすると川に入りびたりで、3度の飯も忘れてしまい1度しか喰べなくても、川が好きで、好きで、川島の川きちがいと迄、子供の時は言われたもので、親達が川に流されて死んでいるんじゃないかと心配して見に来てくれると、時節に合った川魚、山女、ウグイ、ニジマス、鮎など、親達が驚く程の量を釣り上げて、得位満面としていた事が、まるで昨日の様に思えてならない位、川と共に育って来た川への記憶は枚挙に糸間が無いぐらいです。ですから現在でも山女釣、この辺では雨ご釣りとっていますが、免許皆伝の腕前と自負したいぐらいです。よろしかったら、どなたでも何時でも伝授しましょう。まあ普通では考えられないぐらいの釣り好きで、川が大好きと言う私ですが、1度

「きれいにする会」の宮田さんに呼ばれて、私の長男も連れて、「きれいにする会」主催の釣り大会に参加して驚いた事は、まるで王子製紙の工場の「どまん中」で釣り大会が始まり、催されているんじゃないだろうかと錯覚してしまうぐらいのパルプ工場特有の排水の悪臭には全く閉口しました。それも、そのはずです。工場排水が、コンクリート製のヒューム管を通して、なま温たかい状態で庄内川に、直接排水されるのだそうなので、無理からぬ事だと思いました。それでも近所の子供達は元気いっぱい、私が閉口している悪臭にもめげずに、大きな鯉や、フナ、ナマズを釣り上げていました。その喜ぶ子供達の表情を見るときも無しに見て、私は一瞬、大人として社会人として今の世代を「になう」者として、次の世代に「きれいな川を」どうしたら伝える事が出来るだろうと言う事を考えました。しかし庄内川の水分橋付近は困った事に、いま現在の死んだ川の状態からどうやってきれいな川に生きかえらせるかと言う事が、先決なのです。私達の力にも限界があります。私達がいくら川をきれいにする運動を続けても、それをせせら笑うが如く日夜汚水を排水する王子製紙は、もはや企業犯罪とでも呼ぶ以外にしかないと私は思います。後程、聞かされた話ですが、「矢田・庄内川をきれいにする会」が、庄内川で釣り大会を行うと知った王子製紙は、大量の鯉、フナ、などを数日前に大量に放流したうたがいがあるのだと言う事でした。また釣大会の当日は、一般の参加者に化けた王子製紙の社員が参加していたとか。全く企業と言う化け物程、恐ろしい者は無いと痛感致しました。昔から伝え聞く所によると、川を制するものは、国を制するとあります。「きれいにする会」のスローガン。モットーである、「川の汚れは心の汚れ」共

に天下の名句であると思います。王子製紙さん、心あるなら、こうした悪臭排水、魚も嫌らう汚ごれた排水を1日も早く改善しなさい。貴方がた企業も日本の大きい社会構成での巨なる1員ではないですか、地域と共存して生きて行くなら誠実に誠意を表明して、実を示しなさい。幼ない子供達に迄迷惑を掛けないように、子供達の遊びの場でもある川を、素直に子供達に返してやる事も考えて見てはどうなんですか。子供達の夢を「うばわないで」欲しいものです。「きれいにする会」の皆さんも、今後は王子製紙と直下談判も計画されて、計画的に何年先には王子製紙としても、こんなきれいな水の排水に出来るんだと言う、誠意のある約束をしてもらう事が今後の運動に示める重要なポイントとなる事を知って居いて下さい。

「きれいにする会」の機関紙発行に当り「住民の会」を代表してご挨拶に変えさせていただきます。

1979年2月11日

水 は 生 命 の 母

愛知公害調査の会

今井 寿穂

「食えるかもしれない魚を釣る大会」など庄内川流域のみなさんのユニークな活動を、深い関心をもって見つめてきた筆者にとって、「海や川の水がきれいになった」というような最近の報道はいさゝか気に

なるところである。行政側の年次報告(52年度)でも庄内川水域はほぼ環境基準(河川・場所によって異なる)を達成したとされているが、果して実態はどうなっているのだろうか。

環境基準に合格というが?

庄内川は岐阜夕立山を源流とする国のいう一級河川である。流域にはさまざまな工場があるが、その主な汚染源は窯業排水・製紙排水・生活排水の3つであろう。

水の汚濁を計量する1つの方法として、COD(化学的酸素要求量)BOD(生物化学的酸素要求量)の測定があり、ふつう河川ではBODが用いられる。いずれも有機汚濁物質の量を知る指標であって、その値(PPM)の小さいほど水はきれいだということになる。

河川の汚れの限界値を5PPMとする説もあるが、一般に上水道源としてはBOD2PPM以下、魚介の棲息限界は鮎が3PPM、モロコ・川エビが5PPM、鯉・泥ハエが8PPM、鮒が10PPMとされている。しかし、庄内川の環境基準は中下流でD~E級、つまり8~10PPM以下なら合格であり、鮎やエビの棲みつくことはもともと目標となっていない。10PPMとは悪臭発生濃度である。

そのほかの有機無機物質の環境基準もおゝむね達成されたとされているが、環境基準は決して安全基準ではなく、まだ環境基準も決められてない物質も多い。

魚は環境のバロメータ

水質汚染影響の疫学が水俣病のような形で究明されることは二度とあってはならない。特に工場排水はどんな物質が入ってくるかわからないため最も危険である。汚染の影響はシアン・フェノール、農薬、

酸アルカリなどの急性亜急性被害もあれば、重金属など微量でも慢性毒性を与える場合もあり、悪臭不味・腐敗などの生活妨害もある。そのため水質検査は常時厳密であることを必要とする。ところが測定法は1つの物質、現象には有効であっても他には全く無力の場合が多い。多くの物質を想定して測定網を張らせることもすぐには難しい。結局人々はその河川の水質を自分の眼や鼻で感知せざるを得ない。なかでも魚介は最も鋭敏な測定器である。

従って、その川にどんな魚がいるかないか、いたとしてもその状態はどうかなどは、単にその魚労価値というより、流域全体の環境、実態を示す貴重な物指であるといえよう。

川が死ぬメカニズム

水中の微量の有機物(汚れ)の存在は水中微生物の発生、それが魚介類の栄養源となるためにむしろ好ましい。水中に適量の酸素があれば好気性微生物の作用により、有機物は炭酸ガスなどに変化し水質は安定する。必要以上の有機物が流入すれば微生物の発生が過大になり、酸素の供給が間に合わず好気性微生物はもう育たず魚介類は姿を消す。酸欠が続けば今後は嫌気性微生物だけが繁殖し、硫化水素、アンモニア等の悪臭物質を発生する。そのほか前記シアンなど猛毒物質による一時的な生物の死滅もある。

また、沈殿物と不法投棄などによるゴミの河底での腐敗の影響、腐敗しない堆積物(プラスチック、あきかんなど)、乱開発などによる藻場の破壊などが問題となる。

環境容量を超えた庄内川

河川には自浄作用があるが穏やかな流れではあまり期待できない。

生活排水としては住民1人あたり日量約400ℓの汚水を出すのが公共下水道から放流するときはBOD約20PPMである。従って仮に10トンの公共下水道をつくり、3PPMの河川を確保するにはきれいな水57万トンで稀釈せねばならない。王子製紙の排水は日量18万トン、よいときで30PPM程度とみられる。これを鮎の棲む程度の川に維持するためには日量162万トンものきれいな水で薄めなければならない。

川の水で薄めることがもう無理であることは明らかである。まず、庄内川の固有流量を調べ、川をきれいに保つための目標(汚濁限界)を定め、その受け入れられる汚染物の総量(環境容量)を計算し、逆算して汚染物の流入の締め出しを急ぐ必要がある。

また、王子製紙は庄内川近傍の伏流水日量18万トンを揚水している。このための地盤沈下、地下水位の低下・流量の涸渇および汚染についても早急に調査する必要がある。

今の下水処理法だけでは無理

河川が一見きれいになっても海はなかなかきれいにならない。汚水は一般に活性汚泥法で処理される。これは汚水中の有機物を微生物で分解させる方法であるが、有機物は分解しても一部は窒素や焼化合物となるので海の栄養分としては変わらず、一層の富栄養化を招き赤潮発生の原因となる。水がきれいになった、透明度が増したという声の割合に、海の赤潮が全く減らない一因であろう(汚水処理には吸着法など更に一段上の高次処理が必要とされる理由である。)

近海に魚が増えてきたという。総漁獲量はたしかにふえた。調査によれば減少したのはカニ、ハマグリ、エビ、サワラ、タイなど定着性

の強いもので、急に増加したのはイワシ、イカナゴ、タチウオなど比較的成育が早く移動性のあるものだったという。これは植物性プランクトンの異常発生によるとしか考えられない危険な現象である。

BHC、DDT、PCBなどは性能は状群であるが有害であるとして禁止された。中性洗剤も洗浄力は優れるが、皮膚障害、催奇形性の疑いがあり、それ自身海を汚すだけでなく、細菌や寄生虫の卵を運搬したり飛散したりする怖れがある。いずれにしても多くの化学物質は活性汚泥法だけでは分解されにくく、有毒物質として長く残留する。

空気と水と人の連鎖を守るために

汚染空気の処理がまずければ水を汚し、汚水の処理が不十分なら大気汚染の原因ともなる。大気と水とは独立して清浄ではあり得ない。海では光合成が盛んに行われ、発生する植物プランクトン・藻類は陸地よりも巨大な酸素発生源である。さらにこれを動物プランクトンが食べ、それを小魚が食べ、もっと大きい魚が、さらに鳥や人へとつながる食物連鎖は大古より自然の歴史そのものであった。その連鎖に大量かつ異常な物質を介在させ、拡散させ破壊させて果してよいのだろうか。すでに地球上では酸素の減少と炭酸ガスの異常な増加が目立ってきている。

川をきれいに保つということは海を守り、人間と自然との食物連鎖の輪、さらに大切な空気をも維持するという、人類の未来への厳粛なる責任であると思う。長く各地の公害関係の住民運動にかかわってきた一人として、矢田・庄内川をきれいにする会の、みなさんの活動の歴史意義に感動せずにおれない。

川を汚すもの

家庭排水を中心にして

一宮高校教諭

林 正 幸



川を汚すもの

川を汚すものは数えきれないほどあります。全国的に有名な例として新潟水俣病の有機水銀や、イタイイタイ病のカドミウム（化合物）があります。

〔新潟水俣病〕

新潟水俣病は、昭和電工鹿瀬工場が阿賀野川に有機水銀をたれ流し、汚染した魚介類を大量に食用にした人たちが「まず手足がしびれ、ひどくなると視野が紙筒でのぞくように狭くなり、言葉づかいがはっきりせず、酒に酔ったようにフラフラ歩き、さらにひどくなると苦しみもがきミイラのようになって死んでいった」公害です。

〔イタイイタイ病〕

イタイイタイ病は、三井金属神岡鉱業所が神通川にカドミウム（化合物）をたれ流し、その水を引いてつくった米に蓄積され、それを食用にした人たちが「カルシウム分がどんどん引出されて骨がボロボロになり、体中が痛んで夜も昼もイタイイタイと泣き苦しみ、骨が萎縮し次々に自然骨折して死んでいった」公害です。

〔庄内川の場合〕

庄内川の場合は、メッキ工場から出るカドミウムと同類の重金属、

瀬戸の陶土、王子製紙春日井工場のヘドロ排水、それに家庭排水もあります。前の3つも重要ですがここでは最後の家庭排水の問題を取り上げてみます。

家庭排水（その1）

台所、トイレの有機物

家庭排水に含まれるものには台所、トイレの有機物や風呂、洗濯用の洗剤があります。

〔有機物とは〕

ところでまず有機物とは何でしょうか。私たち人間を始めとして動物や植物の体をつくっているのが有機物です。そして私たちが栄養をせっ取するために毎日食べている食料も、逆に私たちが排せつする糞やアカも有機物です。最近工業的につくられる有機製品が増えてきましたが、ここではそれらをひとまず別に置いて話を進めます。

〔有機物の循環〕

それでは食料はどのようにつくられるのでしょうか。野菜は植物です。肉は牛や豚などの動物です。しかしこれらの動物の食料は牧草で結局は植物です。植物は自分で有機物をつくって成長します。「光合成」です。中学生ならそれが「葉の気孔から吸い込んだ空気中の二酸化炭素（昔で言う炭酸ガス）と、根から吸い上げた水を原料とし、葉緑素の助けを借り、光のエネルギーをつかって炭水化物をつくり、酸素を放出すること」であると知っています。二酸化炭素や水は無機物と言われますが、これらが食料のルーツなわけです。

一方せっ取した栄養はどうなっていくのでしょうか。私たちは空気

中の酸素を呼吸によって吸い込み（酸素も植物がつくってくれたのです）、それで栄養を体の中でゆっくり燃焼させて二酸化炭素と水にし、そのとき得られるエネルギーで生活をしています。

以上の話は私たち人間を中心に書きましたが、もう少し広げて言うと、動物が植物を栄養とし、それを二酸化炭素と水にして生活していることになります。ところで動物の糞や死がい（そして植物の死がい）はどうなるのでしょうか。これらはバクテリア（微生物）の食料になって、結局二酸化炭素と水になります。つまり無機物に戻ります。

このように見てくると、動物とそしてバクテリアが一方向的に植物に頼って生きているのではなく、植物も動物やバクテリアのお蔭でいつまでも光合成の原料を手に入れることができていることがわかります。まとめると、有機物と無機物は循環し、動物と植物は支え合って生きているのです。ところでこのすばらしい自然のサイクルは一朝一夕にできたものではありません。地球ができてから何億年もかかって地球と生物の進化につれてでき上がったものです。（以上の話は簡単のため窒素の循環などはぶいております。

〔下水処理〕

さてどうも話がそれているのではと思う方がみえるかもしれませんので本題に接近しましょう。家庭排水は今までの話から明らかなようにバクテリアによって分解されます。これを自然の浄化作用と言います。ところが近年人間の数がいちじるしく増加し、都市という過密部分ができると自然の浄化作用がおっつかなくなってきました。これを補う意味で、家庭排水を川に流さず下水として集め、人工的に浄化することが考え出されました。いわゆる下水処理です。

〔活性汚泥法〕

そのやり方は「活性汚泥法」と言います。これは、バクテリアの繁殖した「汚泥」をつくってこれを下水と混合し、空気を吹き込んで（バクテリアも有機物を分解するのに酸素を必要とするのです）。能率的に浄化する方式です。

しかし、現実には下水処理施設が不備のため下水をそのまま川に放流している場合が多くあります。

〔BOD〕

ここで「BOD」という言葉を説明しておきます。これは川の汚れを表わす数値の一つで、有機物による汚れの程度を示すものです。（注意しておきますが、**BOD**が小さくても重金属など別の物質で汚染している場合は本当にきれいな水とは言えません。）**BOD**は生物化学的酸素必要量と言い、バクテリアが有機物を分解して浄化するのにどれだけの酸素を必要とするかという数値です。必要とする量が多いほど有機物が多く川が汚れているというわけです。ちなみに清流と言えるのは**BOD**が2PPM程度であり、王子製紙はその10倍以上も汚れた排水を大量に庄内川にたれ流しています。

家庭排水（その2）

風呂、洗濯用の洗剤

次に風呂、洗濯用の洗剤の問題に移ります。

〔洗剤とは〕

洗剤にはセッケンと合成洗剤があります。セッケンは風呂で体を洗うときなどにつかっているもので、洗濯用の粉セッケンもあります。

合成洗剤は中性洗剤とも言われ、洗濯や台所の油污れなどにつかっているものです。最近界面活性剤という言葉がつかわれるようになりましたが、これは洗剤全体とほぼ同じ意味と考えて構いません。

〔セッケンの利点〕

まずセッケンですが、これは天然の油脂（油や脂肪のこと）からつくりますので、これが下水に放流されても、自然界にはこれを食べるバクテリアが地球と生物の長い進化の歴史の中で沢山育っていますので、比較的早く分解されてしまいます。

〔合成洗剤の問題点〕

ところが合成洗剤は近年になって人工的に合成された製品ですからこれを食べるバクテリアが育っていきません。（プラスチックのような有機製品もこれを食べるバクテリアがいないためいつまでも腐らず、その処理が大問題になっています。）10年ほど前に「ハード型」から「ソフト型」に切替えたからもう大丈夫と言われました。ハードは硬い、ソフトは軟かいの意味ですが、これは洗剤そのものの硬さのことではなく、バクテリアの歯がたたないほど（と言ってもバクテリアに歯などあるはずありませんが）硬いのかどうかというたとえ話でつかわれている言葉です。確かにハード型よりソフト型の方が分解されやすいのですが、やはりセッケンにはかないません。その結果として下水や川が泡立って、ひどいときには風に乗って汚ないシャボン玉が飛ぶということさえ起きています。しかももっとまずいのは洗剤やその泡が水の表面をおおってしまって空気が水に溶けにくくなり、川や下水処理場でのバクテリアによる有機物の分解のスピードが落ちてしまうことです。

また、合成洗剤にはビルダーと呼ばれる添加物が大量に含まれており、その中のリン酸塩は海に流入するとリン肥料の役目を果して植物性プランクトンを短時日のうちに爆発的に繁殖させ、いわゆる「赤潮」になります。

また合成洗剤は、皮膚障害から始まって、催奇性（奇形児が発生する）、発ガン促進性などの各種の毒性が指摘されています。皮膚からの浸透はゴム手袋で防ぐことができますが（合成洗剤をつかうときは必ずゴム手袋をしましょう！）、食器に洗い流されずに付いているものや合成洗剤で汚染した水源をつかう場合など、経口侵入は防ぎにくいのです。

〔セッケンで十分〕

それではこのような公害と危険に目をつぶってまで合成洗剤をつかうメリットはあるのでしょうか。筆者宅では洗濯には粉セッケン、台所の油污れにはみがき粉と「青ザラシ」セッケンをつかっていますが、特に不都合を感じたことはありません。日本の場合は水が軟水でセッケンもよく泡立つので合成洗剤の必要性は少ないと思います。お互いに自然のサイクルなど環境問題も考慮に入れてものよしあしを判断していただきたいものです。

清流への願い

名古屋釣具商組合

間 淵 信 雄

戦前の名古屋周辺の庄内川、天白川水系は何れも清く美しく各種の魚が遊泳し、釣り人のメッカであり心の憩いの場所であった。然し乍らあの勝利なき第二次世界大戦により我が国は焦土と化し、衣食住全般に渡り極度の荒廃状態に陥り、国を挙げて苦境から脱出するための耐乏生活と戦い、ひたすら国力の回復増強に盲進した結果GNPでこそ世界屈指の成長はしたものの化学物質、農薬の過度使用等により公害が多発する事となった。その異常なまでの成長過程においては止むをえぬ事であったかも知れないが、今や勇気を以って過去に犯した公害の禍根を強く断ち切りねばならない。宅地造成、住宅の建造、工場の新設によって排出される汚水により日を追って汚染され昔の清流は望むべくもないがここに於て只手をこまぬいて居ては死の川となるは必定であります。矢田川、庄内川をきれいにする会の人々の活動は本当に住民の願いであり、且つ又日本の願いでもあります。過去の公害を全面的に排除出来なくても今より以上に絶対に汚染させてはならないがより以上に清くしたいと取り組んで居られる事は感謝のほかありません。私共は自らの生活を反省し身近な処から汚染の根源を断ち切り、行政機関にも働きかけて名古屋周辺の河川全般に渡り昔の清流に近い状態に戻したいと心から念願するものであります。

労働者と住民運動

公害対策愛知連絡会議

事務局長 大島 良 満



矢田、庄内川は、こどものころ泳いだり、魚を取ったりした、なつかしい川です。

この川が汚れたしたのは1950年代になってから、瀬戸や東濃地方でガラスの原料や鋳物砂による硅砂を水洗した泥水、陶器工場の排水、宅地の乱開発による土砂流入などで、汚たない川になった。

子どもたちに、この川で水泳の練習をしたと話をして「こんな汚い川で泳いだ」といわれる始末。

この川を昔の川に近づける大きな役割をはたしたのが、矢田、庄内川をきれいにする会の活動です。

「川の汚れは、心の汚れ」の名キャッチフレーズを書いた立看板を資金と労働奉仕を会員が行って各所に建て、「喰えない魚の魚釣大会」をひらくなどアイデアに富んだ数々の活動、県下の住民運動ではユニークな、ピカールの活動をしています。

労働運動のなかで、住民運動にかかわっている私にとって、いつも教えられる点の多いのがみなさんの会の活動です。

これからの活動に心から期待します。

自然保護運動の将来

公害対策愛知連絡会議

副会長 野呂 汎（弁護士）

私はこの2、3年の間に原子力開発の実態調査のため、欧米各国を視察してきま

したが、これらの国では多くの自然保護団体が活発に運動を展開していることを知り興味をもちました。

これらの運動は、最初は少数の人々による自然保護キャンペーンにはじまり、地道で息の長い活動を続けてゆくなかで、次第にメンバーの数をふやし、活動資金を豊かにしながら、やがて、自分たちの力で、保存すべき景観、歴史的資産を買取ったり、管理権をもつようになりました。

さらに、政府・自治体に働きかけて、自然保護のための種々の規制立法を制定させたり都市計画に積極的に参加したりして、一国の環境保護のあり方に大きな発言力を持つにいたっています。

これらの国々では、外にも、民間、公共事業のもたらす公害の予防、反対を目的とする多くの住民運動あるいは、市民生活の様々な要求を実現しようとする市民運動がありますが、その主要なメンバーには、こうした環境保護団体が、団体として加入し、その会員が、中心となって活動をすすめています。環境保護団体の活動が、すべての運動の原動力であり、時には裁判の原告となって、裁判所を動かすほど、その社会的存在は大きく評価されているのです。

わが国ではどうでしょうか。日本でも、野鳥保護、原生植物分布調査、天然記念物保護など幾つかの自然保護運動団体がありますが残念ながら今のところ、諸外国にみられるような活動はみられません。その活動の多くは珍鳥名木を守るための調査、視察にとどまり積極的に保護のために政府、自治体に働きかけたり、運動の輪を広げるまでに至っていませんし、そのリーダーが、他の住民運動のリーダーになっている例もありません。

その原因として、私は、1960年代にはじまるわが国の爆発的な公害発生の場合と、これに対応して発生した反公害住民運動との関連が指摘できるのではないかと思います。

御存知のとおり、工場排水、排煙など主に産業廃棄物のたれ流しに始まり、振動、騒音などの交通公害、食品・薬品など消費面の公害にまで広がっていったわが国の

公害は、その後の10年間に、日本全土を覆うようになり、人々の日常生活はもとより、人の身体・生命・健康までも侵すにいたり、深刻化しました。

このため、公害の被害者は、各地で支援の人々とともに、反公害住民運動を起し、四大公害訴訟など多くの裁判闘争および発生源企業との直接交渉、国・自治体への要請行動等々多様な活動を展開しながら、被害の完全救済と、公害の根絶にむけての壮然な闘いを続けてきました。

そして、公害裁判勝利、公害規制法、被害者救済法の制定・改正、公害行政の欠陥と、数々の成果をあげた結果、1970年代後半になって、ようやく爆発的な公害の発生だけは押えこむことができたわけですが、こゝで人々は、こうした運動にひとつの反省と課題を見つけたのです。

というのは、公害の発生とその拡大が、あまりにも急激であり、その直接的な被害があまりにも深刻であったため、反公害へのとりくみは、いわば対廃棄法型とならざるを得ず公害の発生を未然に防止する事前予防にむけての積極的活動は、必ずしも十分でなかったとの反省です。

公害の発生は、すべて先づ自然環境、生態系など、人の生活をとりまく環境の破壊から始まるのですから、自然保護活動の視点を、公害予防との関連でとらえることは、きわめて重要であり、効果的であるはずですが。

ところが、これまでの反公害運動には、自然保護をこのように考える余裕はなく、自然保護運動の側にも、公害予防という接点で、反公害運動との連帯を強める活動はなかったということができます。

こうした反省にたつて、この数年間、環境権、入浜権といった環境保全の要求と、権利にまで高める提唱が相つぎ、これをうけて、住民運動のなかで、これを実践づける活動、例えば環境アセスメント制度へのとりくみが強化されつつあります。

環境（自然環境はもとより、社会的、文化的、歴史的な環境もふくむ）の現況を正確に把握し、その保全のもっとも適切な手段を考え、これを実現させる具体案を

提言することにより、環境の破壊、ひいては人の生活、健康の破壊を早期に防止するに役立たせること、これこそ、まさに、今日の自然保護運動に課せられた役割といわねばなりません。

皆さんの会が矢田、庄内川を愛し、昔のきれいな水系にもどすために結成されたという動機、およびその後の種々の活動は、それなりに評価に値しますが、単に自然にたいする郷愁にとどまるとすれば、従来の自然保護運動の限界内に位置づけられるに過ぎないのではないのでしょうか。

矢田、庄内川を汚した原因をさぐり、汚染のメカニズム、実態を研究・調査し、その回復の具体的な手段・方法を検討する等もぜひ会の主要な活動内容にとり入れるべきだと考えます。

わが国河川の荒廃は、自然の寿命によるものでなく、必ず、それをもたらした人為的原因が明らかです。したがって河川の浄化のためには、汚染の元凶をつきとめ、この責任と費用でもって実現させることが可能であり、必要です。

そのためには、皆さんの会が、活動の成果を、同じ目的で運動をすすめる他の団体相互で確かめ合うと同時に、さらに成果を実現するため、周辺の各種の住民運動団体に呼びかけ要求行動を展開すべきであって、その様式がときに「たゞかい」の形をとることがあっても回避してはならないと考えます。

とくに、矢田、庄内川のように大都市を貫通して流れる河川の自然保護運動は、河川の自然回復、保護にとどまらず、その流域で生活する市民多数の生活環境を、健康にして快適な、住み良い環境にとりもどし、保全する運動に直結するだけに、皆さんの運動は、きわめて重要な、課題を荷っているといわねばならず、課題実現の戦略・戦術が問われているケースということができます。

自然保護運動こそ、環境保全・公害防止の原点であり、強力な原動力であるとの自覚に立って、同目的のもとに結集する住民運動の要となって活動を充実されるよう強く期待してやみません。

健康と環境を守れ

「健康と環境を守れ愛知の住民 一斉行動デー」

実行委員会事務局 伊藤 栄



愛知県下には全くあらゆる公害がひしめいているといっても過言ではありません。大気汚染では南部臨海工業地帯を中心に約6500名(79年1月現在)の公害病認定患者を数え、窒素酸化物における大気汚染は全県に広がっています。また、名古屋市医師会の調査によれば主要道路近く(100メートル以内)に住む園児・学童の2人に1人が何らかの呼吸器症状を訴えるという深刻さです。水質汚濁については、県下全ての河川が重金属、工場排水、家庭排水等により汚染され、変形魚は慢性的な状況です。また、伊勢湾は海水汚染により高富養化がすすみ赤潮被害を聞かない年はありません。

騒音や振動の面では、新幹線公害や名古屋空港周辺のジェット機騒音や振動、岡崎国道1号線沿線の騒音、振動とこれまた全国的にも深刻さが問題となっています。その他、スモン病をはじめとする薬害被害、カドミによる水田汚染、全国有数の野鳥の園としての干潟を大企業のために埋立てて自然を破壊する問題など、まさに公害のルツボ愛知県といってよいでしょう。

これらの公害、薬害、自然破壊に対して多くの住民運動が生まれています。しかし、公害・薬害を本当になくす、自然を守りぬく、破壊された健康・自然を回復するには気の遠くなるほどのネバリ強い運動の継続が不可欠です。実際、いくつかの住民運動が目的半ばにして挫折しました。孤立した運動は、ともすれば絶望感や焦燥感におそわれやすく運動を続けることが「シンドク」になりがちです。一方、一つ眼を見開いてみると、公害・薬害、自然破壊が共通の根をもってひき起されていることに気がつきます。

それは、高度経済成長政策としての大企業最優先、国民生活無視のやり方を基に、それにより引き起されたものであるということです。それはまた、現在も基本的にかわってはいません。

このような点から考えれば、住み良い愛知をつくるためには、住民運動が横に手をつなぎ、今まで相手に出来なかったような根源的な部分に働きかけ、より強力な運動を展開する、また、経験交流の中で、ともすると孤立感におそわれる点を排除し運動を進展させなければならないのではないのでしょうか。

そして私たちは今、過去2回の取りくみ(「健康と環境を守れ、愛知の住民いっせい行動デー」)を通じ、その必要性、すばらしさを、更に具体的成果を勝ち取って来ているのではないのでしょうか。みんなの力で更に発展させましょう。

医療機関から見た健康とは？

北診療所 事務局

「庄内川、矢田川をきれいにする会」が発足し、5年のあゆみをされたことにお祝い申し上げますと共に、健康を守ってゆく同じ仲間として、固い連帯のご挨拶を申し上げます。

豊かな街づくりは、或る特定の人が行うとか受身的にしようとしても、それは成功するものではありません。誰にも束縛されない自主的参加と共同の意志が必要で、そこにはいわば、民主主義の基本理念があつてこそ前進するものです。

北医療生協は発足して以来12年余、現在組合員は2,700世帯になりました。この間大企業本位の高度成長による国民の健康破壊に抗し、働く人々が自らの力で健康と暮らしを守るために、お互いに資金を出し合つて医療機関を運営してきました。

日頃、病気にならないように、予防、保健増進活動に力を入れてとりくんでい
る。

隣近所の10～15世帯が集まって班をつくり、定期的に健康状態を調べたり、
保健学習を行いながら、生活改善を専門家の協力を得てすすめています。

最近では健康を守るというより健康をつくるという考え方に発展し、体力づくり
のためのスポーツや環境点検にも積極的にとりくむようになりました。

健康な体づくりのためには、健康な街づくりが必要です。そのためにはみなさん
を始め多くの人々と手を結んで明るい街づくりのために寄与したいと考えています。

共に頑張りましょう。



よみがえる庄内川の自然

名古屋女子大学教授

廣 正義



庄内川は岐阜県恵那市岡山町地内夕立山(727m)の中腹に源を発し、佐々良木、小里、妻木川など多くの支流を集め、多治見市の郊外より山峡を流れ下り、春日井市高蔵寺付近で濃尾平野に入っている全長約96kmの一級河川である。この川は、平野部に出た後、内津川、八田川、香流川および最大の支流矢田川などを合わせ、名古屋市西部を迂回し、河口部で新川と合流して伊勢湾に注いでいる。名古屋市内やその流域の住民にとっては、わずかに残された自然であり身近な数少ない憩いの場である。戦前の庄内川を知るひとは、かつては緑の土手に釣り糸を垂れ、清流に水泳を楽しんだ思い出の川であるとともに心の古里でもある。しかし、戦後の高度経済成長、名古屋市を軸とする都市の発展はこの川をめぐる自然とその生態系を著しく破壊してしまった。その顕著なものは、上流部及び矢田川流域での陶土採掘、窯業による水質の白濁、悪臭などにより「死の川」として隅田川、淀川下流とともに典型的な都市河川の様相を呈していた。私達は市内に住む自然科学者として、この「白い川」「死の川」を何とかよみがえらせたいとの願いをもち、汚濁の最も激しかった昭和44年・45年頃より生物の面から水の汚れの実態を把握するため度々調査を行ない、その結果を新聞や学会で発表してきた。魚類の面からその推移をみると、その当時(昭和44年)は水分橋より下流一色大橋付近まではフナ、カムルチー(雷魚)、メダカくらいしか生息が認められなかった。また川の生物相の安定度を測る目安とする造網型のトビケラ類は全く姿をみせず、これに代ってドブにすむ赤色ユスリカやイトミミズのみがすんでいた。また枇杷島橋付近はヘドロの堆積が多く普通の方法では水際まで行くことすら困難な状態であった。その後昭和

48～49年に建設省の依頼により、この水系の生態系の実態調査を行なったが魚類の面では名古屋市内の水域で、15種の生息が確認された。しかしこの時点では天然アユの生息は確認できなかった。しかし「昭和51年9月矢田川、庄内川をきれいにする会」により大型の天然アユが採捕されている（昭和51年10月6日毎日新聞）。その他、川の瀬には石や礫のみられるところもあられ水生昆虫のトビケラやカゲロウなどいわゆる瀬虫類がかったのユスリカ、イトミミズと入れ代わって出現するようになり、水分橋より下流での異臭も漸時減少しつつある。さらに昨年度（昭和52年）より実施している名古屋市公害局の市内河川生物調査では庄内川水系の市内水域では17種の魚類が採集され、この中にはソ上アユ、ウナギの稚魚が枇杷島橋で採捕された。これらの実態からみて最近の矢田川、庄内川は確かに浄化の方向に進んでいる。これは「矢田川、庄内川をきれいにする会」の皆さんのご努力、行政の指導、企業側の自粛等による総合的な努力が実を結んだものである。しかし、まだ手ばなしで喜んではいけない。今後更に皆さんの努力によって安心して食べられる魚のすみ得る川。水浴を楽しめる庄内川にしたいものである。

教育に心を //

ひまわり幼稚園副園長

荻須 あつ子



文明科学の進歩と共に自然は破壊され、人間愛や情緒は徐々に消滅されて、地球社会の終末が近づいているようで、一抹の不安と淋しさが胸をこみあげてくるこの頃である。

一枚の木の葉、一握の情をも顧みられなくなった人々の住む社会を、成り行きとして、静観していてよいものであろうか。起こるべくして起こった事であると肯定

し、社会悪として葬っておいてよいものであろうか。幼い子どもの教育を預かるものの一人として、不安定な落ち着かぬ日々を過ごしている。幼児期のしつけは、人間の一生を左右するものであり、言葉の上のみでなく、美しい音楽、事象に対して自己の感覚で受けとめ感動して、頭脳の一部として構成されるものであると、考えている。“云うは易く、行うは難し”とよく言われるが、自主性を持って行動出来る子どもでなければ、今後の国際社会を担うことは不可能である。

しばしば海外旅行で教えられる事であるが「自然を愛し、樹木を可愛いがる。」「道路や河に物を捨てない。」等々、他人に迷惑をかけない心や、古い伝統を大切に自国を愛する心に感動させられてきた。幼児期に経験した事は、成人しても身につけているもので、社会で忘れられている子どもの純粋な心を、大人になってからも身につけておいてほしいと願っている。そのような願いをこめて、私たち、ひまわり幼稚園は、「矢田、庄内川をきれいにする会」に、4年前より参加してきたわけである。

我々は、幼い頃のなつかしい思い出に、しばしば時を忘れては、満たされない心の充実するたのしさを味わうものである。自然に恵まれた環境で、四季折々の花にめぐりあい、素足で味わった川底の小石の心地よさと、手づかみで魚とりをしたときのよろこびは、忘れ得ぬ宝物である。

しかし、現代の子どもたちをとりまく環境は、自然の破壊によって悪化し、様々な社会問題となってきた。環境破壊を少しでもおしとどめ、子どもの中に、自然に対する素直な感動の心を育てるため、今後も「矢田、庄内川をきれいにする会」に参加し、21世紀に向けて、国際社会に対応できる子どもを育てあげていこうと決意を新たにしている今日であります。

下水処理場見てあるき

矢田庄内川をきれいにする会

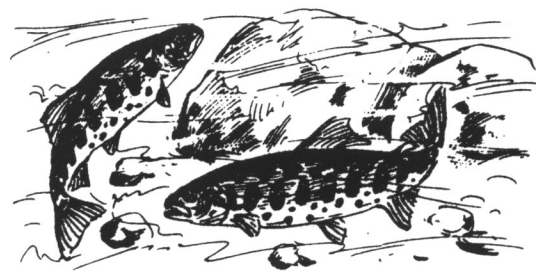
事務局長 宮田 照由

矢田川左岸の三階橋下流付近から北の方を見た時、近代的で豪華なホテルか客船の様な白い大きな建物に御気付きになると思います。私の見学した守山下水処理場がこの白い建物なのです。53年4月に運転が開始された処理場は守山区民にとって悲願でもありました。白い建物の中に入った私は、初めに管理室に案内されそこで働く人達の少なきにおどろきながら沈砂池、ポンプ室、エアレーションタンク等の汚水処理のしくみなどの説明を受けながら見て廻りました。それはさながら地下の秘密工場と言ったふんい気です。化学的な事がらに弱い私には色々と参考になる意義のある一日でした。守山下水処理場は守山区の一番低い場所に建設され、立地条件的にも自然の理にかなった処理場と言えるでしょう。守山区内には大きな工場などが少なく、水質などの面でも基準以下との事です。又将来第3次処理の出来る計画がされており、名古屋市内の処理場の中でも最も安心できる施設だと言えます。又建設に当っては地元住民との会合が数多く持たれ住民と行政とが合意のもとで建設された処理場として1つのモデルケースとさえ言うことができるでしょう。

しかし今もなお下水処理場建設に多くの住民の方が反対運動を続けています。境川流域下水道、木曾川右岸流域下水道、又五条川等がその代表と言えるでしょう。住民運動と言えはすぐに反対反対と行政に逆らい、住民エゴだと感心のない方がたくさんいると思います。「下水処理場さえ作れば水はきれいになる」私たちはそんな考えを持っているのではないのでしょうか。守山下水処理場は処理区域の中に幸い大きな工場などがあまりありませんが、数多くの反対している地区では自然の理にもかなわないやり方で行政側の方がゴリ押しの様にさえ思われることがあります。現在の処理場は活性汚泥法で工場排水（化学的物質等）はもちろん私達が日常洗たく等に使う合成

洗剤なども処理する事ができません。

私達を含めて一般の皆さんがもっともっと住民運動を理解していただけるのなら、近い将来庄内川にも境川にも、多く川に魚たちの観喜の声が大きく私達の耳に聞えてくるでしょう。



昭和53年(1978年)9月10日(日曜日)

加藤 はる代

“私共宮根学区は周辺部と言うこともあってか51年現在未だ下水道の計画は白紙の状態です。

地形的にはバス路線をはさんで、高台と低い土地に分れ、少しの雨でも高台からの水が低地にあふれます。又低い地域の側溝は、こうばいが少いため流れが悪い上数多くの浄化槽の排水で水質が悪く、悪臭や蚊の発生が多くなっています。

こうした状況の中で地区の住民は少しでも衛生環境を改善しようと側溝や道路の清掃、雑草の刈取りや殺虫剤の散布などの地区活動を行っておりますが、これにも限界があります。

市の短期計画では「千種区は上下水道がおゝむね完了している保健衛生の面からも区全体を通して全市平均を上まわっている」と表現されています。

同じ千種区の中にも他の地域とくらべいちじるしく環境整備のおくれている地区のある事が 何ら配慮されておられません、何とぞ宮根学区の様に、地形的に不利な条件にある地区に下水道計画の早期実現を要望致します、これは50年度千種保健委員会から市の保健委員会に提出した事項の一部です 今宮根小学校の上に千戸近いマンションの地ならしと、東に中学校の完成も近く、おそらく浄化槽の排水は側溝を通して香流川へ流されるでしょう。

“公共下水道なき都市は 地上にいかなる文化施設を持つもそれは「スラム」である”どこかできいた言葉である。

香流学区宮根学区の下水道の完備なくして 香流川、矢田川を美しくする事は出来ないと思います。

今後下水道完備と言う大問題を 宮根学区全体の問題としていきたいと思っています。

下水処理場作業ミス 植田川魚浮く

九日午前六時三十分ごろ、天日、名東両区を流れる植田川で、フナなど数千匹の魚が浮いているのを通行人が見つけ、県警へ一報通報した。

天日、名東両保健所と市公害対策局の調べによると、魚は名東区馬町三の市下水道局西山処理場付近から下流四キロにわたって死んで浮いており、同処理場から事情を聴いたところ、下水処理の際に誤って大量のカセイソーダ液(二酸化硫黄液)を投入、同処理場から強アルカリ性の排水を植田川に流したことが認められた。

市下水道局の話によると、西山処理場では、カセイソーダと硫酸鉄を利用した処理の試験を行っているが、同日朝に酸性の強い汚水が処理場に流れ込み、作業員が中和作業中に、pH(水素イオン濃度)計を点検し、必要以上のカセイソーダを投入してしまった、という。

会員としての希望提案

竹内久雄



以前より庄内川の水の色がきれいになった事はだれもが認め喜びを耳にしております。加えて下記事項に就いて関係各行政局並びに諸団体に善処方提言いたします。

1. 草刈りについて

河床及び堤防の草刈りが毎年「トラ刈り」（一部昆虫保護の為を除く）状態に終り、予算が少ないとは言えいかにも残念に思います。適切な御配慮と計画をお願いします。

1. 立て看板について

各学校のPTAその他団体等による立て看板は殆どが「べからず」看板であり、その意を得ず（不親切不適格）通り一辺主義に終り残念に思います。立てる意義により文と場所の選考に統一的な御指導をお願いします。

1. 犬の放糞並びにゴミ捨てについて

愛犬家の朝夕の犬の散歩が多くなり、犬糞の後始末や堤防の通行者（マイカーに乗る人）及び付近住民等によるゴミ捨て場化している所が見受けられるが犬糞と共に不衛生極りなく一層の責任処置の義務づけ等の御指導をお願いします。

1. 生活排水について

川を汚す原因に生活排水が大きな位置をしめております。その解決策として各所に下水道が完備されつつあります。しかし行政の違いにより放置され不信をいづく住民もあります。縄張りの行政を改め行政の谷間の地区にも一日も早く下水道の着手に努力して下さい。

それがとりもなおさず庄内川、矢田川をきれいにし、かつ受けざらである海の汚染を防ぐ最大の手段だと考えます。

暮らしと運動

阿部信一



私は東北地方の、山と溪流に恵まれた 緑濃い温泉町で育ちました。その頃私の町には水道は無く、裏庭の小川で朝夕顔を洗ったものでした。飲料水には、裏山に湧く、通称「お茶の水」と昔から語りつがれた泉を用いていました。ほんとうに清麗な、また美味しい泉の水です。

瓶と桶をもって1日1回、この「お茶の水」を汲みに行くのが私の幼い頃の日課でした。

郷里を離れて12年、その山河の美しさ、また川の水の清麗さを忘れ去ることは出きません。が、今では、都会でも、田舎でも、きれいな水を見たり、またそれに触れたりすることも出きません。

時の流れと共に自然環境は、破壊され、川は濁り、生命は危険にさらされています。生命を守る大切な飲料水も河川から引き込まれ、水道として使用されています。

私達は生命あるかぎり、自然と資源に感謝しなければなりません。川をきれいにすることは、生命を守ることであり、生命を守るためには、資源の大切さを知らなければなりません。

私達が今、生活している環境を眺めるとき、空気は汚れ、空はスモッグ、また、川は灰色に濁っています。私達が汚した環境ならば、私達がまた社会全体が真剣に考え、改革しなければならぬと思います。明るい社会造りに一人一人献身することが、明るい地域を作ります。私達の身の回りから運動を進め、参加し、実行することが明るい社会を築き上げると思います。

理論よりも自主的な実行活動、実践が何よりも大切ではないでしょうか、私は、自

分なりに考え「矢田、庄内川をきれいにする会」の趣旨に賛同して、自主活動を進めてまいりました。その中で一つの運動を起すためには、理論も必要ですが、ひとつひとつ実行してゆくことが大切であることを体験的に知りました。東北出身の私は矢田川、庄内川の以前の姿は知りませんが、会の活動を通じて、川の附近に住む人達の川についての想い出や 浄化を願う数多くの心を知りました。運動とは字に書くが如し、足を運び、からだを動かすことと学びました。

「川の汚れは心の汚れ」の標語の願いをこめて、日々運動し、一步一步前進してきました。矢田、庄内川に清流をとりもどすために 忍耐強く努力しようと思います。最近庄内川の川べりで、数十羽のカモメが小魚を取り、飛び回る姿を見ました。少しづつ自然の姿が戻ってきているように思われます。今後とも、私達の会の活動を支持して下さる市民の方々とともに、考え、行動し、連帯して、河川浄化運動を粘り強く進めたいと思います。

新婦人ときれいにする会

古川 錦子

私達(新婦人)川西、米ヶ瀬12名のグループは、明日を少しでも楽しく、明るく、生きがいのある毎日にしよう、と一つの班を持ってすでに5年余り、1ヶ月に一度集まって話し合うのは、子供の教育、健康、老後、仕事、旅行、趣味、物価の事から政治まで幅広く時々を勉強しております。そんな中で子供の為に健康で明るく住み良い世の中だろうか「私達の子供の頃はすき通ったきれいな川で泳いだり、魚をつかまえたり楽しかったけれどねえ」「今時そんな川はよっぽど上流へ行かないとお目にかゝれないわね」「第一近くの川を見ても分る通り悪臭で顔をそむけて通るような現実だものね」と厳しく現実を見つめるのでした。このような時、私達の地域に下水処理場建設問題と合せ、川をきれいにする会が発足する運びとな

り私達新婦人にも呼びかけられましたのでこれこそ私達がいっしょに運動を進めるのに大きな味方を得た思いで両手を上げて賛成したのでした。それからは、川を汚さないように無公害洗剤を使う、それは、はからずも家族の健康にもつながる事を地域の婦人にも呼びかけて学習会をしたり、釣大会のバザーに参加したり、救護班になったり、接待係をしたり、他の団体などに呼びかけてパッチを広げたり、こつこつとした運動ですが一日も早くきれいな川にし、子供が安心して楽しく遊び、釣りも出来るように努力してゆきたいと思います。

矢田川と共に ………

山岡 三夫

矢田、庄内川をきれいにする会創立以来私もその会員の一人として川のよごれは心のよごれをモットーに微力乍ら丹羽会長と心をつなげて活動して参りました。そもそも私と矢田川との出会いは昭和2年私が故郷の三重県美杉村を出て名古屋に職を求めて来た時からですのでかなり昔の事です。北区山田北町を始めとしてその後三階橋北際、天神橋北、現住所守山字間黒と、私の一生の大半を矢田川と共に変遷矢田川と共に生きてきたようなものです。昔の矢田川と現在の矢田川とは比較になりませんが、昔の矢田川には四季それぞれの風情をうつす流れは清く、子供等の水遊び、魚とりなどと、名古屋市民の心のなごみ風景も見られました。高度成長期の近年濁流と廃棄物のよごれきった川になり果ててしまいました、しかし丹羽会長の献身的な御努力と私達会員の運動と本市市場の御協力によりましてこの頃ではたいへん流れもきれいになり、行政行き届いた配慮で川床河川敷なども整備され公園、遊園地、運動場などと一新されました。今一つのところまで来ています。革新政府の中で京都加茂川の水が清い流れに変わった様に、一日も早く矢田川の水が昔の澄みきった水の流れになります事を心を念じながら今後もこの運動を進めて行くつもりです。

川

鈴木久子

川、川この字程親しみやすく、小さな子供達にも一番早く覚えられる字ではないでしょうか。

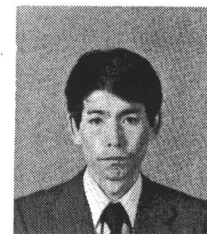
私は矢田川と庄内川に囲まれた米が瀬町に30年近く暮してまいりました。思えば我家の息子や娘達がまだ幼なかつた頃は、毎日の様に川に行き遊び廻って、親の知らない間に少しずつ泳げる様になったものでした。そんな川も何時の間にかだんだん見た目にも汚れが目立ち、学校からも「川に入るな」と注意ができました。どうしてなのか当時はあまり考えないで時がすぎ、気がついた時には死の川となり、公害問題としていろいろとりざたされ新聞にも出る様になりました。

「これでは魚も住めなくなる」と近所の方達が集まり話し合いをされて「矢田川、庄内川をきれいにする会」ができ私も入れて頂きました。その中で工場からでる廃液の量や家庭からでる合成洗剤の液が川を汚していると知り、これは大変な事だと思いました。

橋の上から川を見ていると、水は一秒なりとも休む事なく、川下に流れて行きます。生有るものは水が無くてはどうしても生きられないものだとつくづく感じ、私達はその水をいろいろに利用し毎日の生活を営んでいるのです。

今川は夕日を受けて、遠く細くのび、きれいになるのを待っているのです。そんな川辺をながめながら、早く食べられる魚がスイスイと帰って来る日を願って家路につきました。

会員として思うこと



岡田陽三

戦前の川は水も、岸辺の草木も、そして大気も澄み渡り何もかも自然のまゝで、とてもきれいでした。少年期に矢田川庄内川で魚を取ったり水遊びをしたり、又ある時は砂辺で相撲を取るなど数多い楽しい思い出と共にスクスクと育った私は本当に幸せでした。それを大人になって私達が汚し半死半生の川にしてしまいました。原因はどこにあったにせよ大きな責任を感じない訳にはまいりません。声を大にして申します子供の頃庄内川で楽しく遊んだ皆さん力を合せて自分達の子供のために矢田川庄内川を元の自然に還そうではありませんか、それが私達の義務であり生涯を賭けても悔いのない大事な仕事だと思うこの頃です。

会に入会して



近藤正子

私が矢田、庄内川をきれいにする会に入会して早くも4年になります。正直いってまだまだ皆さんの足手まといになっているほうが多いようです。これまで会の活動に参加させて戴いて自然に対して私達がいかに身勝手にふるまってきましたか、そしてそのツケが結局は私達のところに廻ってきているんだと云うことを知りました。河川の汚れに対しても、以前は無関心に過してきました。最近では毎朝通勤途中で渡る三階橋、水分橋に立つ、川の汚れは心の汚れの看板にお早ようと声を掛け

るこの頃です。

さて住民本意で市民参加の市政をと提唱される本山名古屋市長さんと看板を立てたり、桜の植樹を御一詣したりしたことが良い思い出となりましたのもきれいにする会の運動に参加させて戴いたおかげで御座います、食べられる魚の住む川であってほしいと念じながら今日も橋を渡って帰路に付く私です。

事務局員として

宮田 明美



この運動を始めてはや5年、事務局員として活動してきた私が今痛切に感じている事が一つあります。それは住民運動と行政のつながりです。

かって住民運動と言えば、行政にたてつくものだと思われてきましたが、幸い私たちは名古屋市の協力をえる事ができました。行政は常に住民の声を聞き、住民の中にとけこんでこそ本当の行政が行なわれるのだと思います。

庄内川を一日も早くきれいにするには、行政を司る議員の方に庄内川の水につき、庄内川の魚を口に入れて、庄内川の実態を知った上で今後の行政に役立てて頂きたいのです。そのために私達の催のたびに数多くの議員さんを庄内川に招待してきましたが、積極的に庄内川を見つめ、私達の運動に協力して下さった方は田中美智子さんだけでした。この事を大きな声で言うとき「きれいにする会は共産党だ」と非難する方がありますが、私達の運動はその様なものではありません。

以前私は名古屋市の教育委員会の依頼で、つたない文章ですが「婦人ボランティア実践集」に寄稿した事があり、各学校・図書館等でごく一般の方に読まれ子供達の教育の場にもつかわれています。

昔庄内川で遊んだ人達、今庄内川で遊ぶ人達、そしてこれから庄内川で遊ぼうと

する人達、その数多くの人々が庄内川をきれいにと純粋に願っている中で党派の別は関係ないと思います。今まで庄内川を見つめなかった議員さん達、白濁の川庄内川が少しずつ確実にきれいになっています。今手をさしのべなければ庄内川は又もとの白い川となるでしょう。

行政と住民運動が一がんとって庄内川の白濁に立ち向う時、白い川が本来の清流にもどる日も近いと私は確信して活動を続けています。

壁に向って

小川 博



人生で一番大切なものは命でしょう。「三界に家なし」とか「五尺の体おきどろなし」など、云いますが、空も水も土も皆毒だらけになってしまっ、本当に「三界に家なし」です。毎日の食事までも公害を心配しないでは食べられない世の中になって、これではなんとかしなくてはと思わざるを得ません、大変なことです。

人生は自分一代で終わるわけではなく、また独りでも生きてはゆかれませんが、共に生きるのが人生です。「昔はきれいで、川へ入って遊んだものだ」と云っても、私達の世代の川は汚れています。人口が増えて、少しずつ汚した結果が集積されて、生きて行く人の命にも、かゝわる程に、気がつかぬ間に汚されてしまったのが、今日の環境です。海の水はきれいなものと思っていたのに、いつの間にか汚れて、所によっては悪臭がする程にも汚れて魚など生と生けるものは一つも見えない程の海もあります。河川が汚れたために海が汚れたのです。海は流れる水の終着駅ですから、こゝに汚れが溜ったら、どうにもなくなるのは当然です。

それならどうすれば良いのでしょうか。汚れてしまった地球を元にもどすのは、それはそれは大変なことです。「これからは少しも汚さない」と云う覚悟が大事だと

思います。それは今の世代の吾々の責務であると考えます。他人ごとではなく、各自が責任を負ってゆくべき事だと思います。

「自然に汚れた」「知らぬ間に汚れた」と言う事は、知らなかった、無知だったと云うことで残念なことです。

中には利潤を追うに急なあまり他人の事など考えずにやっているもの、或は、これでは公害が発生すると知りながら、やめるにやめられずに続けている事業すら幾多あることも事実ですが、よく方策を建て、公害の実体を研究して「よく知る」と云うことが急務だと考えます。

公害の実体を知る、それには幾多のことが考えられますが、要は、どんなことでもトコトン迄も突きつめて知る、理解することにあります。矢田庄内川をきれいにする会の目的もここにありと考える。

昔をなつかしがり、思い出を追うばかりのロマンに溺れる盲者であってはなりません。

知る事は愛することにあります。自分の環境を護ることは自分だけの為めではありません。川を愛する吾等は川の自然を守る義務があります。其の自然を保護する基本的な概念とはなんでしょうか、それは、

第一に自然保護精神の高揚、公德心の向上であります。

条例、公害防止の協定、或は立派な法律が、いくら出来ても、それが守られなければ問題外です。企業利潤追求のあまりに自然破壊があっては、永久に公害はなくなりませんからこれを防止排除するためには、企業に自然に対する公德心の向上を求めなければなりません。

第二は自然環境の保護とこれを強化することです。

「命あってのものだね」と云いますが生きるために一番大切な空気中の酸素を供給してくれるものは「緑」であり、それは植物からのおくりものですから、これを大切にしなかったら罰が当たります。

今の世の中は公害・汚染ばかりです、この世に生きて行くためには、公害と真正

面から突き当って其の実体を知ると云うことが大切です。それは多くの面があつてなかなか手も出ない程の大事ですからどうしても多くの人数で衆智を集めてそして手わけして、と云うことになります、これを吾々が今やろうとしています。

私等は公害防止の先峰たらんとしています。良き強き先峰たらんとするには、あらゆる知識が基になりますから、これを集めることこそ急務であり、それを考えると一時もヂツとしていられない気がします。

川を知る為めには、水源、中流、下流と広範囲なことがあります。これを取まく流域の生活も知らなくてはなりません。即ち川に対する全体を知らなくてはなりません、それは身にあまる大仕事であります。誰かがやらねばならない問題なので、手分けしてやるべき問題だと思いますが、大きな壁に勇敢につき当るのも幸の一つであると思います。

要は、よりよい環境に生きると云うことは生物本来の基本権である筈ですから、このことを常に基に考えて、矢田庄内川水域の諸問題に取り組んで行きたいと考えます。

インベーターを絶滅せよ

堀川泳魚

人間が生きていく事はたいへんな事なのです。そう、この世の中はそんなに甘くはない事をみんなはよく知っているのです。だから街で会えばタテマエ上の話がよくできて、みんなすごく立派な人になってしまう。でも一人になると人間は弱い生きものだから本音の中で動いてしまう。「自分の所だけは街や川にゴミを捨てていない。」なんて考えるヒマがない位、水たまりがあればタバコをポイ。車に乗ったら空缶ポイ。近くに川があればゴミをポイ。ポイポイ人間になっている。私は、

このポイポイ人間はある星から来たインベーダーじゃないだろうかと思う。そうあのUFOに乗って来て、人間の格好をしたこわいこわいインベーダーじゃないかと考えてしまうのです。なぜならこの私、昔の美しいはずである地球の(大きすぎますね)街の中を汚してみんなをこわいこわい病気にさせて、地球滅亡をはかっているのではないかと、その使命をになってきたインベーダーの仕わざではないのか！そして街の中を清掃している人達はきっと祖国いや地球を守る為に国連からの命をうけたゼンダマンではないだろうかと思うのです。そうしてじっくり考えてしまうともう地球は完全にインベーダー、ポイポイ人間に乗っ取られているのです。

だってあまりにもゴミをすてる奴等が多すぎる。

ああ、気がつくのがおそかった。しかし今でも間に合うかもしれない。どうする、どうしよう。解決策はあるか？あった。みつけたのだ！これで地球が救われると思うと涙がとめどもなく流れた。イエスよ、よろこべ、大平さんもよろこべ。ポイポイ人間から地球を守るには全員がゴキブリホイホイを持つ事だ。そして街でゴミを捨てる奴がいたらあの神秘魔力を持つと言われる三角形のホイホイをそいつの鼻の前へつきつけてやれ。目をそらしたらまぎれもないインベーダー。即座に右のポケットから塩をとりだし奴の全身にかかるようにパアーツと塩をかける。本物なら見ているうちにとけてゆく。ザマーミロハハハ。勝った。そうです。こんなつまらない妄想をいだかせるのもあまりにもゴミが多すぎるからなのです。

「一人一人がやろう！」なんてのはダメ。まずは自分からだ。

さあー立ち上がろう！友よ。

